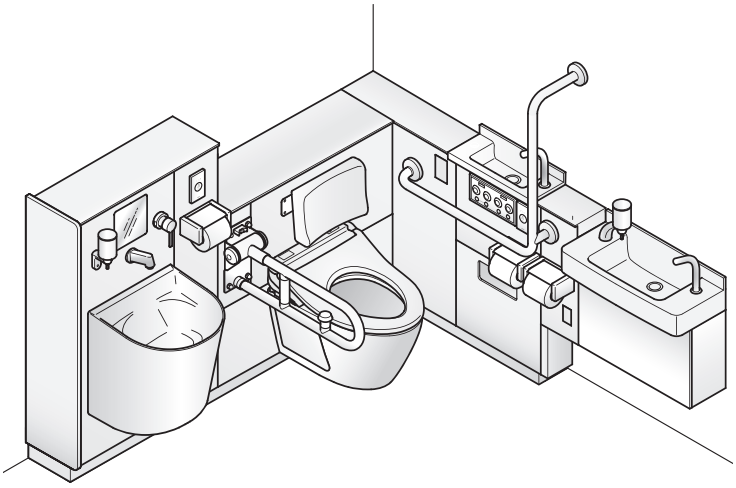
TOTO

施工説明書

コンパクト多機能トイレパック

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
本書は右勝手の場合を基準に説明しております。本書に記載の寸法の単位はmmです。



※ イラストは右勝手の場合です。

情報編 3

1. 安全上のご注意 4
2. 取り付け前のご注意 6
3. 部品の確認 11

手順編 25

・イラストはコンパクト多機能トイレパック(壁掛タイプ)ウォシュレットアプリコット・AC100Vリモコン(別売品)付です。
・大便器は床置タイプもあります。

工事店様へ

□取扱説明書の最終ページの保証書に必要事項を記入し、必ずお客様にお渡しください。
また、使用方法も説明してください。
手渡しできない場合は、工事完了後目立つ場所に置いてください。

情報編

1. 安全上のご注意 ▶4

2. 取り付け前のご注意 ▶6

1 全体構成 6

2 全体寸法 8

3 必要工具・部材 9

4 取付下地の確認、固定材の準備 9

3. 部品の確認 ▶11

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

警告	誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

	してはいけない「禁止」の内容です。
	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

警告

禁止

修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない
火災や感電の原因となります。

アース（D種接地）工事がされていることを確認する
アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。

ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。

浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない
火災や感電の原因となります。商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。

この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない
破損してやけど・けがをしたり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

指定する電源（交流100V）以外では使用しない
火災の原因となります。

ガタついているコンセントは使わない
火災や感電の原因となります。

電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない
火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない
たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷が発生しているときは、電源プラグに触れない
感電の原因となります。

通電中は電源線、および電源端子台には絶対に触れない
感電の原因となります。

洗浄ボタンや電源プラグ・配線部および端子台・スイッチやコンセント部などの電気製品に水をかけたり、ぬれた手でさわらない
感電の原因となります。

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。

湯水を逆に配管しない
水を出そうとした際に湯が出てやけどの原因になります。

指定以外の商品と組み合わせて施工しない
商品の破損、落下による、けがの原因となります。

必ず守る

工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する
商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く
コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。

電気関連部品の保守点検を行う場合は、必ず充電源（分電盤ブレーカーもしくは、コンセントを抜く）を切って作業を行う
感電の原因となります。

警告

必ず守る

コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

アンカーやプラグなどの下穴は指定径のドリルで所定の深さであけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する
固定強度不足のため、けがをするおそれがあります。

商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する。
商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。
水漏れにより、感電、または、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

壁への設置は下地に合った固定を確実に行う
固定強度不足のためけがをするおそれがあります。

取付部には所定の下地を設ける
強度不足のため、けがのおそれがあります。

機器の設置は専門業者が行う
また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う
火災や感電の原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。

＜電気温水器なし仕様の場合＞
必ず同梱のサーモスタットを取り付ける
熱湯をシングルレバーに直接接続しない
水栓から熱湯が出て、やけどの原因になります。

注意

禁止

止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない
水が噴き出し、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品に強い力や衝撃を与えない
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

排水パッキンの取り付けにはグリスを使用しない
劣化して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

パッキンを傷つけたり異常な変形をさせない
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

陶器取付用のねじをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがをするおそれがあります。

甲板や各器具の上に乗ったり、重いものを乗せない
故障やけがの原因になります。

給水ホースが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
給水ホースが破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

手すりにガタツキやゆるみがないか確認する
手すりが外れ、けがをするおそれがあります。

作業時手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する
予期せずけがをするおそれがあります。

凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のため保温処理（保温材巻、電気ヒーターなど）を行う
凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

フレーム、大便器、汚物流し（汚物流しありの場合）の持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う
腰を痛めたり、けがをするおそれがあります。

ジャバラを無理に曲げないように設置する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

カットした面は滑らかに仕上げる
滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります

商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する
商品が倒れたり落下してけがの原因となります。

各器具の補修を行う場合は、水漏れ防止のため必ず元バルブを締めて作業を行う
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

2.取り付け前のご注意

取り付け前の確認

❶ **本商品および、本商品に取り付ける器具の商品図・事前施工情報を必ず確認し、取付位置や取付下地など施工条件を事前に確認にする。**
※特に、床・壁の傾き、倒れがないことや、配管の立ち上げ位置を確認してください。

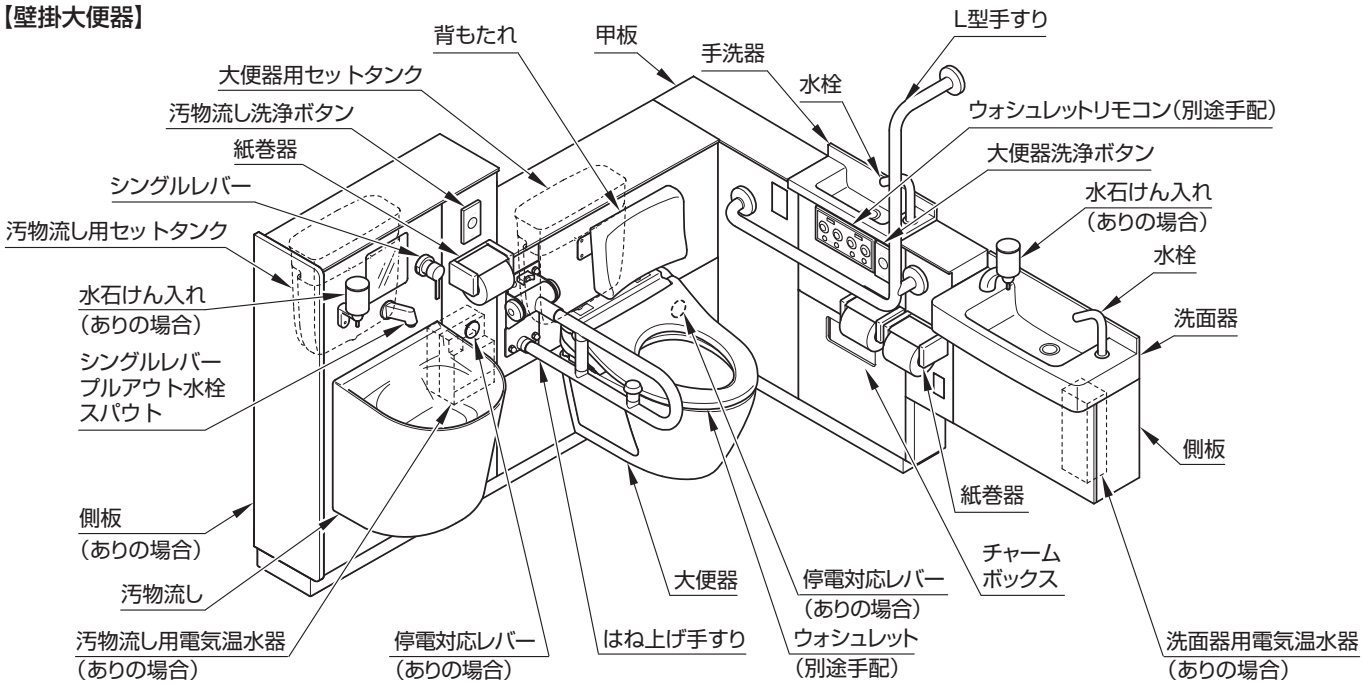
❷ **不具合があった場合は責任者の方と調整し、不具合を解消後に取り付ける。**

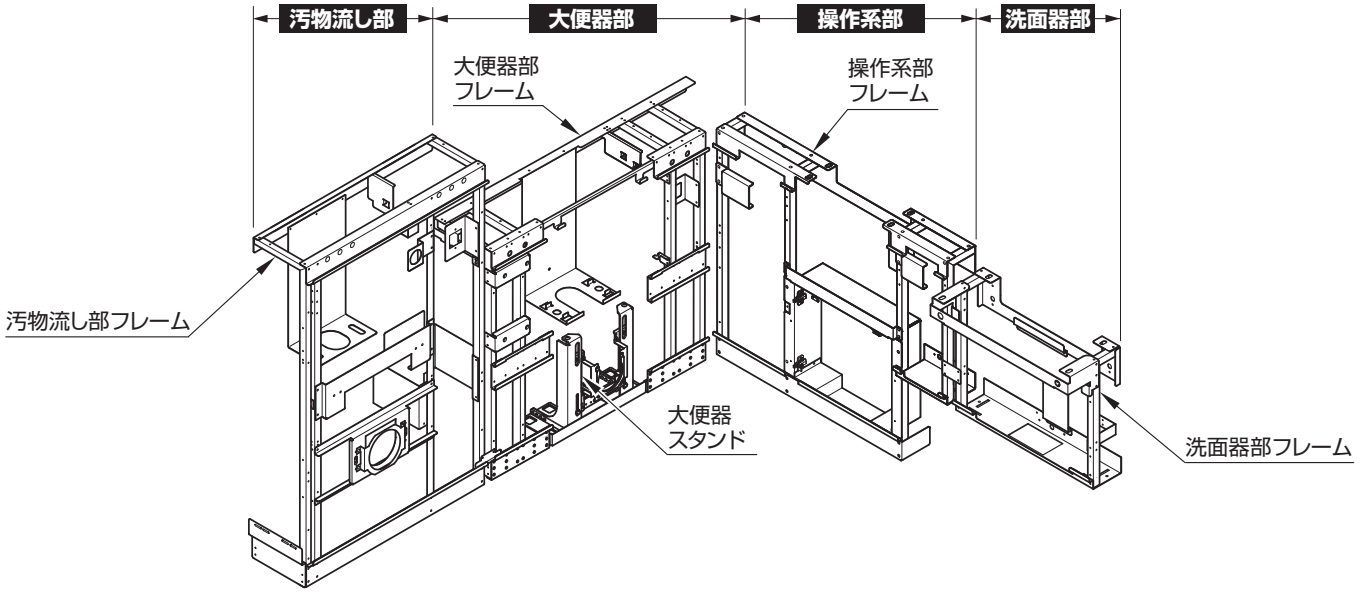
❸ **本商品に取り付ける各器具に同梱の施工説明書も参照。**
※本書は右勝手の場合を基準に説明しております。

1 全体構成

※図はウォシュレットアプリコット・AC100Vリモコン付の場合です。

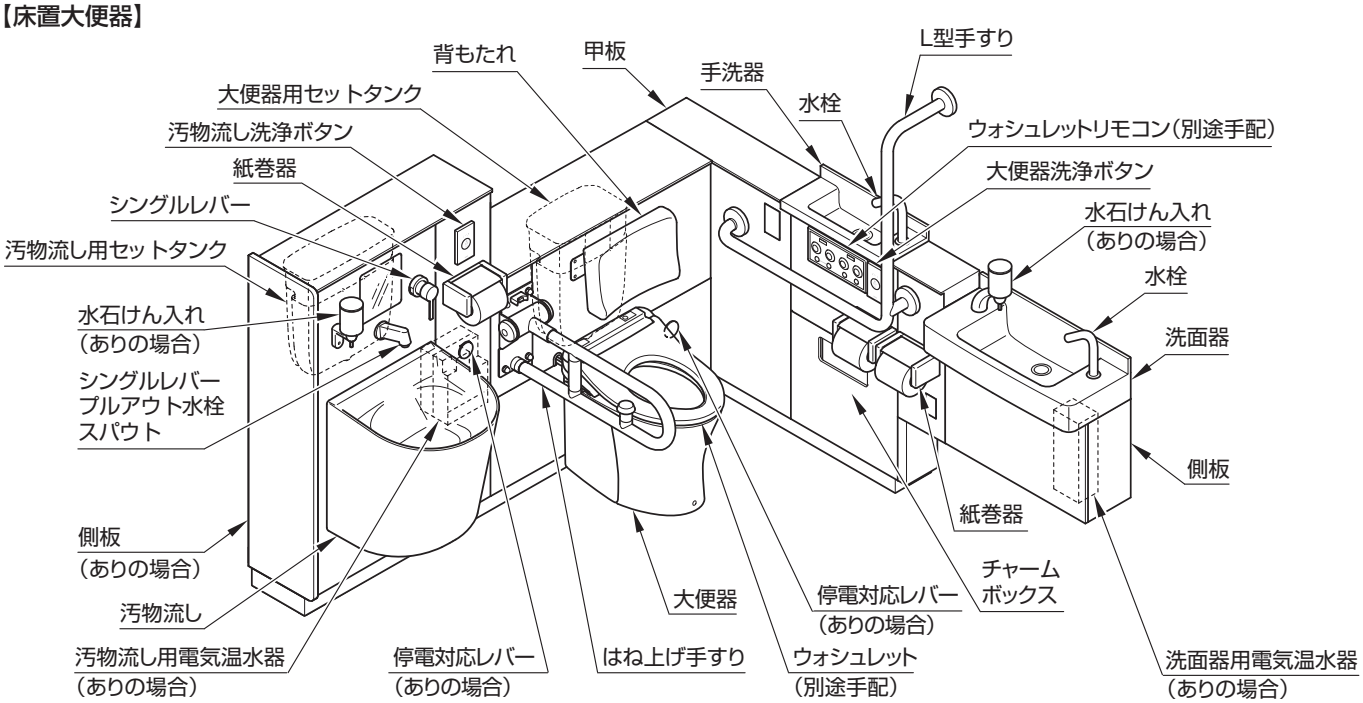
【壁掛大便器】

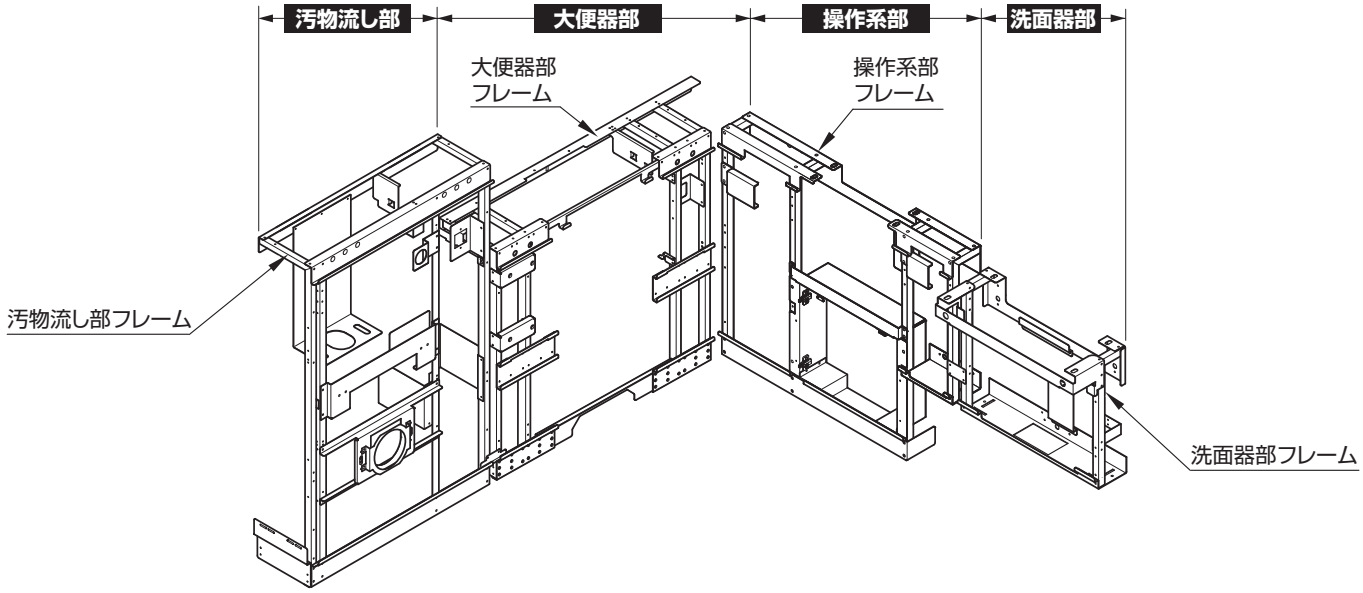




【汚物流しなし仕様・洗面器なし仕様・手洗器なし仕様の場合】
汚物流し部・洗面器部・手洗器がありません。

【床置大便器】





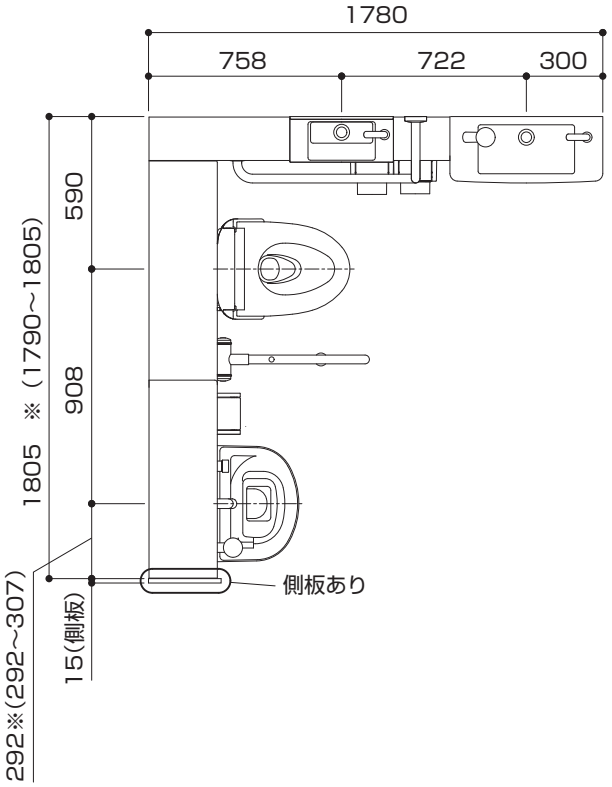
【汚物流しなし仕様･洗面器なし仕様･手洗器なし仕様の場合】
汚物流し部･洗面器部･手洗器がありません。

2 全体寸法

※パターンにより異なりますので詳細は商品図でご確認ください。

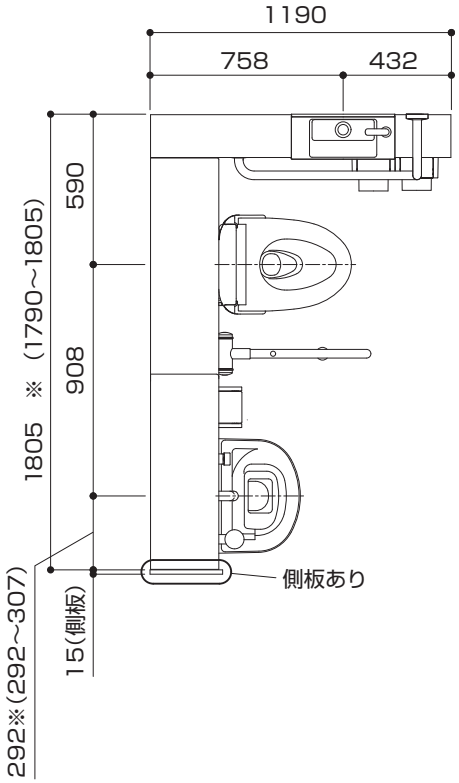
※壁掛大便器、床置大便器共通です。

【汚物流しあり･洗面器あり】



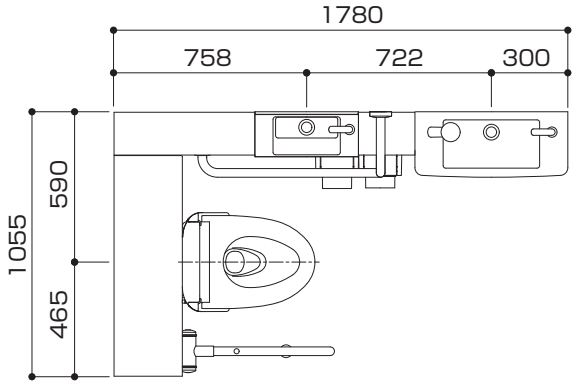
※（　）内は汚物流し部側板なしの場合

【汚物流しあり･洗面器なし】

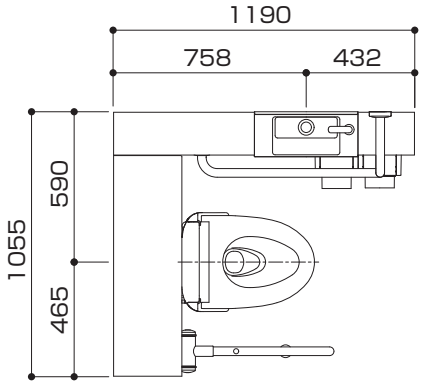


※（　）内は汚物流し部側板なしの場合

【汚物流しなし･洗面器あり】

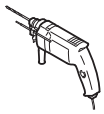


【汚物流しなし･洗面器なし】



3 必要工具・部材

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具･部材を用意してください。

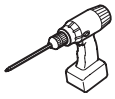

振動ドリル

コンクリート用ドリル:φ8、φ12
※フレーム、大便器、壁掛大便器スタンド固定用

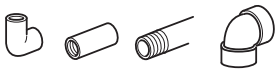
ダストポンプ

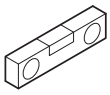
ソケットレンチ
メガネレンチ

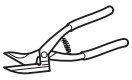
六角棒レンチ
サイズ:対辺(mm)
2.5、3、4、5


電動ドライバー
ビットサイズ:#1、#2、#3
250mm以上のロングビット

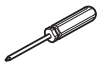
金やすり


配管･継手類※
※商品図･配管図面を参照し、必要な配管･継手類を準備してください。


水準器
(磁石付)


金切りばさみ
切断能力…ステンレス板0.8mm

シリコーン系シール剤


ドライバー
#1(チャームボックス扉ステー取付用)
#2(65mm･200mm)

ゴム系接着剤

脱脂用アルコール

ウェス

えんぴつ

ジグソー
(汚物流し甲板カット用)
刃は新建材用または木工用超硬刃

レーザー墨出器

4 取付下地の確認、固定材の準備

取付下地などに不具合があった場合は責任者の方と調整し、解消後に取り付けてください。

■床固定

フレームの取り付け

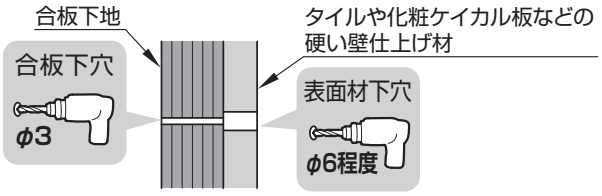
床下地	部材名称	床固定材	
コンクリート (仕上げ材の厚み 10mm以内)	大便器部フレーム 汚物流し部フレーム 操作系部フレーム 大便器	樹脂プラグ (下穴φ8 深さ:仕上げ厚+55mm以上)	各部 フレームに 同梱

壁掛大便器スタンドの場合

床下地		部材名称	床固定材	
床コンクリート仕様	圧縮強度20.6MPa以上	壁掛大便器 スタンド	アンカーボルト (下穴φ12.5 深さ:仕上げ厚+55～60mm)	スタンドに 同梱
	鉄筋のかぶり厚50mm以上			
	養生期間28日以上 (アンカー施工時)			
	ベースプレートの周囲40mmの範囲は床コンクリートの開口や欠損禁止			
配管スペースの奥行寸法	250mm以上(仕上げ厚を含む)			
床仕上げ厚	60mm以内(標準便器高さの場合)			

■壁固定

壁下地	部材名称	壁固定材	
コンクリート （仕上げ材の厚み 10mm以内）	大便器部フレーム 汚物流し部フレーム 操作系部フレーム 洗面器部フレーム	樹脂プラグ （下穴φ8 深さ:仕上げ厚＋55mm以上）	各部 フレームに 同梱
	L型手すり	アンカーボルトM6×85 （下穴φ6 深さ:仕上げ厚＋85mm以上）	手すりに 同梱
鋼製下地＋耐水合板t12以上	大便器部フレーム 汚物流し部フレーム 操作系部フレーム 洗面器部フレーム	トラスタッピンねじφ5×50	各部 フレームに 同梱
	L型手すり	六角コーチねじφ6×70	手すりに 同梱



ポイント

【表面が硬い仕上げ材の場合】

仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴（φ6程度）をあける

ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぎます。

MEMO

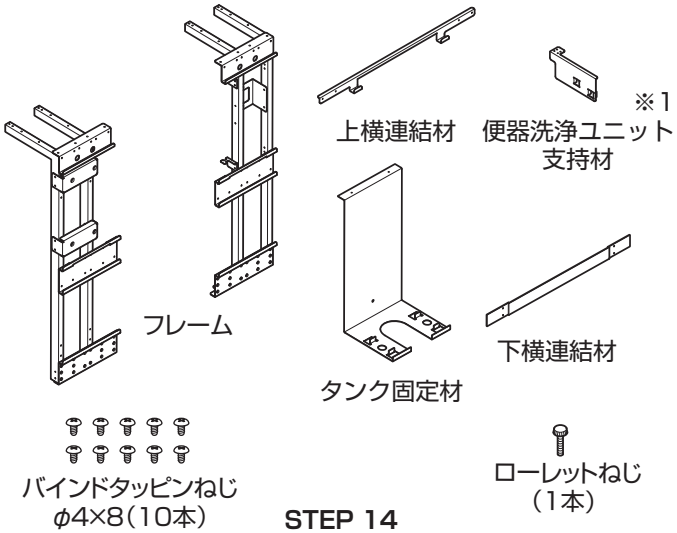
3.部品の確認

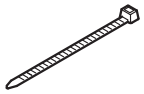
大便器部フレーム

大便器部フレーム　STEP 1・14

※1 停電対応タイプを選択の場合は、形状が異なります。

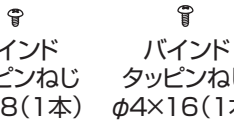
【壁掛大便器】





結束バンド
※停電対応ユニットのみ

STEP 14

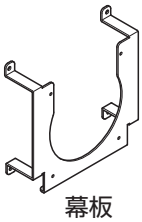


バインド
タッピンねじ
φ4×8(1本)

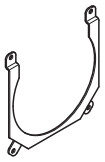
バインド
タッピンねじ
φ4×16(1本)

※大便器部フレームにテープ止め

【スタンド部品セット】STEP 0

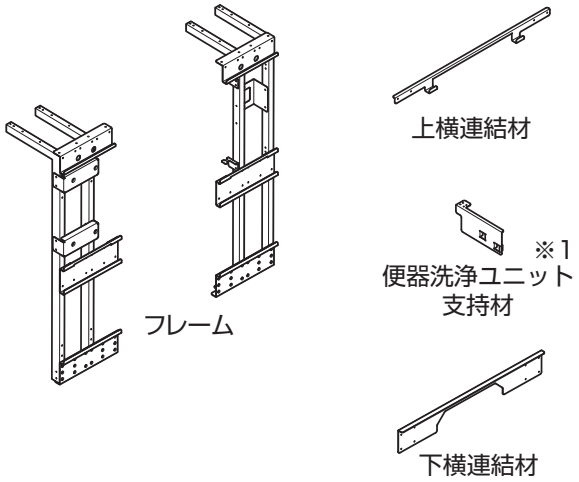


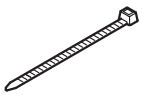
幕板



ソケット押え板

【床置大便器】





結束バンド
※停電対応ユニットのみ

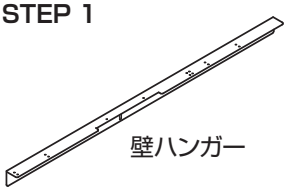
STEP 14

バインド
タッピンねじ
φ4×8(1本)

バインド
タッピンねじ
φ4×16(1本)

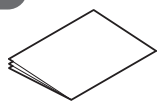
※大便器部フレームにテープ止め

壁ハンガー　STEP 1

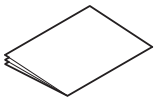


壁ハンガー

説明書セット



施工説明書
(本書)



取扱説明書

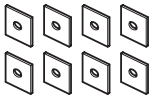
大便器部フレーム部部品セット

フレーム壁床固定セット　STEP 0・1

【共通】

トラスタッピンねじ
φ5×50(8本)

バインド
タッピンねじ
φ4×8(16本)



大形角
呼び径6
(8個)

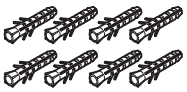
皿タッピンねじ
φ4×8(4本)

なべタッピンねじ
φ5×30(4本)

【耐水合板下地壁固定用】

ねじ受け材
(4個)

【コンクリート壁・床固定用】



樹脂プラグ
(8本)

大便器部フレーム（つづき）

大便器部フレーム部部品セット（つづき）

STEP 1 【はね上げ手すり取付用】

大形角
呼び径10
（8個）

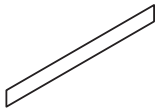
全ねじ
六角ボルト（小）
（2本）

全ねじ
六角ボルト（大）
（2本）

ばね座金
呼び径10
（4個）

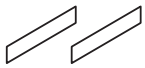
幅木 STEP 6

【壁掛大便器用】



L=900㎜
（1個）

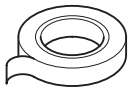
【床置大便器用】



L=390㎜
（2個）

両面テープ

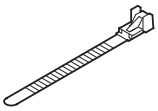
【幅木用
・底目地用】



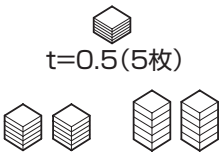
20m

結束バンド（リピートタイプ）

STEP 14



ライナーセット



t=0.5（5枚）

t=1.0
（10枚）

t=3.0
（10枚）

側板固定セット STEP 1・2・6 ※汚物流しがない場合のみ

側板上部固定材

側板下部固定材

L型幅木

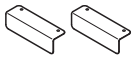
タッピンねじ
φ4×12（4本）

バインドタッピンねじ
φ4×8（1本）

皿タッピンねじ
φ4×8（2本）

座金
（1個）

底目地板固定材 STEP 17

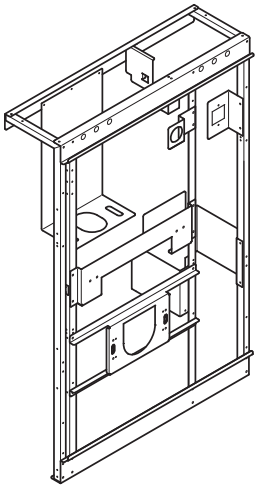


底目地固定材
（2個）

MEMO

汚物流し部フレーム

汚物流し部フレーム STEP 1



STEP 14

※汚物流し部フレームに
テープ止め

【便器洗浄ユニット用】

バインド
タッピンねじ
φ4×8

バインド
タッピンねじ
φ4×16

【停電対応用(ありの場合)】

結束バンド（1本）

【電気温水器用(ありの場合)】

バインド
タッピンねじ
φ4×8（3本）

フィラー固定材 STEP 2

フィラー固定材
（2個）

バインド
タッピンねじ
φ4×8（2本）

フィラー押え材
（2個）

幅木 STEP 7

L=800㎜

汚物流し部フレーム部部品

フレーム壁床固定セット STEP 1

【共通】

トラスタッピンねじ
φ5×50(4本)

大形角
呼び径6
（4個）

なべタッピンねじ
φ5×30（7本）

【耐水合板下地壁固定用】

ねじ受け材
（7個）

【コンクリート壁・床固定用】

樹脂プラグ
（4本）

連結材セット STEP 1

連結材A

連結材B

バインド
タッピンねじ
φ4×8(7本)

膨張水処理部材セット STEP 14

排水エルボ

×2

ホースセット
L=900㎜×1本

カバー(B) STEP 13

※**電気温水器ありの場合のみ**
タンク段付き部に
取り付け

バックハンガーセット STEP 12

バックハンガー
（2個）

アプセットタッピンねじ
φ6×30（4本）

洗浄管 STEP 13

底目地板固定材 STEP 17

底目地固定材
（2個）

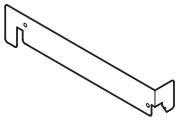
ソケット押え板 STEP 3

バインド
タッピンねじ
φ4×8（4本）

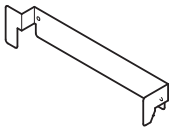
汚物流し部フレーム（つづき）

水受けトレイセット STEP 13

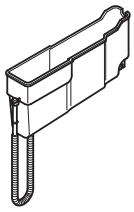
右勝手の場合



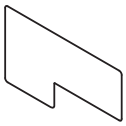
左勝手の場合



水受けトレイ支持材



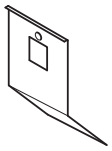
水受けトレイ



水受けトレイガイド

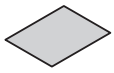
バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）
※水受けトレイ支持材にテープ止め

水切板 STEP 13



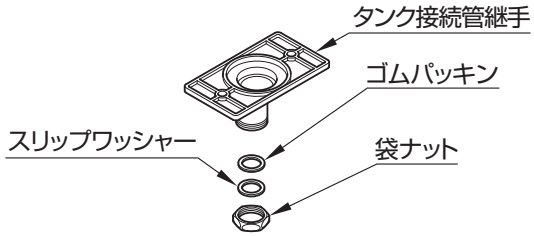
水切板

使い方ラベル STEP 20



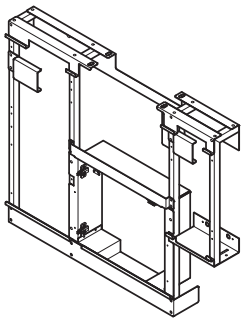
※全ての作業終了後に
張り付けを行います。
大切に保管してください。

タンク接続管継手セット（汚物流し用） STEP 13



操作系部フレーム

操作系部フレーム STEP 1・2

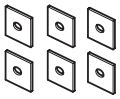


操作系部フレーム部部品

フレーム壁床固定セット STEP 1

【共通】

トラスタッピンねじ
φ5×50（6本）



大形角
呼び径6
（6個）

なべタッピンねじ
φ5×30（10本）

【耐水合板下地壁固定用】

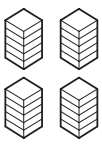
ねじ受け材
（10個）

【コンクリート壁・床固定用】

樹脂プラグ
（6本）

ライナーセット

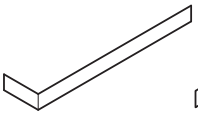
t=0.5
（5枚）



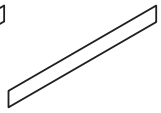
t=3.0
（20枚）

t=1.0
（10枚）

幅木 STEP 7

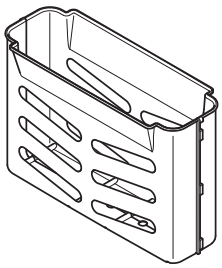


L型幅木×1



L=500㎜×1

チャームボックス STEP 11



ねじセット

バインドタッピンねじ
φ4×8（5本）

操作系部フレーム（つづき）

操作系部フレーム部部品（つづき）

止水栓固定材セット STEP 10

止水栓固定材

なべ小ねじ
M4×50（2本）

底目地固定材 STEP 17

底目地固定材
（2個）

面ファスナー STEP 17

面ファスナー
透明と黒　各4個

洗面器部フレーム

洗面器部フレーム STEP 1

※フレームに
テープ止め

側板パネル固定材
STEP 5

※フレームにテープ止め

側板固定セット STEP 2

上部固定材

ローレットねじ
（1本）

バインド
タッピンねじ
φ4×12（3本）

下部固定材

洗面器部フレーム部部品

フレーム壁床固定セット STEP 1

【共通】

トラスタッピンねじ
φ5×50（5本）

大形角
呼び径6
（5個）

なべタッピンねじ
φ5×30（6本）

【耐水合板下地壁固定用】

ねじ受け材
（6個）

【コンクリート壁・床固定用】

樹脂プラグ
（5本）

連結材セット STEP 1

連結材

バインドタッピンねじ
φ4×8（4本）

ライナーセット

t=0.5
（5枚）

t=1.0
（10枚）

t=3.0
（20枚）

固定ねじセット STEP 1・2

ローレットねじ
（2本）

バインド
タッピンねじ
φ4×8（8本）

止水栓固定材セット STEP 10

止水栓固定材

なべ小ねじ
M4×50（2本）

フレームハンガー STEP 1

フレームハンガー
※フレームにテープ止め

面ファスナー STEP 10

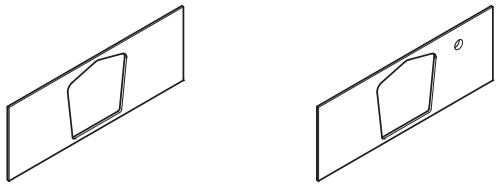
面ファスナー
透明と黒　各2個

大便器前板

※取り付け位置は STEP 5 を参照してください。

壁掛大便器部前板 STEP 5・6

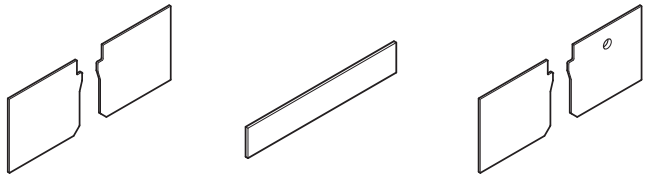
【停電対応の場合】



前板（大便器裏）　前板（大便器裏）

床置大便器部前板 STEP 5・6・19

【停電対応の場合】

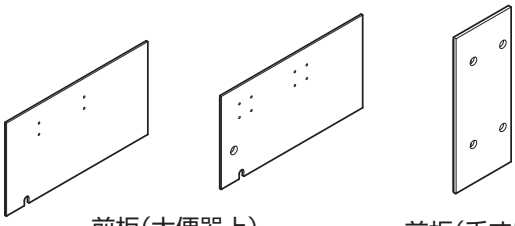


前板（大便器裏）　ふさぎ板　前板（大便器裏）

大便器部前板セット（壁掛大便器・床置大便器共通）

STEP 5・11・19

【パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれの場合】



前板（大便器上）　前板（手すり裏）

STEP 5・19

U字ブッシュ

Lアングル（背もたれ固定材）

前板調整材（2個）

ホース貫通部キャップ
※パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれの給水ホースの前板貫通部用

【洗面器ありの場合】

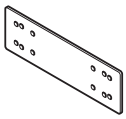
下部固定材（2個）

背もたれ取付セット　※背もたれを選択の場合 STEP 19

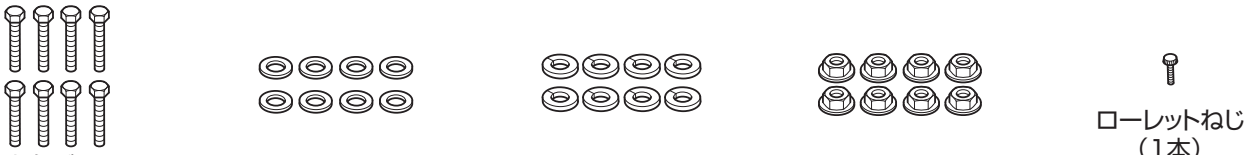
六角ボルト M6×25（4本）　平座金M6（4個）　ばね座金M6（4個）　六角袋ナットM6（4個）　ローレットねじ（1本）

背もたれ裏当て材

STEP 19

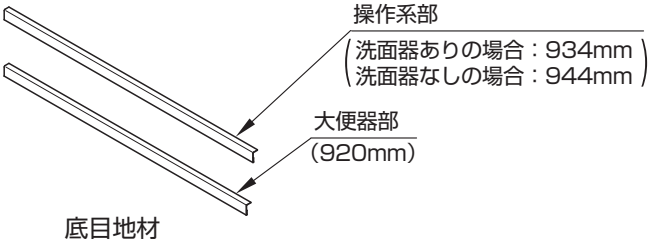


パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれ取付セット ※パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれを選択の場合 STEP 19



六角ボルト M6×30（8本）　平座金M6（8個）　ばね座金M6（8個）　六角袋ナットM6（8個）　ローレットねじ（1本）

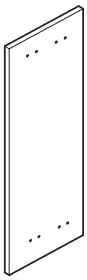
底目地材 STEP 17



底目地材

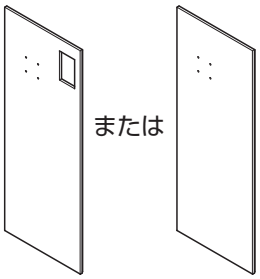
側板（大便器用） STEP 2

【汚物流しなしの場合】

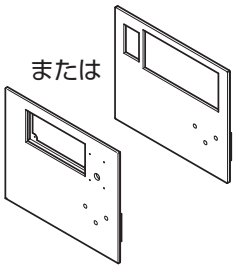


操作系部･洗面器部前板

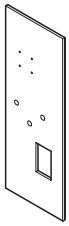
操作系部･洗面器部前板セット STEP 5・10・11・15　※取り付け位置は STEP 5 を参照してください。



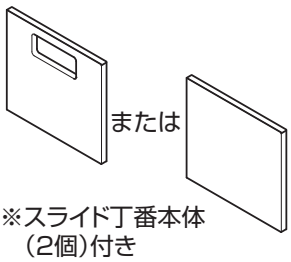
前板
（大便器側）



前板
（手洗器下）

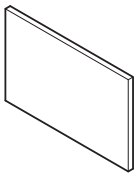


前板
（洗面器･側板側）



※スライド丁番本体
（2個）付き

前板
（チャームボックス扉）



前板
（洗面器・側板側）

側面パネル
（洗面器下）

側板（洗面器部用）

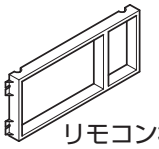
STEP 2・5

【洗面器なしの場合】

【洗面器ありの場合】

エコリモコン枠　※ウォシュレットPS･エコリモコンの場合

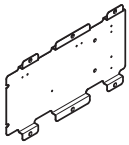
STEP 19



リモコン枠

M4ナット
（2個）

座金組込十字穴付
六角小ねじ
M4×10（4本）



リモコン固定材

平座金
M6（6個）

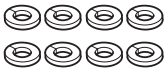
バインド
タッピンねじ
φ3×8（5本）

バインド
タッピンねじ
φ4×8（6本）

ねじセット

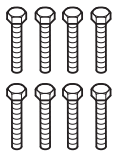
STEP 5・19

皿タッピンねじ
φ3×8（2本）
※チャームボックスなしの
場合は同梱されません



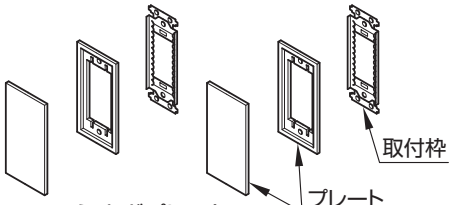
ばね座金M6
（8個）

バインドタッピンねじ
φ4×8
※洗面あり：14本
洗面なし：10本

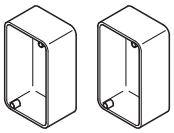


全ねじ六角ボルト
M6×25（8本）

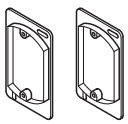
ふさぎプレートセット STEP 11



ふさぎプレート
（2セット）



コンセントボックス
（2個）



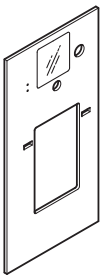
コンセントボックスカバー
（2個）

バインド小ねじ
M4×12（8本）

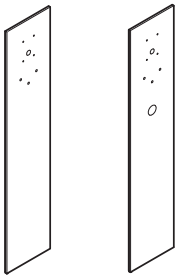
汚物流し前板

汚物流し前板セット STEP 2・5・11・15・17・19　※取り付け位置は STEP 5 を参照してください。

【停電対応の場合】

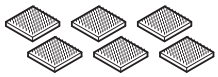


前板
（汚物流し裏）



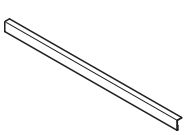
前板
（紙巻器裏）

側面パネル
（汚物流し横）



面ファスナー
透明と黒　各6個

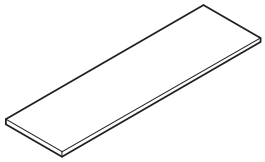
フィラー

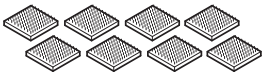


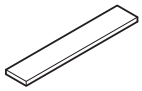
底目地材

大便器部甲板

STEP 17

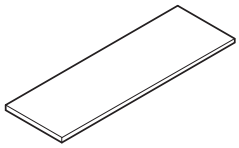

甲板

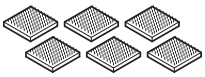

面ファスナー
透明と黒
各8個

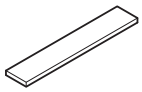

化粧シート

汚物流し部甲板

STEP 17


甲板

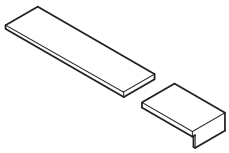

面ファスナー
透明と黒
各6個


化粧シート

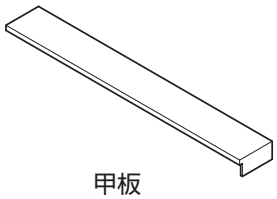
操作系部甲板

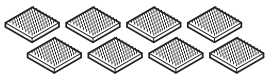
STEP 17

【手洗器ありの場合】


甲板

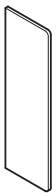
【手洗器なしの場合】


甲板

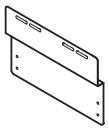

面ファスナー
透明と黒
各8個

汚物流し部側板

STEP 1・2・5・7


側板

側板上部固定材


側板下部固定材

L型幅木

タッピンねじ
φ4×12（6本）

バインドタッピンねじ
φ４×8（1本）

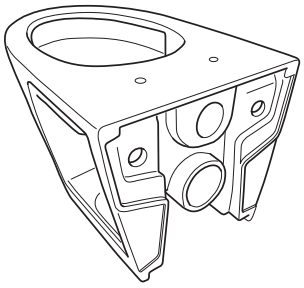
皿タッピンねじ
φ4×8（2本）

座金
（1個）

大便器

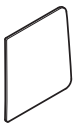
大便器セット STEP 6・19

【壁掛大便器】



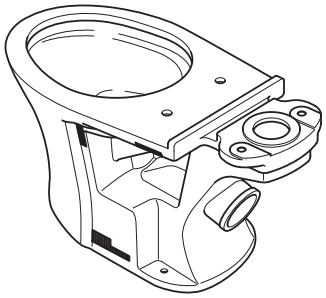
大便器本体

サイドカバー（右）



サイドカバー（左）
※説明書など同梱

【床置大便器】



大便器本体
※説明書など同梱

サイドカバー（右）

サイドカバー（左）

固定片

ワッシャー
（固定片用）（2個）

化粧キャップ
（前）

化粧キャップ
（後）（2個）

皿木ねじ（前）
φ5.8×56

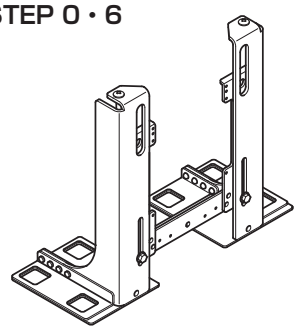
木ねじ（後）
φ6.2×63（2本）

なべタッピンねじ(固定片用)
φ6×50（2本）

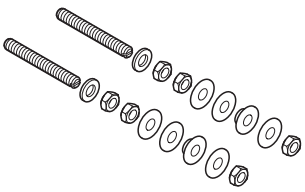
ワッシャー（後部固定用）
（2個）

スタンド（壁掛大便器の場合のみ）

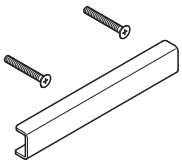
STEP 0・6



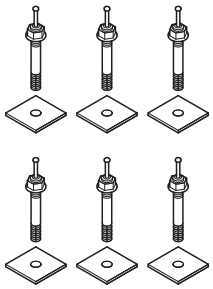
スタンド本体



便器取付ボルトセット



下部受け材セット

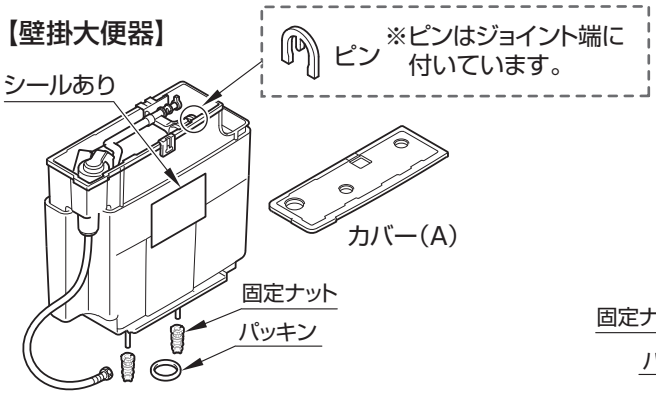


アンカーセット

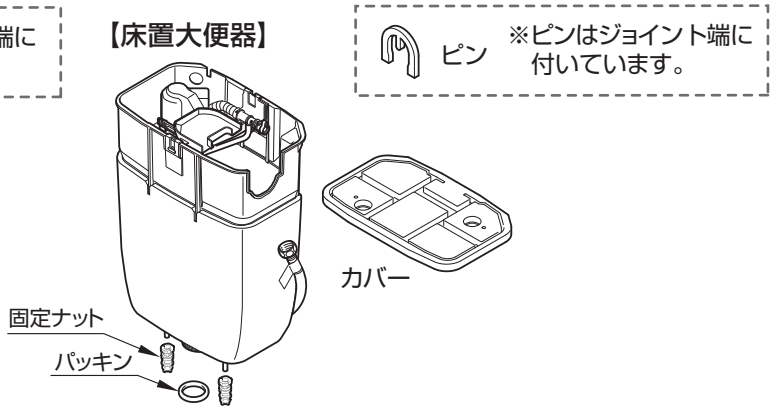
セットタンク（大便器用）

STEP 8・14・20

【壁掛大便器】

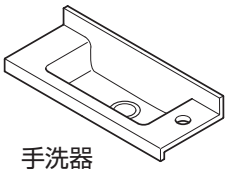


【床置大便器】



手洗器

STEP 18



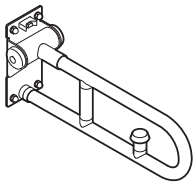
ねじセット

トラスタッピンねじ
φ4×16（4本）

大形角
（4個）

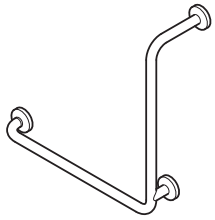
手すり

はねあげ手すり STEP 19



※取付部材、説明書など同梱

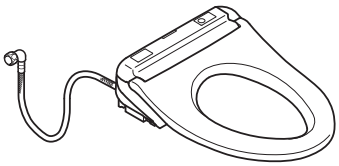
L型手すり STEP 19



※取付部材、説明書など同梱

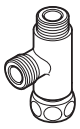
ウォシュレットアプリコット・AC100Vリモコン（別売品）の場合

ウォシュレット本体 STEP 19



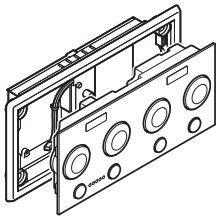
※取付部材、説明書など同梱
▶ウォシュレットの施工説明書参照

分岐金具



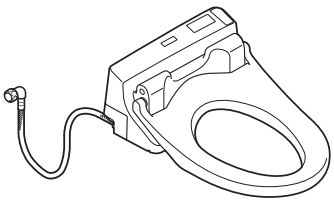
パッキン
（2枚）

リモコン



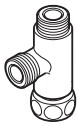
ウォシュレット PS・エコリモコン（別売品）の場合

ウォシュレット本体 STEP 19



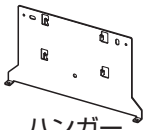
※取付部材、説明書など同梱
▶ウォシュレットの施工説明書参照

分岐金具

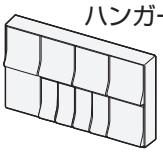


パッキン
（2枚）

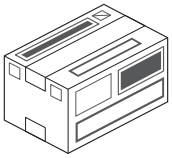
リモコン部品



ハンガー

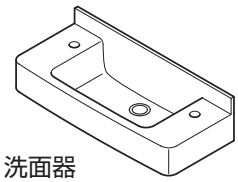


リモコン便器洗浄ユニット
（別梱包）



洗面器（洗面器ありの場合のみ）

STEP 10



ねじセット

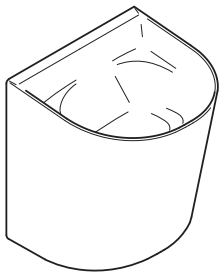
トラスタッピンねじ
φ4×16（4本）

平座金
（4個）

汚物流しありの場合

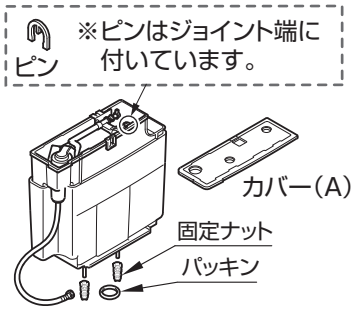
汚物流し

汚物流し　STEP 12



汚物流し本体
※取付部材、説明書など同梱

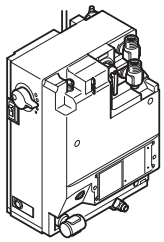
セットタンク（汚物流し用）　STEP 13・14・20



※カバー（B）は汚物流し部フレーム部
部品セットに同梱

電気温水器（汚物流し用）　STEP 13

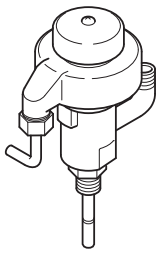
【汚物流し・電気温水器ありの場合】



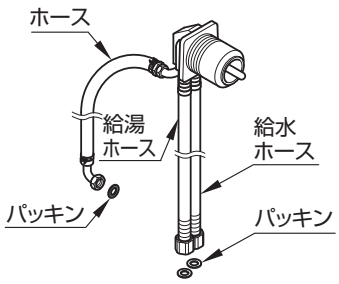
※取付部材、説明書など同梱

壁付シングル水栓

バキュームブレーカー　STEP 13



シングルレバー本体部　STEP 13・20



取付ナット

パッキン
（黒）

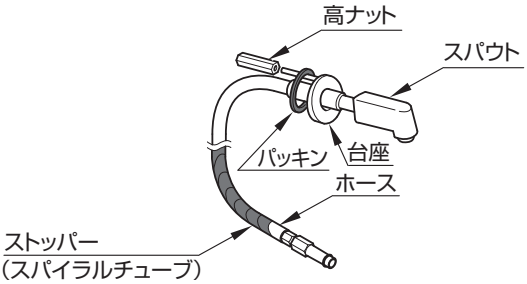
発砲パッキン
（白）

ハンドル

止めねじ
M6×10

化粧キャップ

水栓スパウト　STEP 13

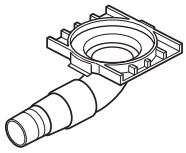


詰め合わせ箱

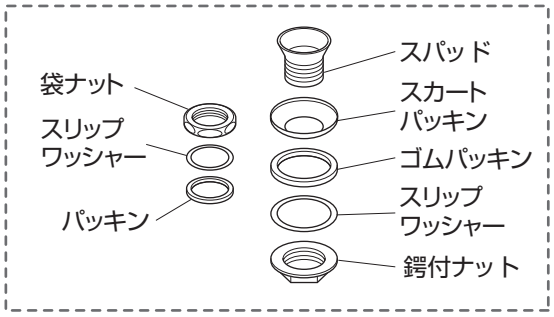
※壁掛大便器と床置大便器の場合で
部材内容が異なりますので確認してください。

【壁掛大便器の場合】

タンク接続管
STEP 8


タンク接続管

スパッド STEP 6



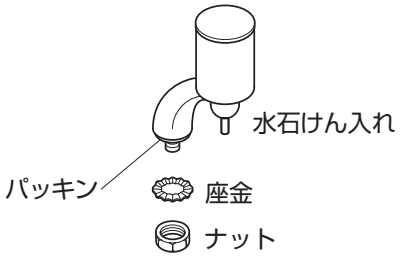
止水栓・継手
STEP 4・20

※タイプによって組み合わせが異なります。
STEP 4のページを参照ください。

アングル型
止水栓
止水栓
ふさぎふた
開閉工具
エルボ
分岐金具

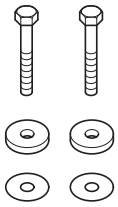
水石けん入れ(洗面器用) STEP 10

※水石けん入れありの場合



便器取付ボルト STEP 12

※汚物流しありの場合



水石けん入れ(汚物流し用) STEP 16

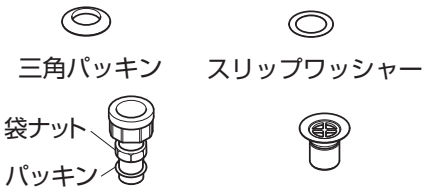
※水石けん入れありの場合

皿タッピンねじ
φ4.5×30
(2本)
取付座
水石けん入れ

排水金具セット ×2
STEP 10・18

※洗面器なし・手洗器なしの場合はそれぞれ1セット減となります。

【排水金具セットソケット】

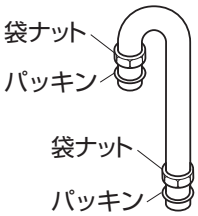


排水接続管
排水金具

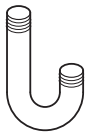
【壁排水ソケット】

排水ソケット本体

【トラップ(上)】



【トラップ(下)】


トラップ

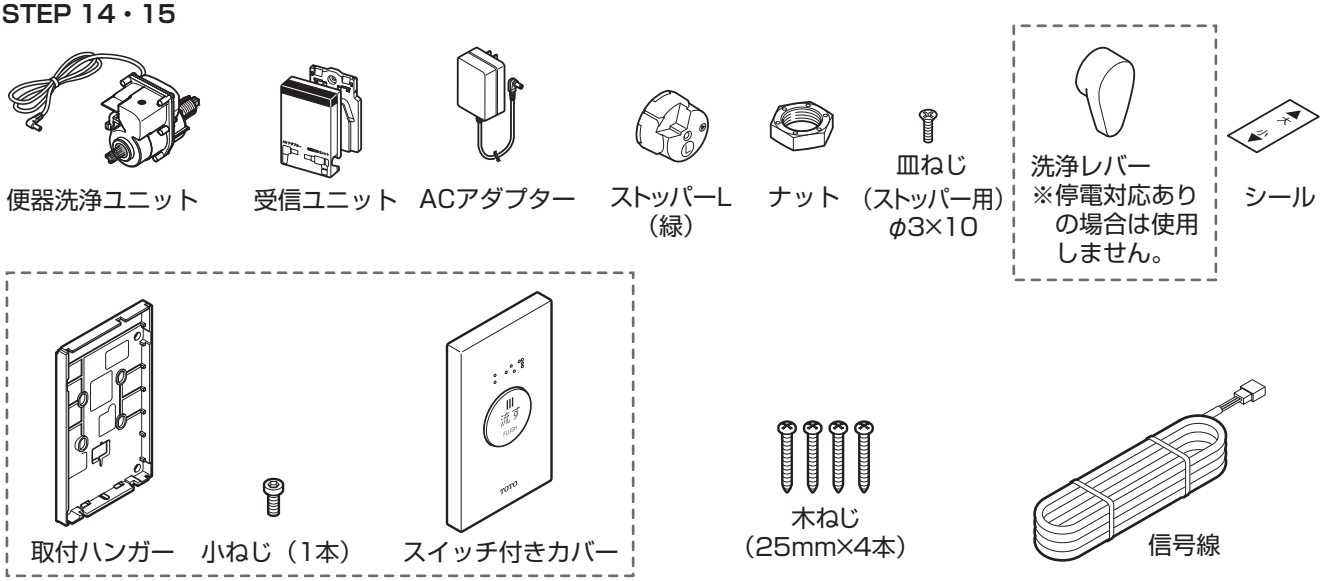
【排水アダプター】

詰め合わせ箱(つづき)

【汚物流しありの場合】【ウォシュレットアプリコット･AC100Vリモコンの場合】

リモコン便器洗浄ユニット　※どちらも設置の場合は2セット

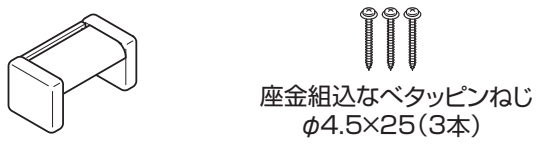
STEP 14・15



※説明書など同梱

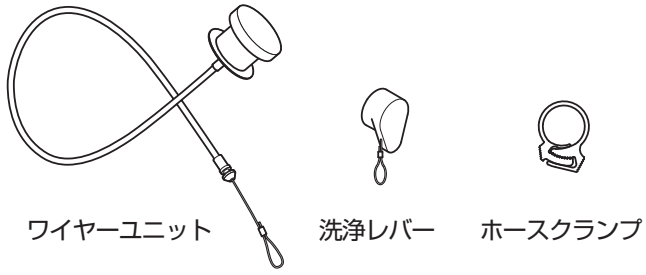
紙巻器×3　※汚物流しなしの場合は2セット

STEP 16



ワイヤーユニット　※停電対応の場合のみ

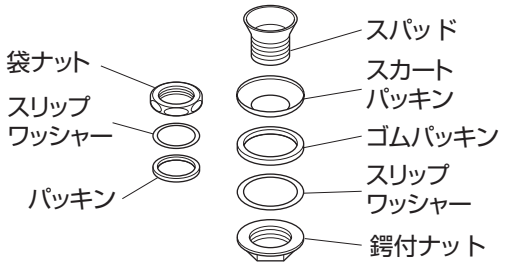
STEP 5・14



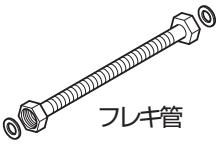
スパッド/フレキ管

※汚物流しありの場合

STEP 12



STEP 13



〈数量〉

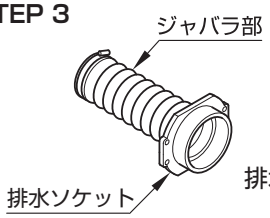
電気温水器あり仕様の場合	L=600mm
電気温水器なし仕様の場合	L=400mm L=600mm 各1本

詰め合わせ箱（つづき）

※タイプによって部材内容が異なりますので確認してください。

排水管継手（汚物流し用）

STEP 3



排水継手

排水パッキン

※説明書など同梱

ニップル×2

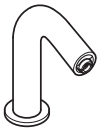
STEP 10・18

（2個）

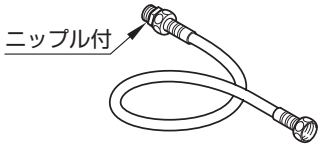
自動水栓×2

STEP 10・18

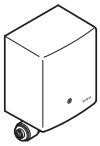
※洗面器もしくは手洗器なしの場合は１セット、
洗面器および手洗器なしの場合は同梱されません。



自動水栓本体



フレキホース



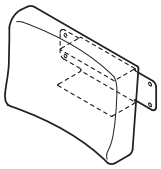
止水栓（機能部付）

※取付部材、説明書など同梱

背もたれ

STEP 19

【背もたれを選択の場合】



※説明書など同梱

別包装品

※タイプによって部材内容が異なりますので確認してください。

排水管継手 STEP 0

排水管継手

排水パッキン

ホースバンド

【床置大便器の場合】

排水管継手（大便器用） STEP 6

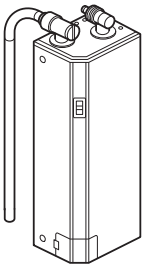
排水接続管

ホースバンド
（2個）

電気温水器（洗面器用）

STEP 10

※電気温水器ありの場合

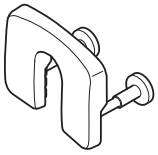


電気温水器本体
※取付部材、説明書など同梱

背もたれ

STEP 19

【パウチ･しびん洗浄水栓付背もたれを選択の場合】

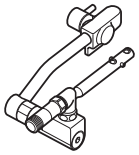


※説明書など同梱

パウチ･しびん洗浄水栓

STEP 19

【パウチ･しびん洗浄水栓付背もたれを選択の場合】



※説明書など同梱

手順編

STEP0.壁掛大便器スタンド ▶26
STEP1.フレーム ▶29
STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合） ▶37
STEP3.排水継手 ▶40
STEP4.止水栓 ▶41
STEP5.側面パネル・前板（準備） ▶44
STEP6.大便器 ▶48
STEP7.幅木 ▶53
STEP8.大便器用セットタンク ▶55
STEP9.フィラー ▶57
STEP10. 洗面器 ▶58
STEP11.前板（取り付け） ▶62
STEP12.汚物流し ▶64
STEP13.汚物流し用セットタンク ▶66
STEP14.便器洗浄ユニット ▶73
STEP15.タッチスイッチ ▶76
STEP16.器具類 ▶77
STEP17.甲板 ▶78
STEP18.手洗器 ▶82
STEP19.大便器周辺器具類 ▶85
STEP20.試運転・確認 ▶89

マーク表示について

電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。

下穴をあけてください。（例:φ3の場合）

カットしてください。

脱脂用アルコールで脱脂してください。

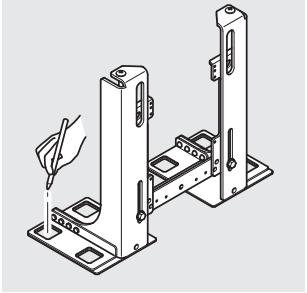
ロングビットの電動ドライバーを使用してください。

けがきをしてください。

水準器で水平・垂直確認してください。

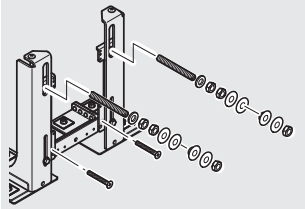
STEP0.壁掛大便器スタンド

1 壁掛大便器スタンドの取り付け



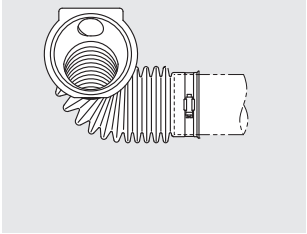
▶P.26

2 便器取付ボルト・下部受け材の仮固定



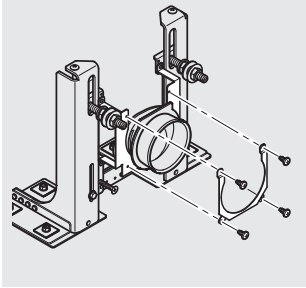
▶P.27

3 単独排水継手の設置



▶P.28

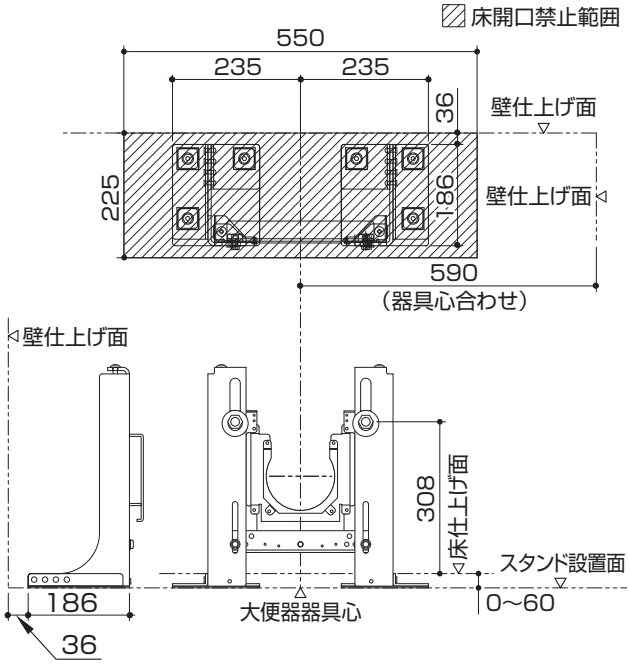
4 幕板・ソケット押え板の取り付け

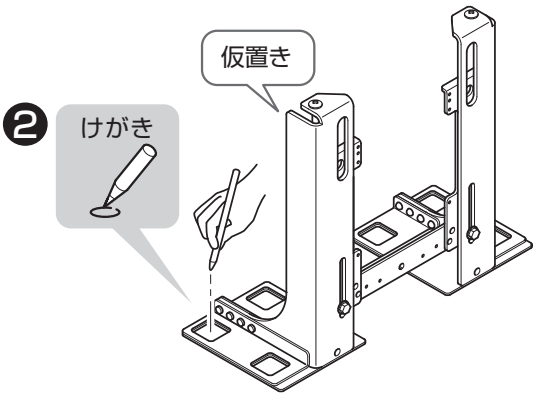


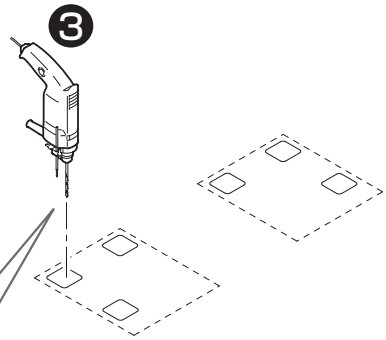
▶P.28

1 壁掛大便器スタンドの取り付け

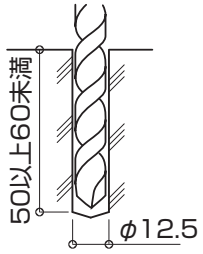
❶ スタンドの設置寸法



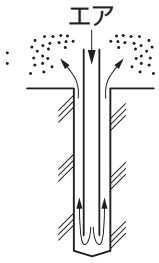




ドリル径:φ12.5
下穴深さ:50mm以上60mm未満



下穴の中の切粉をダストポンプなどで完全に除去



⚠ 警告

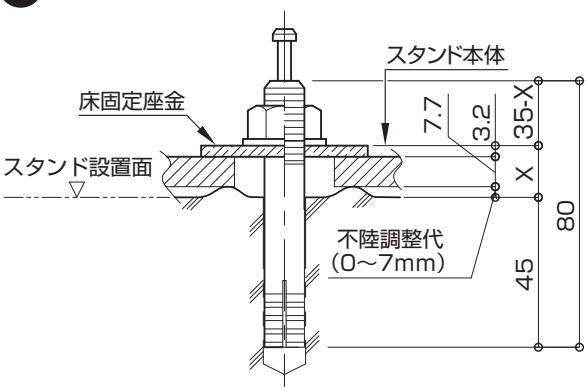
禁止

- **指定以外の径のドリルを用いたり、下穴深さが不足の状態で施工しない**
  強度不足による、スタンドの転倒や落下の原因となります。
- **アンカー部分のベースプレートが浮いた状態で固定しない**
  アンカーの必要強度が得られません。ベースプレート接地面に不陸がある場合は、床コンクリートをレベル調整するか、スペーサー(現場手配)を用いて調節してください。

必ず守る

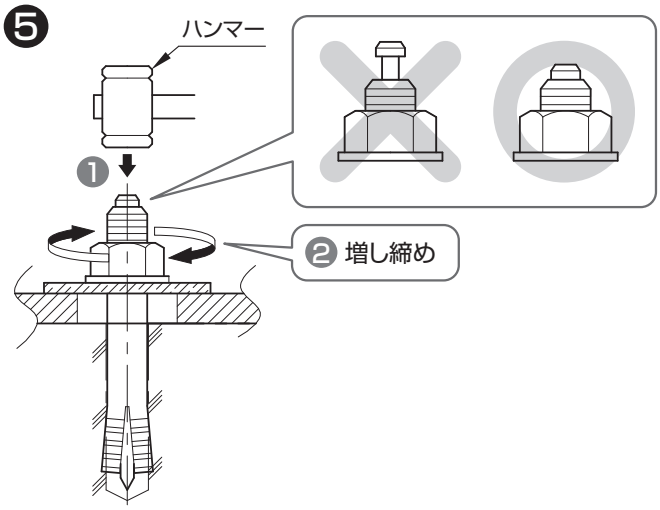
アンカーは穴あけ後、ダストポンプを使用して必ず穴の中の切粉を除去してから打ち込む
所定の強度を発揮できません。

❹ アンカー（M12）の取り付け

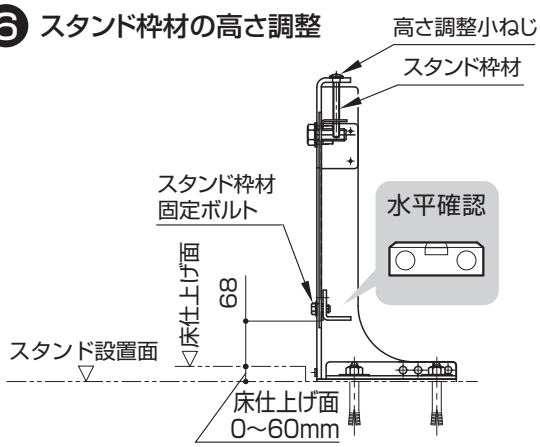


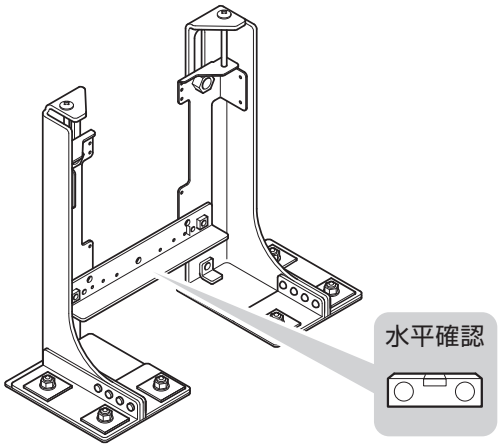
X=スタンド(t7.7)＋床固定座金（t3.2）＋ (不陸がある時は7mm以内)

❺

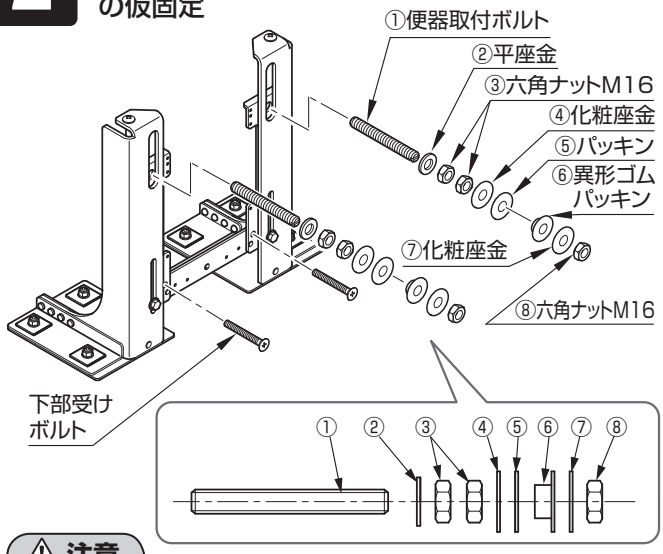


❻ スタンド枠材の高さ調整





2 便器取付ボルト・下部受け材の仮固定

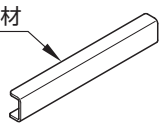


⚠ 注意

必ず実行

下部受け材は、便器取付ボルトなどに袋ごとテープ止めするなどして紛失しないようにする

大便器施工後使用します。
使用しないと、水漏れして財産損害発生の原因となります。



MEMO

3 単独排水継手の設置

・排水ソケットの上下を間違えないように取り付けてください。
（※形状をご確認ください）

❶ 配管の取り回し

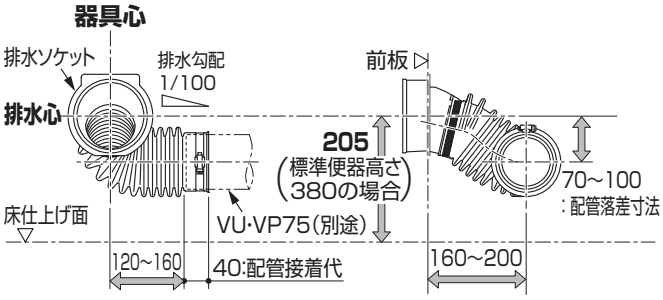
⚠ 注意

必ず実行

・**配管（VU･VP75）と継手は硬質塩化ビニル管用接着剤で接着後バンド固定する**
漏水の原因となり、周囲に損害を与えるおそれがあります。

・**継手を下に振って設置しない**
壁掛大便器取付スタンドの固定強度が確保できなくなります。

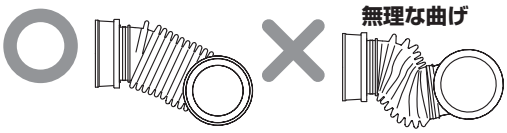
【横に振る場合】



⚠ 注意

必ず実行

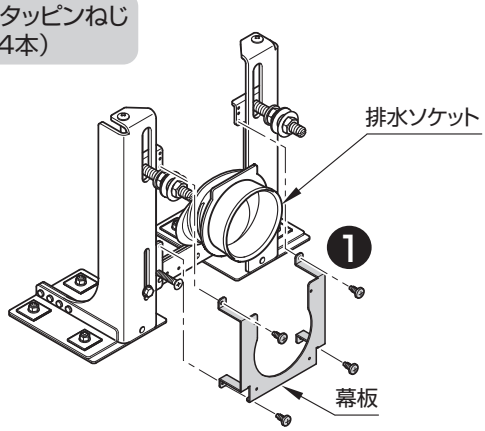
ジャバラ部を無理に曲げたり、逆勾配にならないように接続する
漏水の原因となり、周囲に損害を与えるおそれがあります。



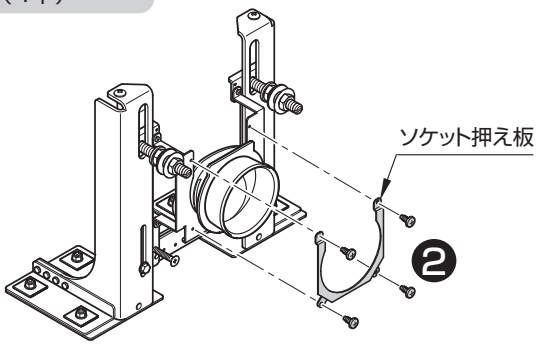
MEMO

4 幕板・ソケット押え板の取り付け

バインドタッピンねじ
φ4×8（4本）



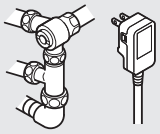
バインドタッピンねじ
φ4×8（4本）



MEMO

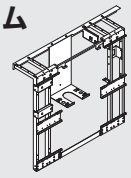
STEP1.フレーム

1 配管、電源・コンセントの準備



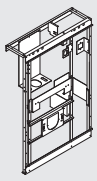
▶P.29

2 大便器部フレームの取り付け準備、取り付け



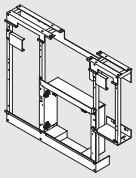
▶P.30

3 汚物流し部フレームの取り付け準備、取り付け



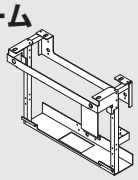
▶P.32

4 操作系部フレームの取り付け準備、取り付け



▶P.33

5 洗面器部フレームの取り付け準備、取り付け



▶P.35

1 配管、電源・コンセントの準備

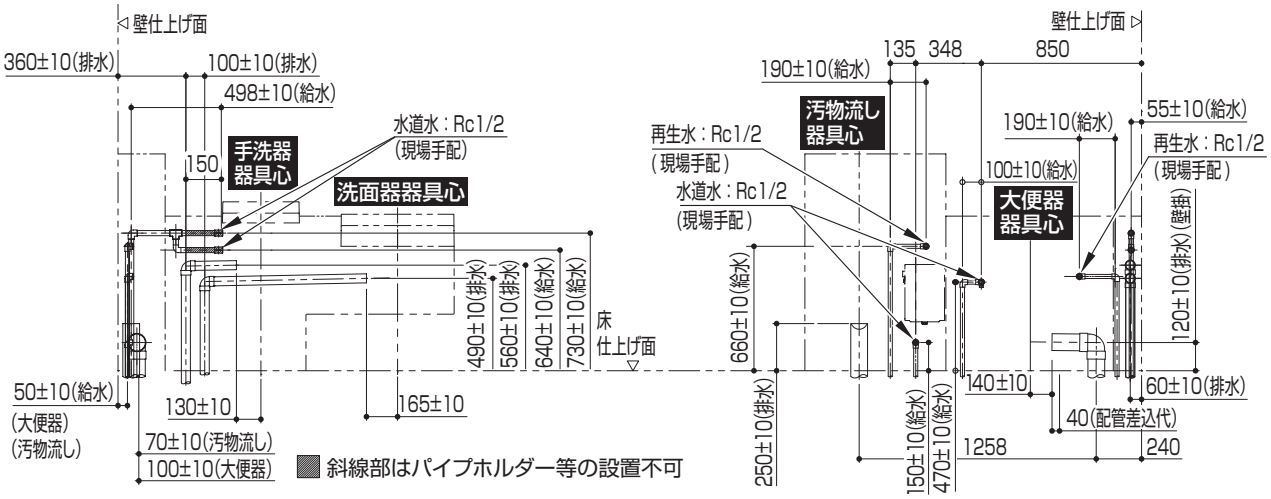
給排水配管、電源・コンセントを所定の位置に取り出し、設置する

チェック

- **正しい位置に設置されていることを商品図・事前施工情報を参照して確認する**
- **電気工事は関連する安全法規に従って有資格者が行う**

右勝手、汚物流し（電気温水器あり）・洗面器・手洗器あり、再生水仕様の場合

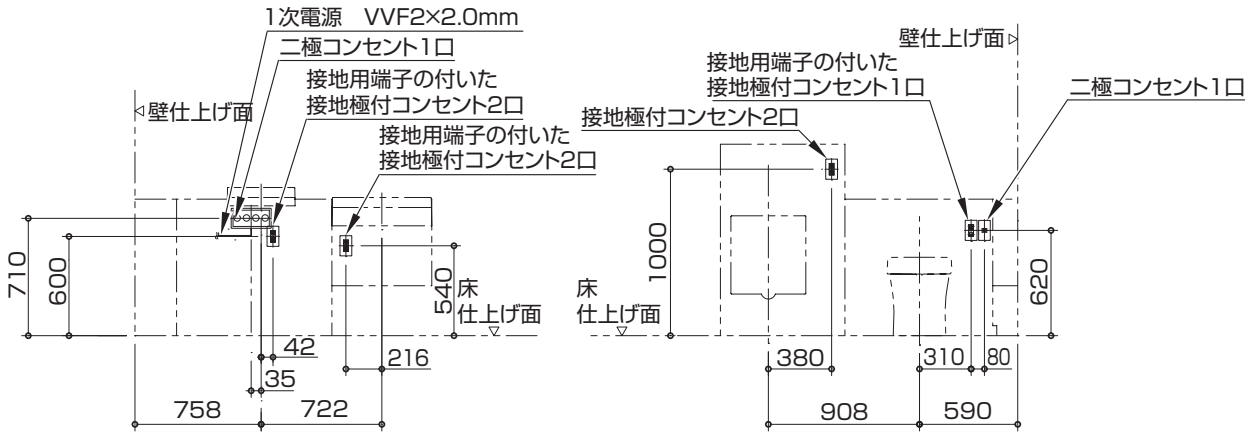
配管立ち上げ位置



右勝手、汚物流し（電気温水器あり）・手洗器・洗面器（電気温水器あり）仕様の場合

※寸法は目安です。フレームを避けた位置で引き込んでください。
図はウォシュレットアプリコット・AC100Vリモコン付の場合です。

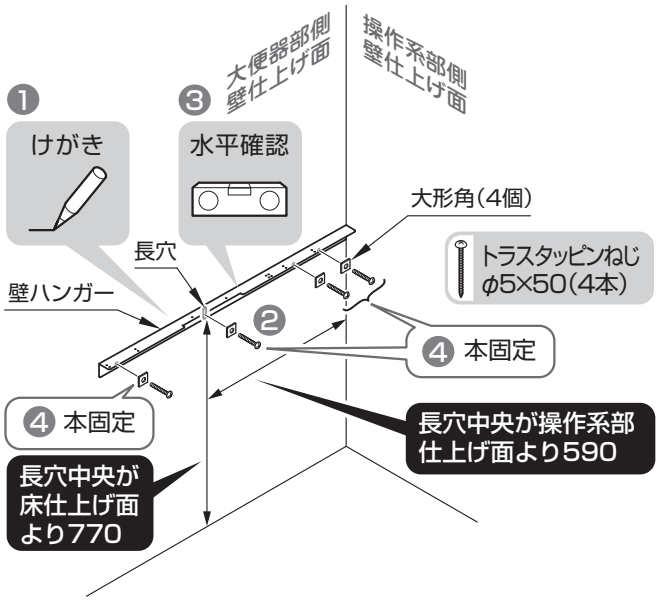
コンセント位置図



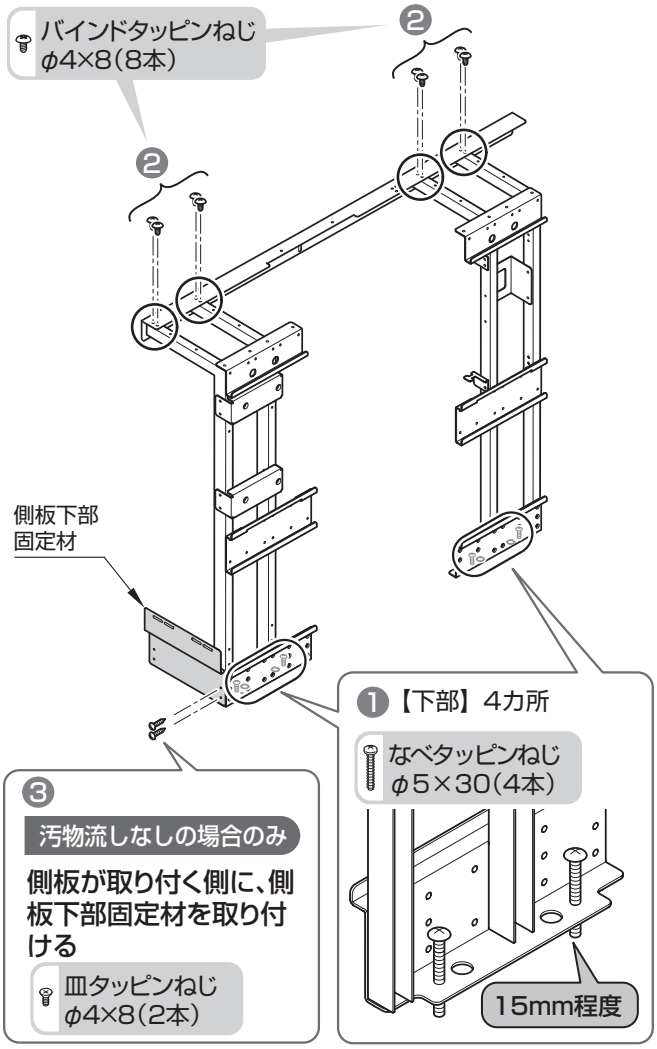
2 大便器部フレーム
の取り付け準備、取り付け

※大便器部フレームが他のフレームの基準になります。

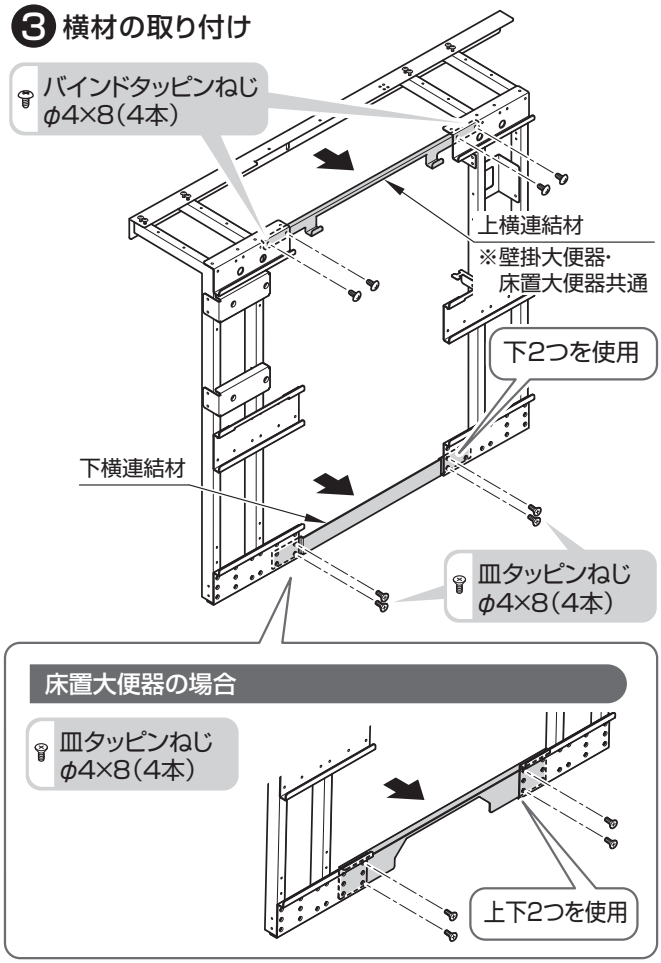
❶ 壁ハンガーの取り付け



❷ 調整ねじの取り付け(フレーム準備)



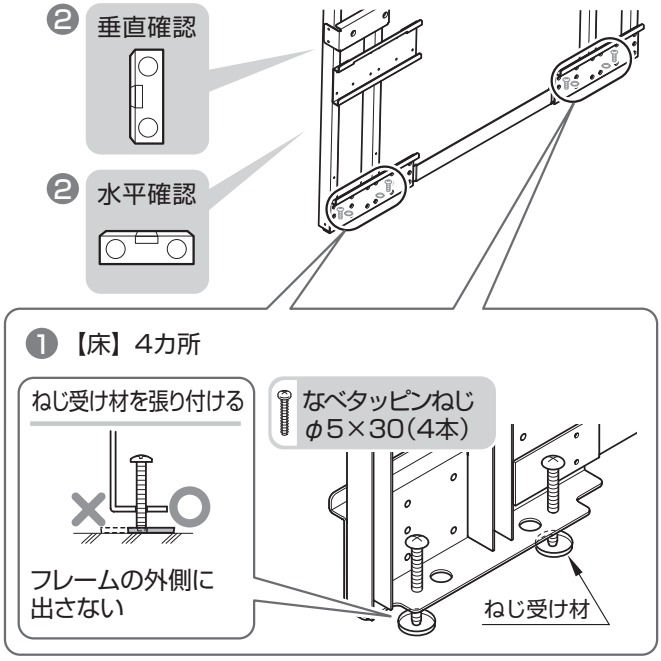
❸ 横材の取り付け



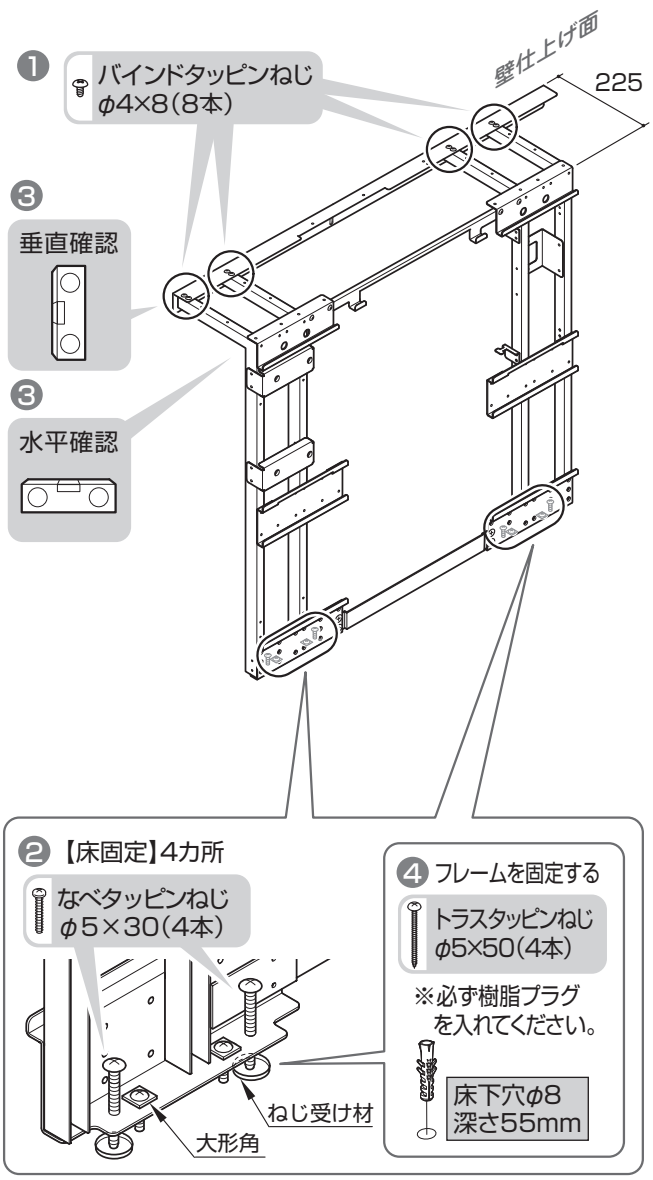
❹ フレームの調整

ポイント ※あらかじめ床固定用下穴位置を確認してください。

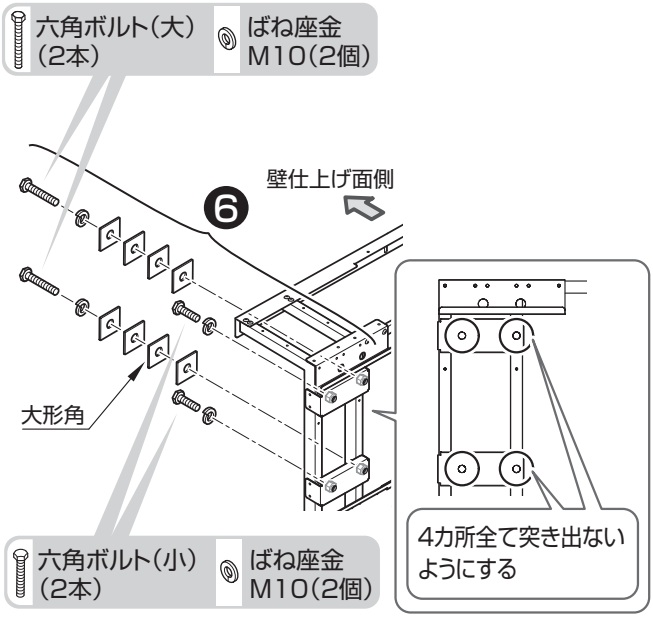
- **ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。**
- **垂直確認は、下げ振りまたはレーザーなどで行ってください。**



❺ フレームの本固定

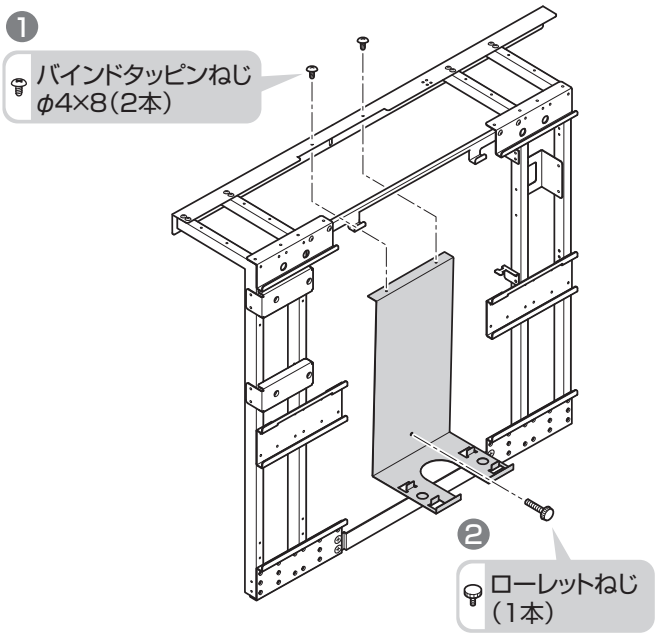


❻ はね上げ手すり固定ボルトの取り付け

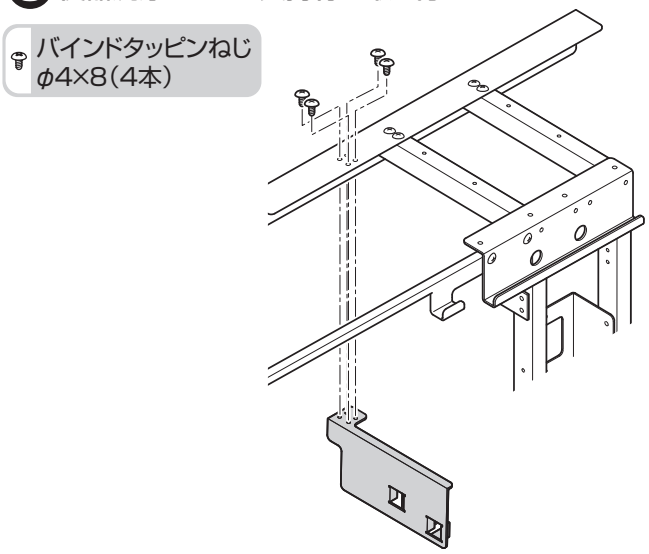


壁掛大便器の場合

❼ タンク固定材の取り付け



❽ 便器洗浄ユニット支持材の取り付け



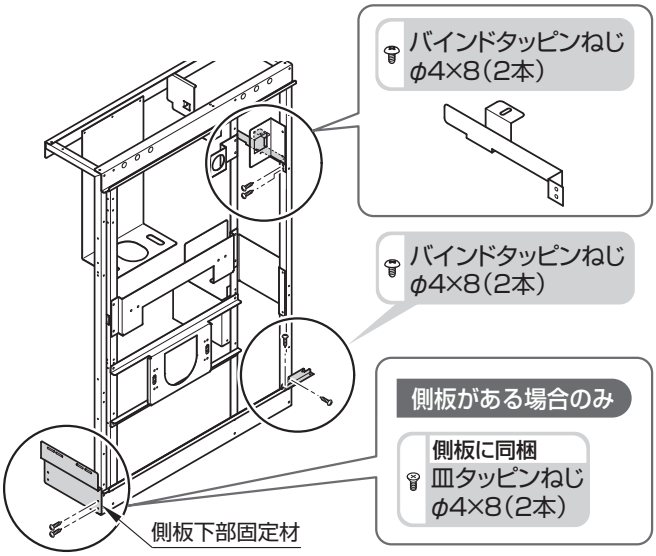
※停電対応タイプを選択の場合は、形状が異なります。

MEMO

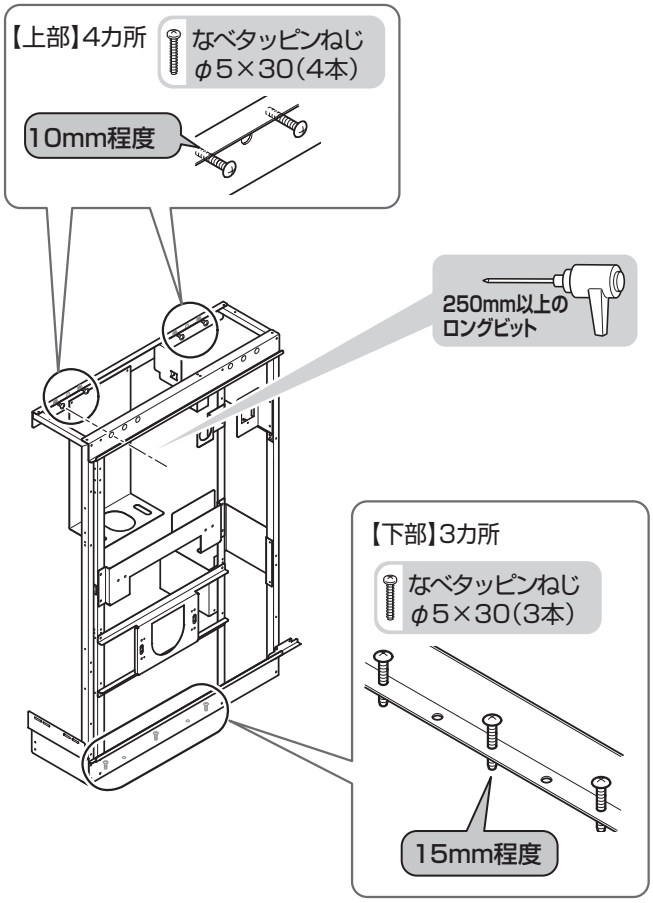
3 汚物流し部フレーム
の取り付け準備、取り付け

フレームにテープ止めされている、フィラー固定材を取り外して、保管しておいてください。

❶ 連結材の取り付け



❷ 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)

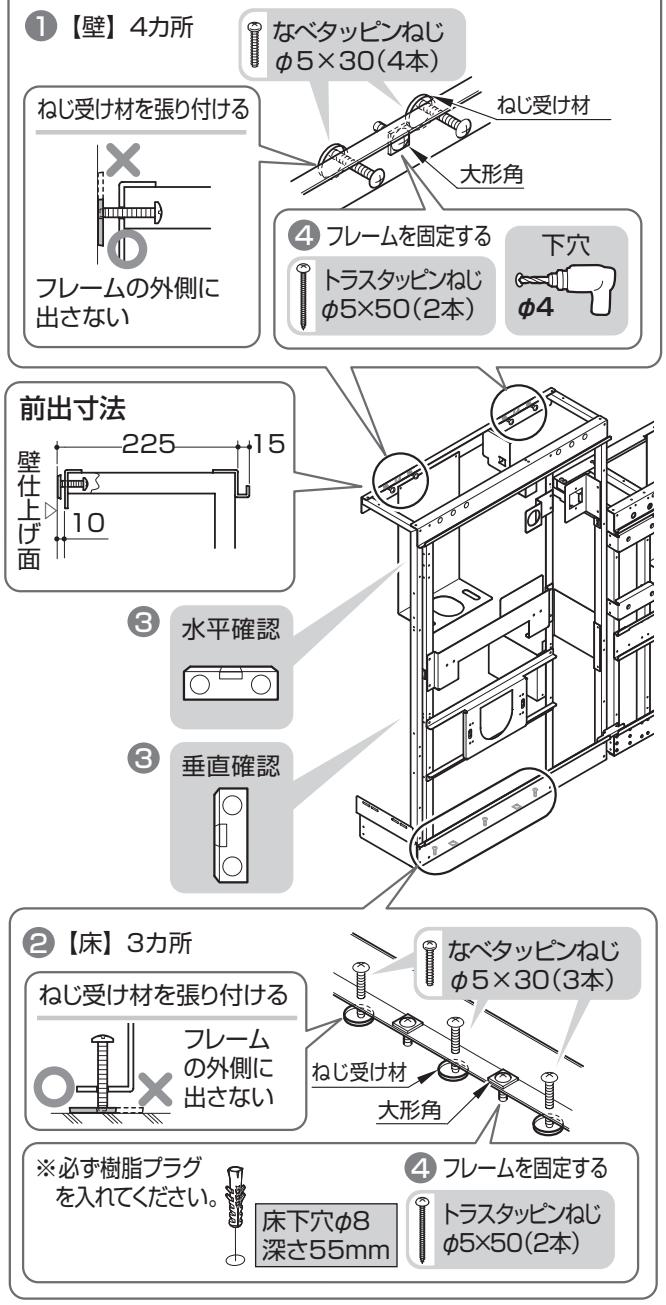


❸ フレームの調整、固定

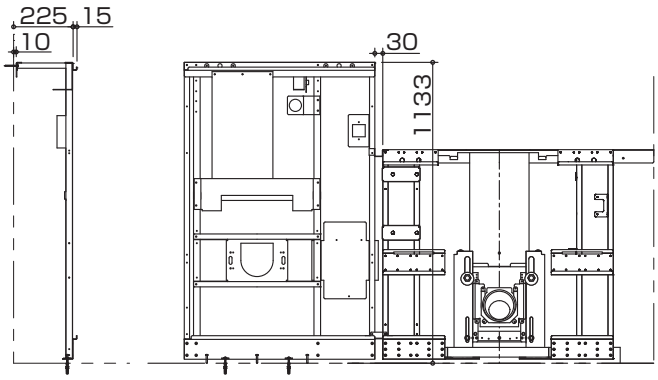
※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。

ポイント

ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。



フレーム調整寸法

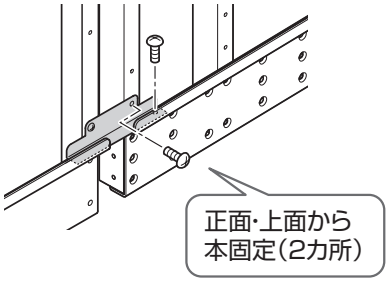


❹ ❸ で調整したねじを本固定する

❺ フレームの連結

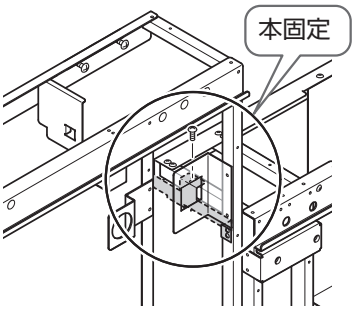
大便器部フレームと汚物流し部フレームを連結する

バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）



❻ 連結材の本固定

バインドタッピンねじ
φ4×8（1本）



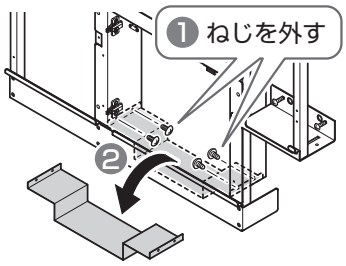
MEMO

4 操作系部フレーム
の取り付け準備、取り付け

❶ チャームボックス受け材を外す

バインドタッピンねじ
φ4×8（4本）

取り外した部品は STEP11 チャームボックスの取り付け（▶P.63）で使用しますので、ねじと一緒に保管しておいてください。

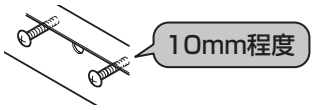


❷ 調整ねじの取り付け（フレーム準備）

❶【上部】4カ所

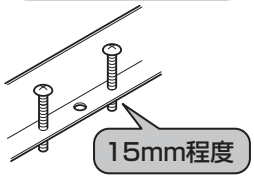
なべタッピンねじ
φ5×30（4本）

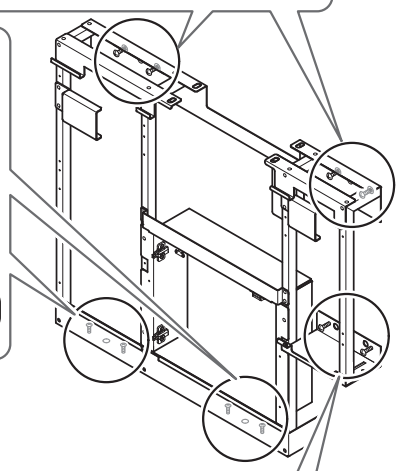
250mm以上の
ロングビット



❶【下部】4カ所

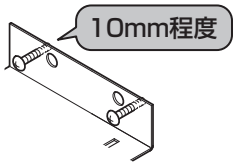
なべタッピンねじ
φ5×30（4本）





❶【下部】2カ所

なべタッピンねじ
φ5×30（2本）



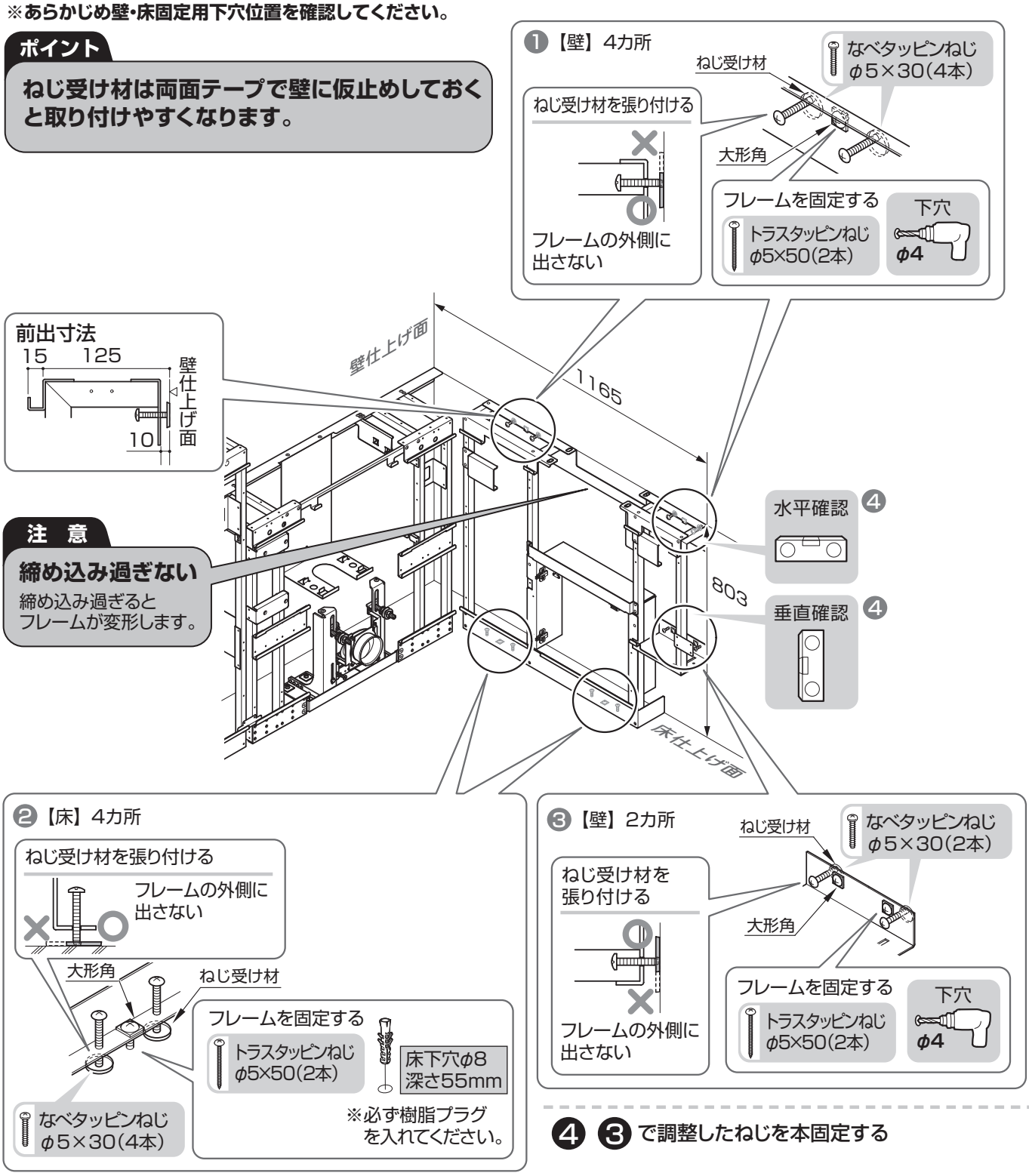
MEMO

❸ フレームの位置調整

※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。

ポイント

ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。



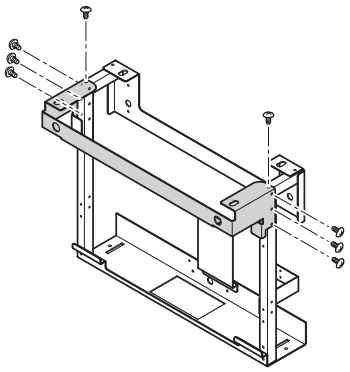
❹ ❸で調整したねじを本固定する

MEMO

5 洗面器部フレーム
の取り付け準備、取り付け

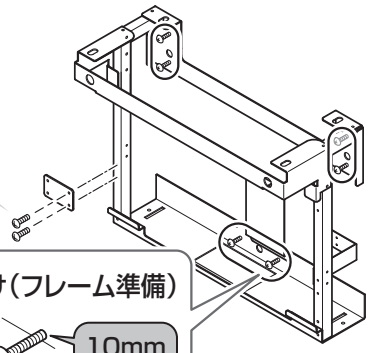
❶ 横材の固定

洗面器部フレームに同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8（8本）



❷ 連結材の固定

洗面器部フレームに同梱
バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）

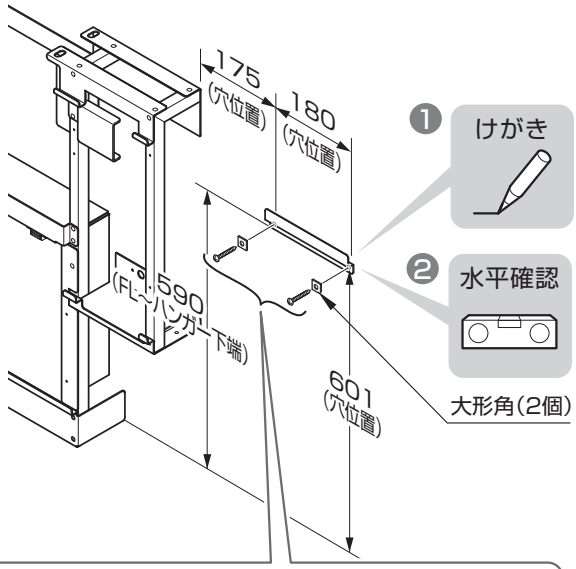


❸ 調整ねじの取り付け（フレーム準備）

なべタッピンねじ
φ5×30（6本）

10mm
程度

❹ フレームハンガーの取り付け

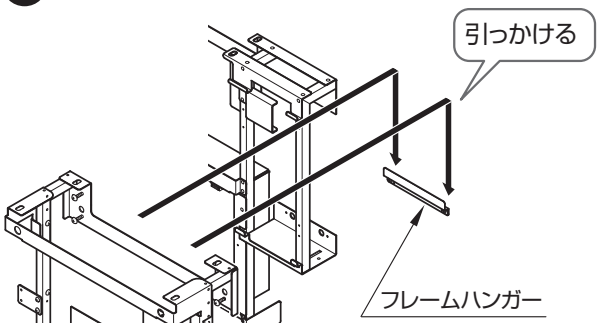


❸ 本固定
※壁下地コンクリートの場合
必ず樹脂プラグを入れてください。

壁下穴φ8
深さ:仕上げ厚+55mm以上

トラスタッピンねじ
φ5×50（2本）

❺ フレームの引っかけ

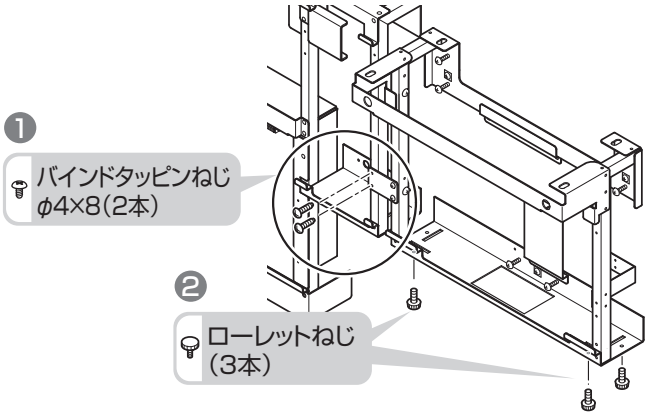


注　意

ハンガーとフレームは固定しない

フレームハンガーは、洗面器部フレームを取り付けやすくする部材です。

❻ 操作系部フレームと洗面器部フレームを連結する

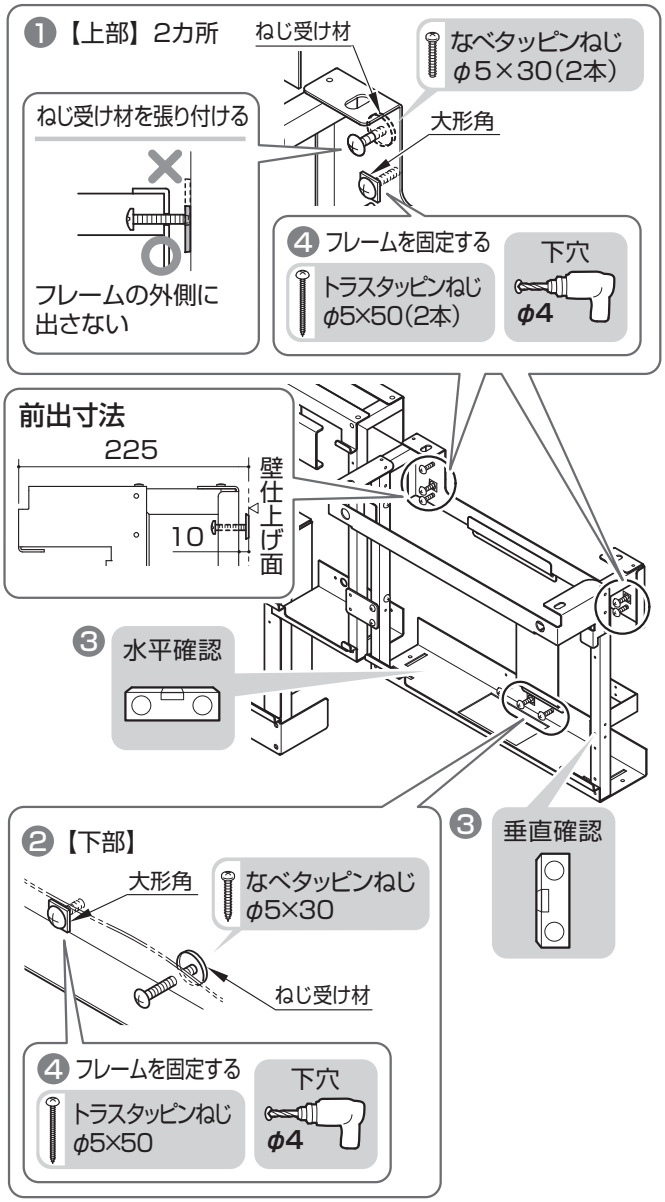


MEMO

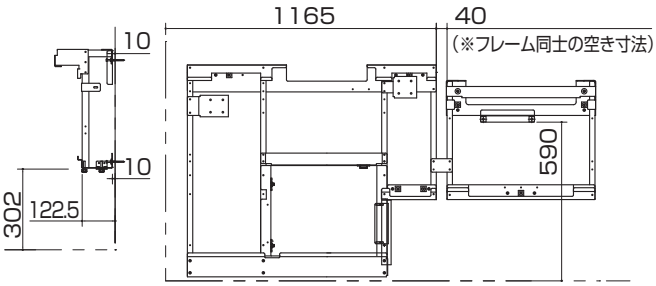
❼ フレームの調整、固定

ポイント

ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。



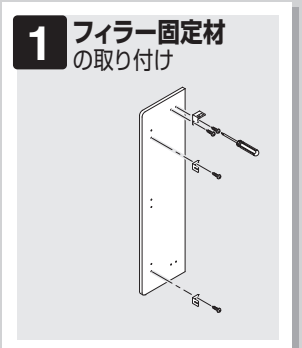
フレーム調整寸法



❽ ❼ で調整したねじを本固定する

MEMO

STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合）



▶P.37

▶P.38

▶P.38

▶P.39

※本施工説明書では、側板が向かって左側に取り付く場合を記載します。
側板が向かって右側に取り付く場合は左右反転になります。

注　意

- **ドライバーで手締めすること**
- **フィラー固定材の向きを間違えない**

1 フィラー固定材の取り付け

タイプ	フィラー固定材取り付け位置
汚物流しあり（側板あり）	汚物流し部側板
汚物流しあり（側板なし）	汚物流し部フレーム

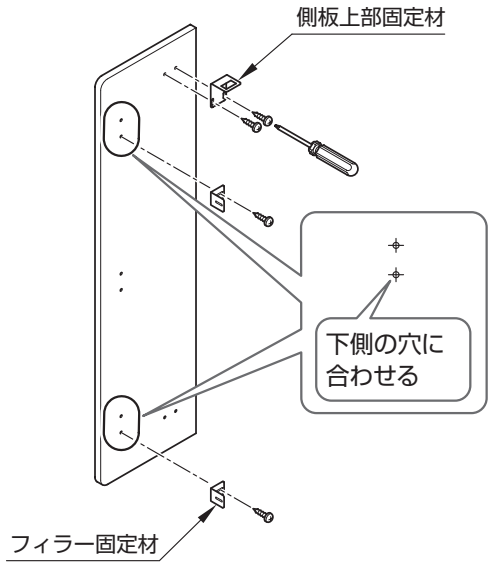
汚物流し部（側板あり）

❶ フィラー固定材と側板上部固定材をねじで仮固定する
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度。

【汚物流し部】

タッピンねじ
φ4×12（4本）

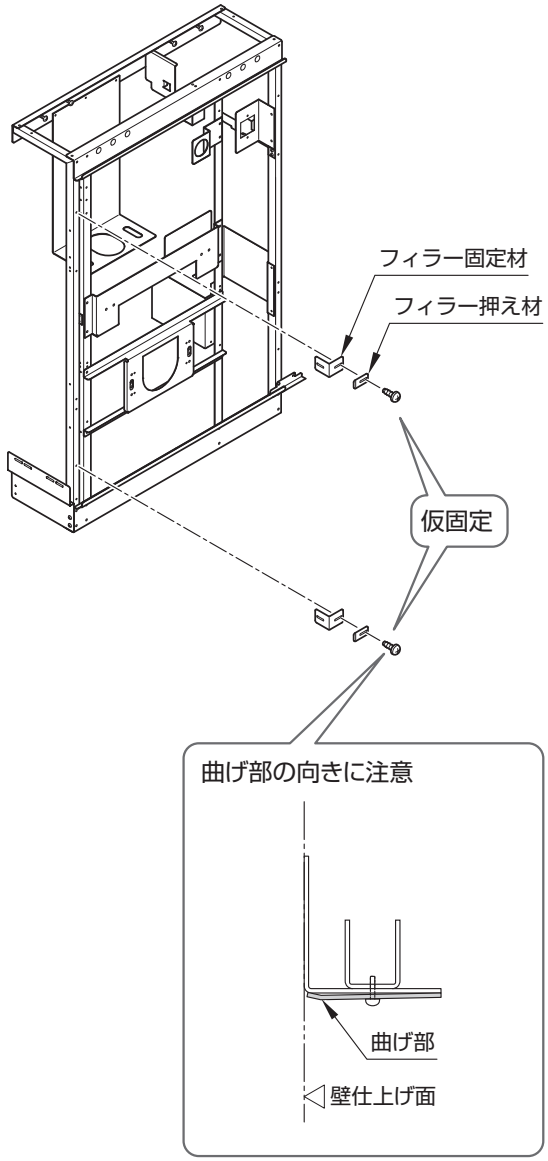
手締めで



汚物流し部（側板なし）

❶ フィラー固定材とフィラー押え材をフレームに仮固定する

バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）



2 側板の仮固定

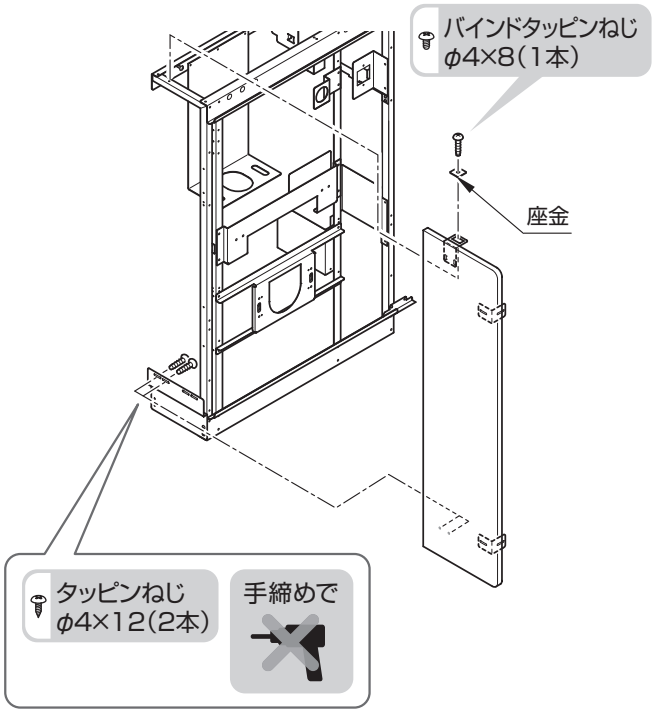
タイプ	側板取り付け位置
汚物流しあり・洗面器あり	汚物流し部フレーム・洗面器部フレーム
汚物流しあり・洗面器なし	汚物流し部フレーム・操作系部フレーム
汚物流しなし・洗面器あり	大便器部フレーム・洗面器部フレーム
汚物流しなし・洗面器なし	大便器部フレーム・操作系部フレーム

ポイント

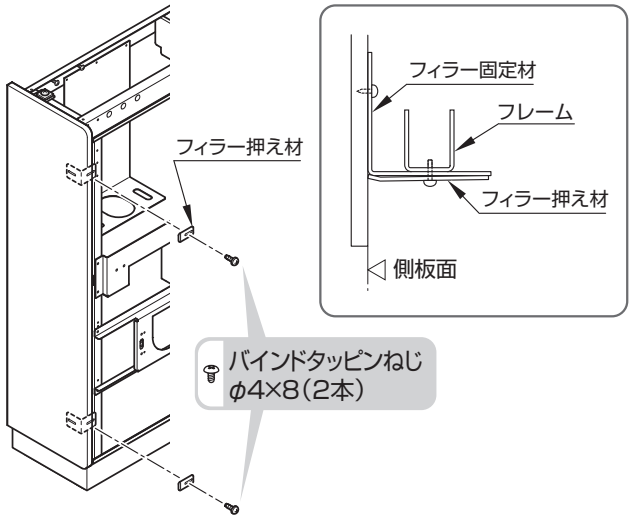
フレームに側板を取り付ける時は、電動ドライバーは使用せず、手締めで作業する
締め込み過ぎにより空転を起こすおそれがあります。

汚物流し部

1 側板を側板下部固定材と側板上部固定材にて仮固定
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度



2 フィラー押え材をフィラー固定材の位置に仮固定する
※側板を動かせる程度

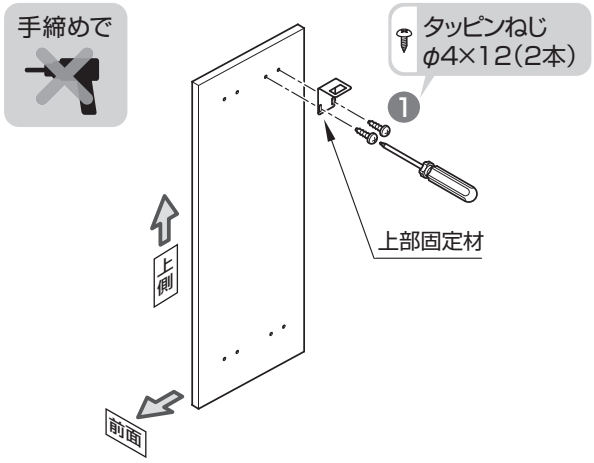


3 側板の準備

大便器部/操作系部/洗面器部

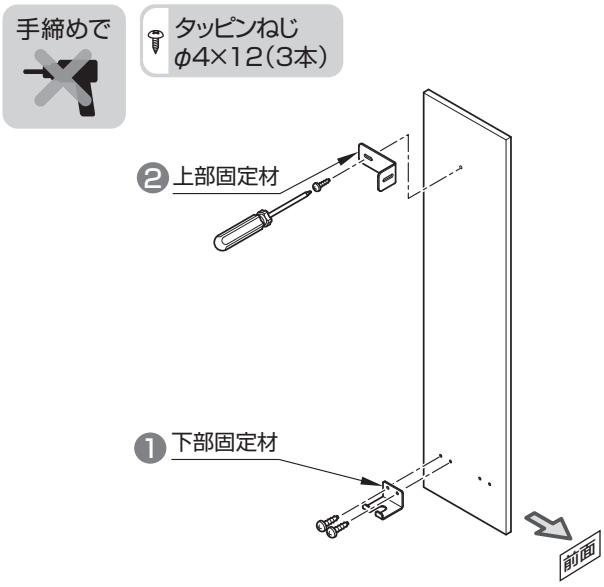
1 上部固定材と下部固定材を固定

【大便器部(汚物流しなしの場合)】

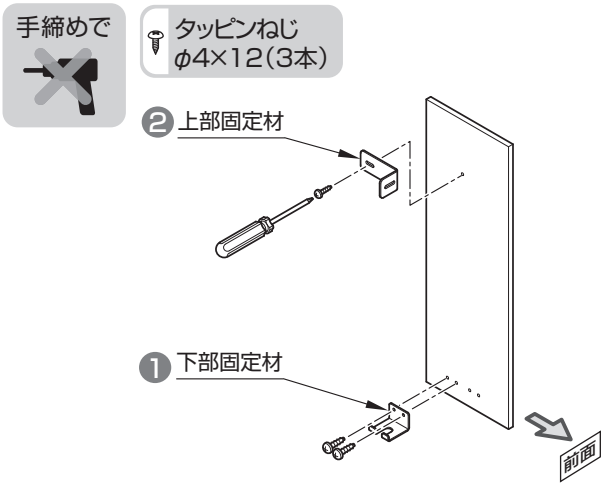


※大便器側の下部固定材はSTEP1で取り付けているため不要です。

【操作系部(洗面器なしの場合)】

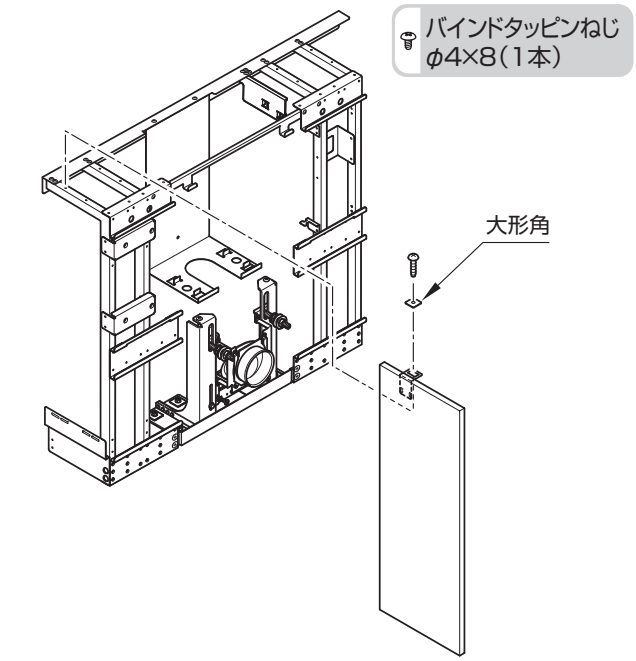


【洗面器部(洗面器ありの場合)】

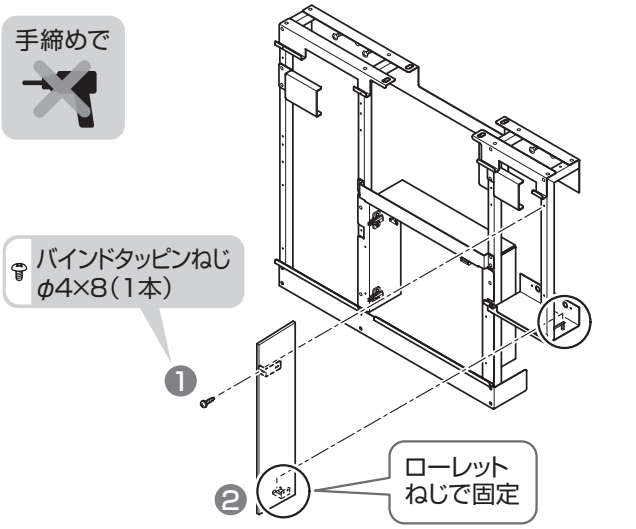


❷ フレームに側板を仮固定

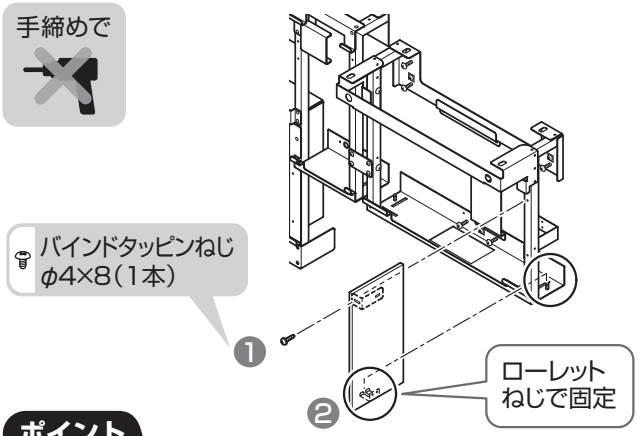
【大便器部（汚物流しなしの場合）】



【操作系部（洗面器なしの場合）】



【洗面器部（洗面器ありの場合）】



ポイント

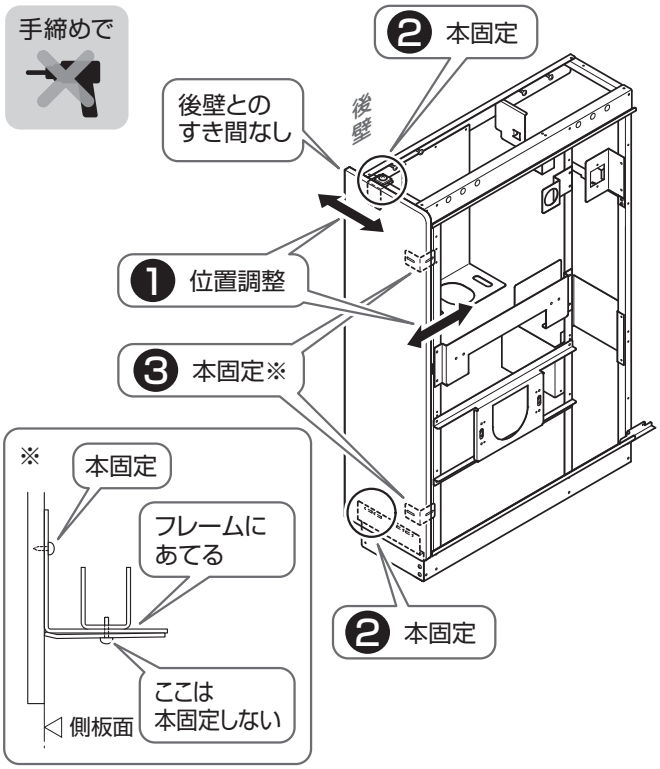
- **側板は落下しない程度に仮固定する**
- **本固定は、前板を基準に調整し、本固定する**

4 側板の本固定

ポイント

ドライバーで手締めすること

【汚物流し部】



MEMO

STEP3.排水継手

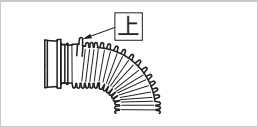
汚物流し用排水継手です。
「汚物流しなし」の場合P.41「STEP4.止水栓」に進んでください。

汚物流しありの場合

▶単独排水管継手施工説明書参照

チェック

- **単独排水管継手の向きを確認**



- **排水ソケットが幕板とソケット押え板の中で上下左右に動くことを確認**

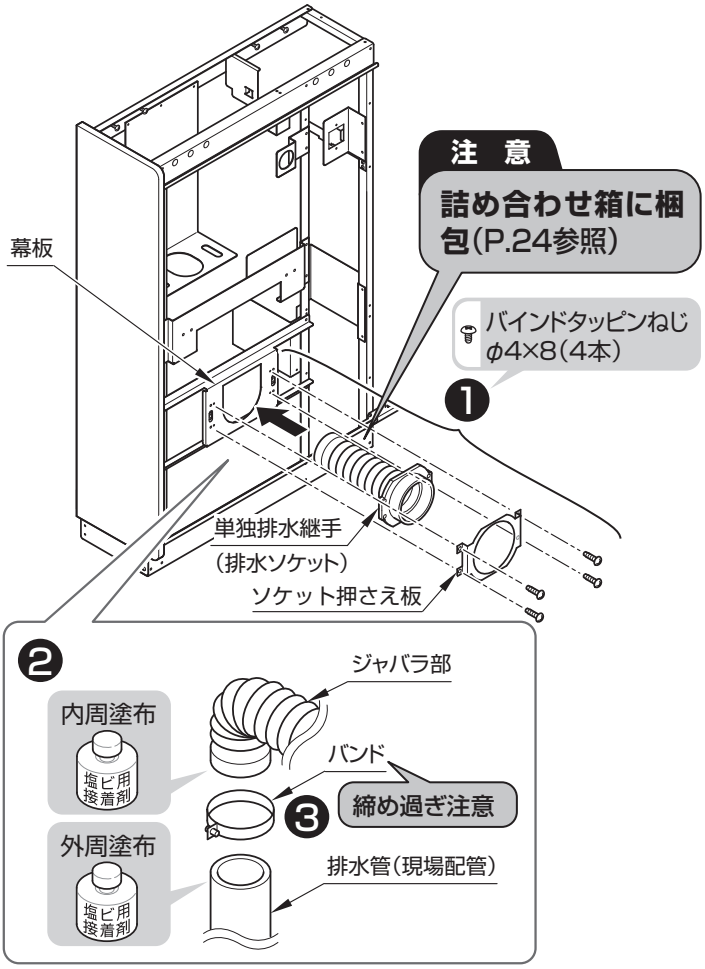
パッキンは陶器固定の際に使用しますので、捨てずに保管してください。

⚠注意

必ず実行

- ジャバラ部は必ず排水管に接着する
- ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



MEMO

STEP4.止水栓

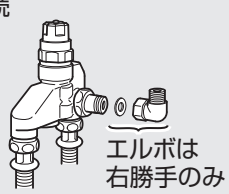
【大便器部】と【汚物流し部】で施工方法が異なります。
商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

1 止水栓・分岐金具・L継手（サーモスタット）の取り付け

大便器部 ▶P.41

汚物流し部 ▶P.42

2 サーモスタット・止水栓の接続



汚物流し部 ▶P.43

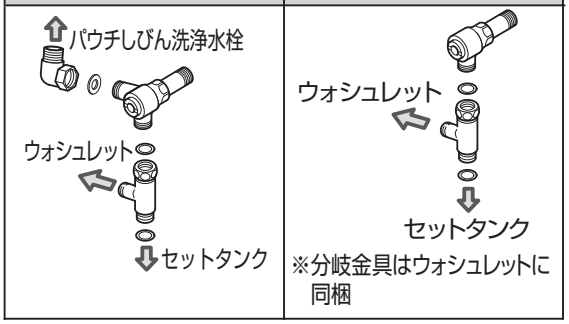
大便器部

1 止水栓・分岐金具・L継手の取り付け

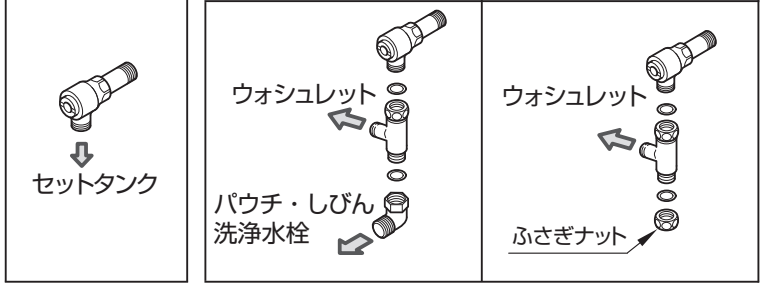
注　意
詰め合わせ箱に梱包

選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。下表に従い、図の向きに合わせて取り付けてください。

水道水仕様の場合

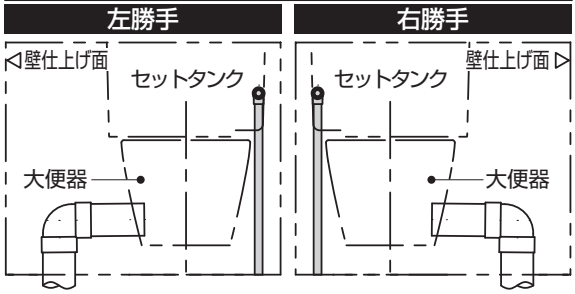
ウォシュレットあり・パウチしびん洗浄水栓あり	ウォシュレットあり・パウチしびん洗浄水栓なし
	

再生水仕様の場合

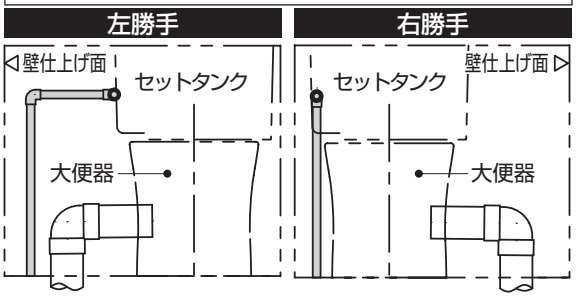
再生水側	水道水側	
	ウォシュレットあり・パウチ・しびん洗浄水栓あり	ウォシュレットあり・パウチ・しびん洗浄水栓なし
		

＜給水立ち上げ位置＞

壁掛大便器の場合

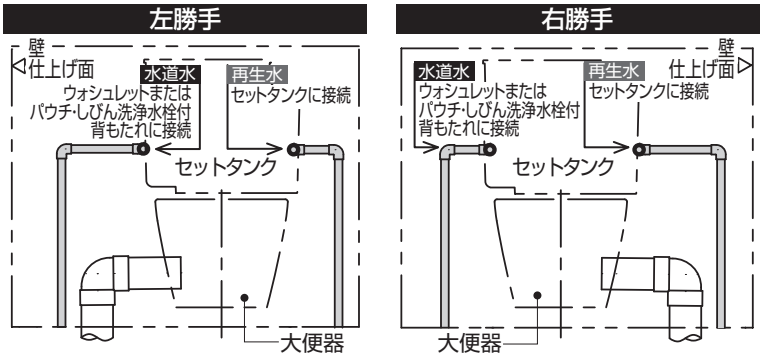


床置大便器の場合



＜止水栓位置＞

注　意
給水接続は、水道水と再生水を間違えないように注意する

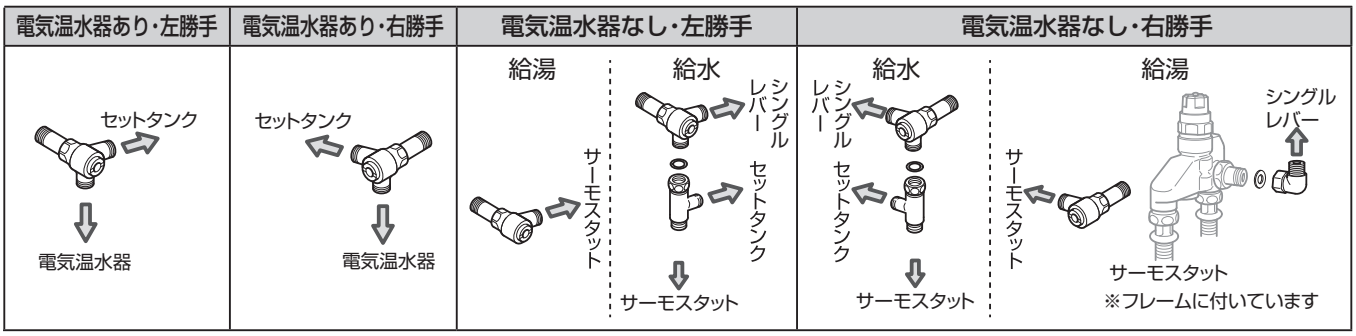


汚物流し部

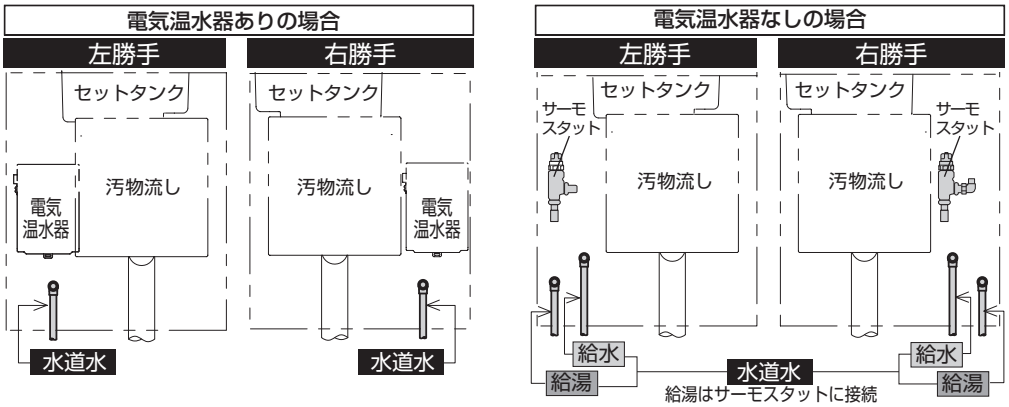
1 止水栓・分岐金具・L継手(サーモスタット)の取り付け

選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。
下表に従い、図の向きに合わせて取り付けてください。

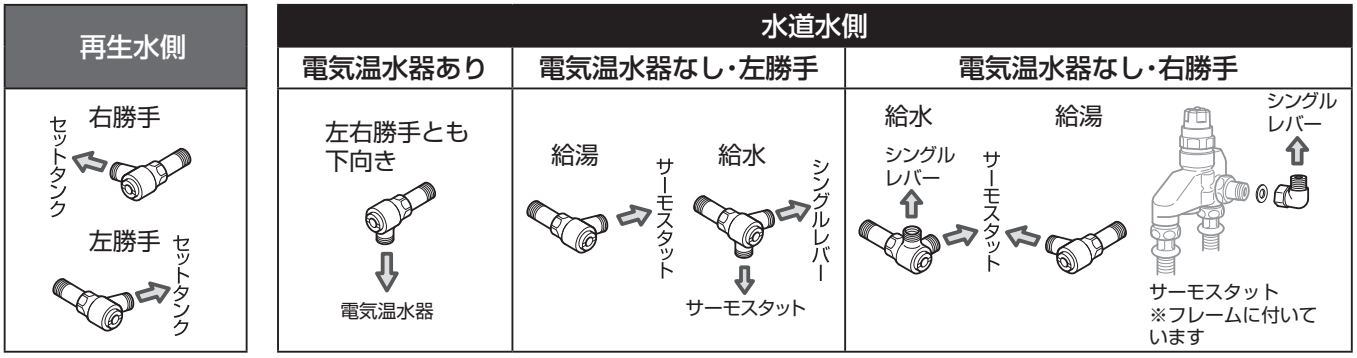
水道水仕様の場合



＜給水立ち上げ位置＞



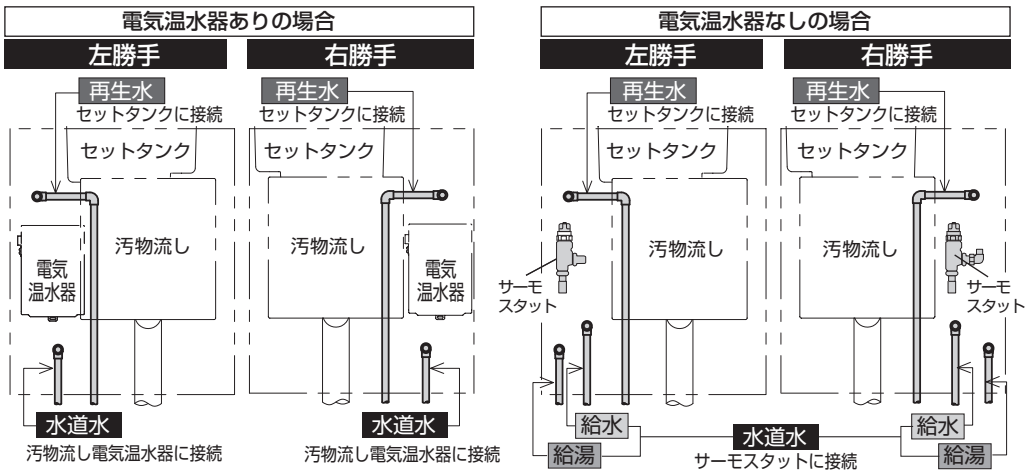
再生水仕様の場合



＜止水栓位置＞

注　意

給水接続は、水道水と再生水を間違えないように注意する



2 サーモスタット・止水栓の接続

下記表を参考に、各止水栓とサーモスタットをフレキ管で接続します。

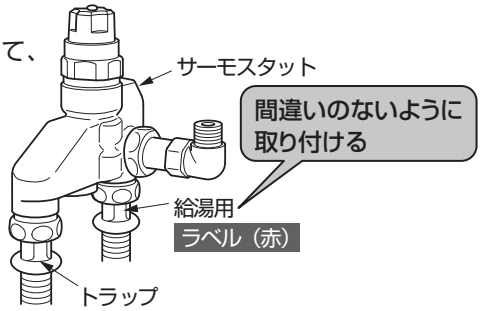
サーモスタットの接続先	フレキ管長さ
止水栓（給水管用）	約600mm
止水栓（給湯管用）	約400mm

⚠ 警告

禁止

湯水を逆に接続しない
水を出そうとした際に湯が出て、やけどの原因になります。

【サーモスタットの取出口】
・奥（壁）側…給湯用
・手前側……給水用



⚠ 注意

必ず実行

フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

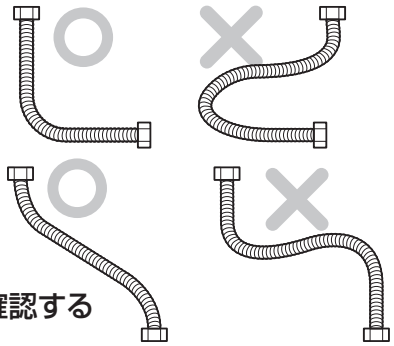
・フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる
フレキ管は小さい角度で曲げないでください。
また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。

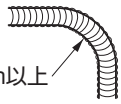
・1～2回程度の曲げで所定の形にする
曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。

・必ず同梱のパッキンを使用する

・袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認する

・フレキ管は極端に折らず、R60以上を確保する

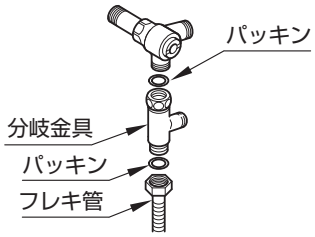




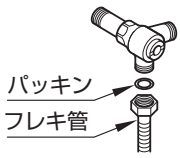
止水栓（給水管用）は一方の口をサーモスタットと接続し、もう一方の口はシングルレバーと接続します。
下記を参照して、接続する口を間違えないよう取り付けてください。
▶シングルレバーとの接続 P.72 STEP13参照

左勝手の場合

水道水仕様の場合

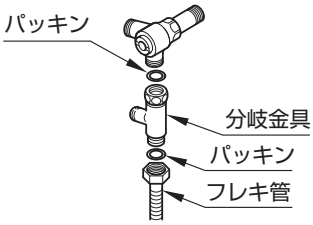


再生水仕様の場合

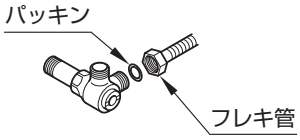


右勝手の場合

水道水仕様の場合



再生水仕様の場合

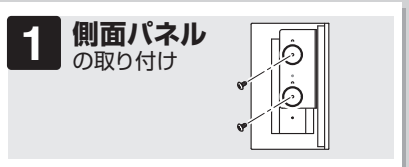


⚠ 注意

禁止

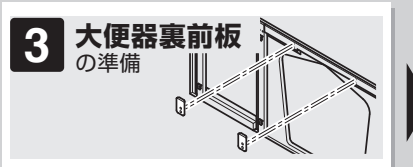
接続する給水口を逆に配管しない
フレキ管に無理な力がかかってキンクの原因となり水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

STEP5.側面パネル・前板(準備)



▶P.44

▶P.44



▶P.44

▶P.44

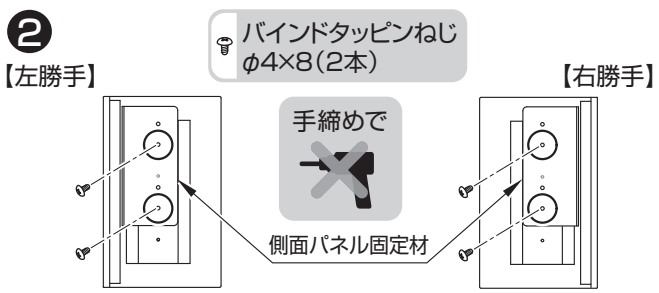
▶P.45

1 側面パネルの取り付け

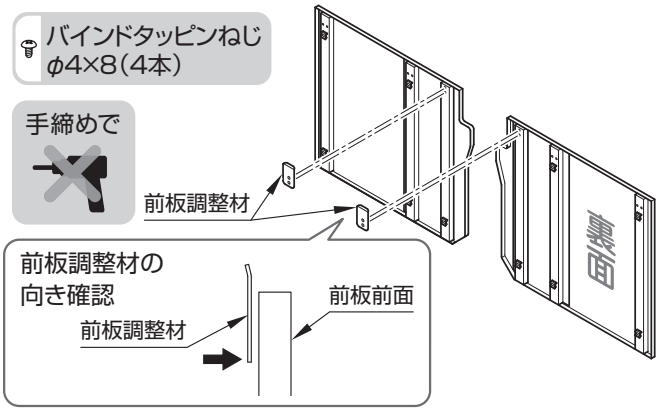
洗面器ありの場合のみ

❶ 養生フィルムをはがす

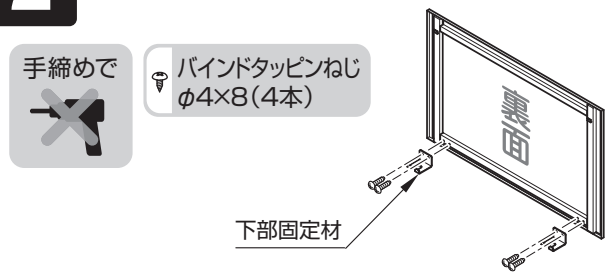
❷



床置大便器の場合

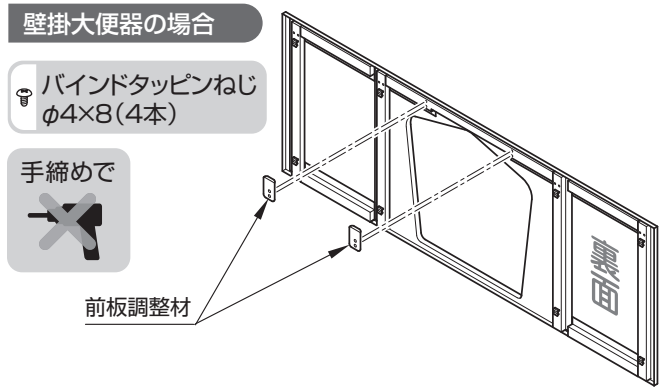


2 洗面器部前板の準備



3 大便器裏前板の準備

壁掛大便器の場合



4 停電対応ユニットの準備

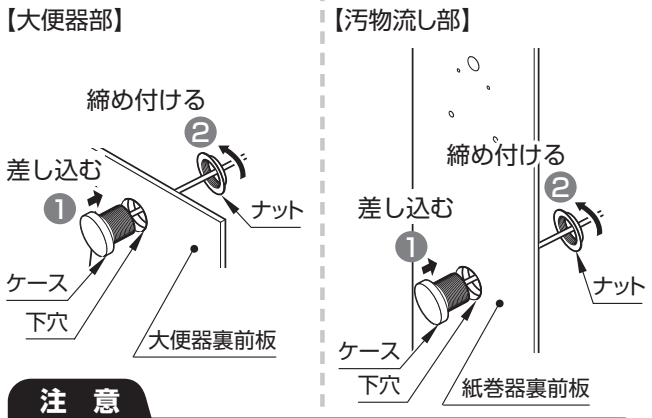
停電対応の場合

【大便器部／汚物流部共通】

❶ 養生フィルムをはがす

❷ 詰め合わせ箱からワイヤーユニットを出し、前板に取り付ける

❸



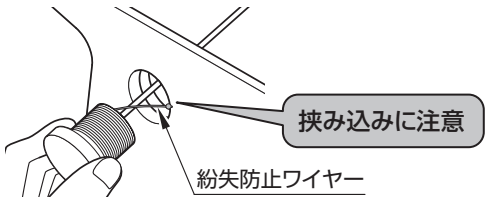
注 意

確実に締め付けること

締め付けが弱いと使用時に押ボタンが外れるおそれがあります。

❹ 紛失防止ワイヤーを下にして、ワイヤーユニットを取り付ける

※開口にゴミやワイヤーが入らないようにしてください。



5 前板の仮組み・側板の固定

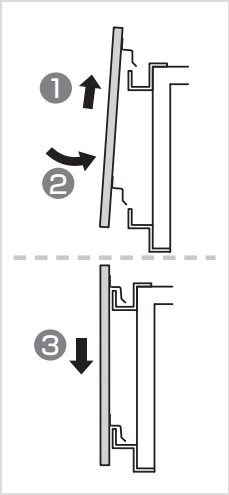
注 意

仮組みの段階で養生フィルムははがさない

壁掛大便器

❶ ①～⑩ の順番で前板を設置する

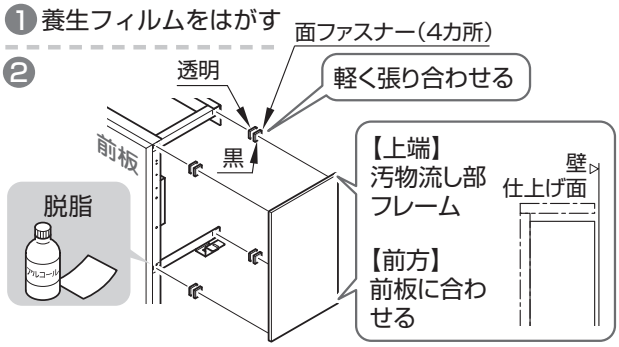
側面パネル・前板の取り付け方



❷ 汚物流し側面パネル取り付け

❶ 養生フィルムをはがす

❷



❸ 面ファスナーの確認

面ファスナー（黒）が側面パネルの裏面に全て張り付いているか側面パネルを一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

（1）面ファスナー（黒）を外す

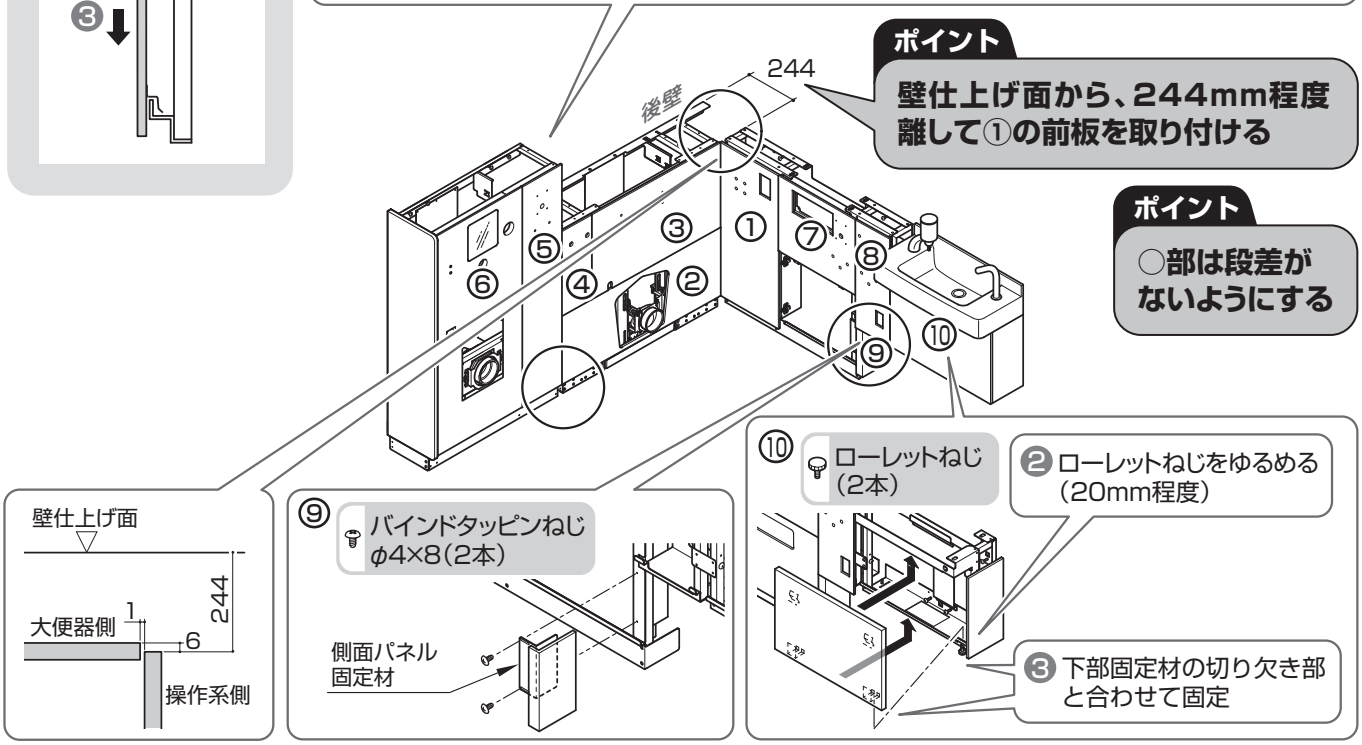
（2）フレーム側の面ファスナー（透明）の位置に合わせて、面ファスナー（黒）を側面パネルに張り直す

ポイント

壁仕上げ面から、244mm程度離して①の前板を取り付ける

ポイント

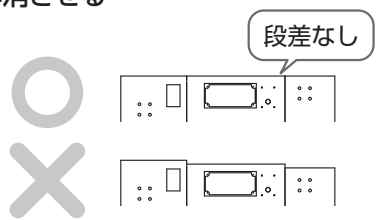
○部は段差がないようにする



❸ 各前板の段差を解消させる

【ポイント】

③、④ の上部段差
⑤、⑥ の上部段差
①、⑦、⑧ 上部段差
⑧、⑨ の縦線
⑨、⑩ の下部段差



【上下段差が解消しない場合】

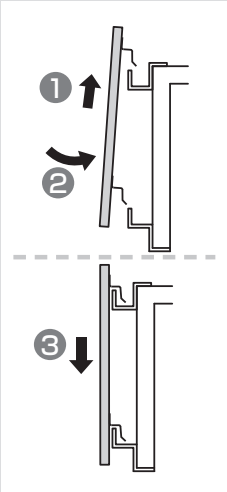
前板の仮組みを行い、上下段差、面段差を解消させる。

▶フレーム調整方法 STEP1参照

床置大便器

❶ ①～⑪の順番で前板を設置する

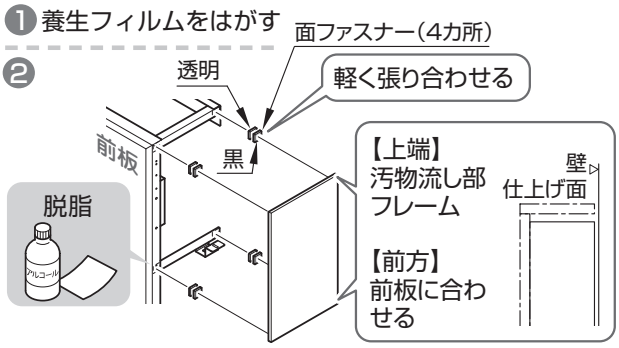
側面パネル・前板の取り付け方



❷ 汚物流し側面パネル取り付け

❶ 養生フィルムをはがす

❷



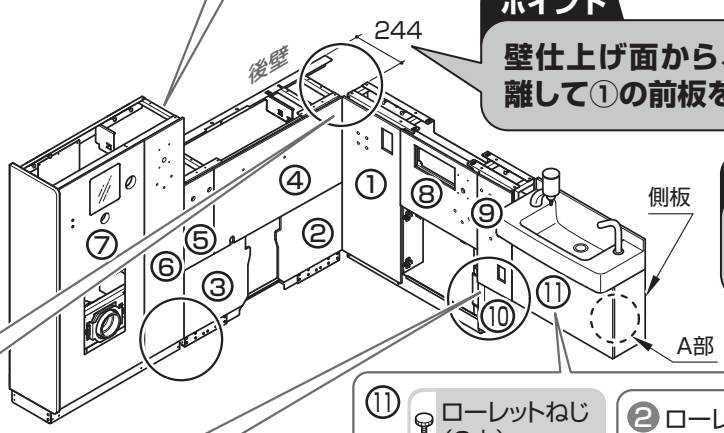
❸ 面ファスナーの確認

面ファスナー(黒)が側面パネルの裏面に全て張り付いているか側面パネルを一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

(1)面ファスナー(黒)を外す

(2)フレーム側の面ファスナー(透明)の位置に合わせて、面ファスナー(黒)を側面パネルに張り直す

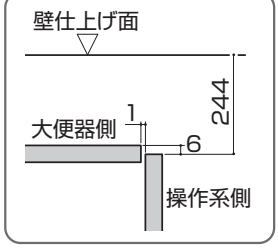


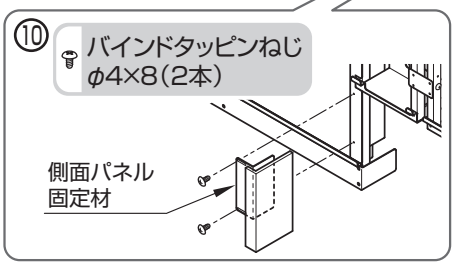
ポイント

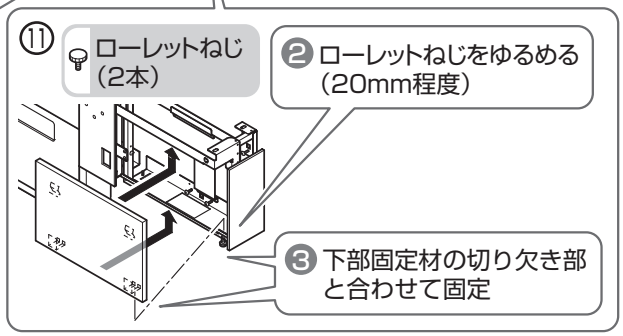
壁仕上げ面から、244mm程度離して①の前板を取り付ける

ポイント

○部は段差がないようにする



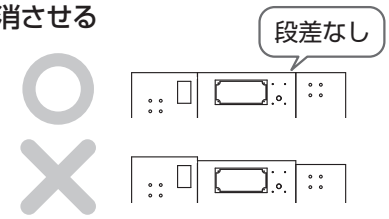




❸ 各前板の段差を解消させる

【ポイント】

④、⑤ の上部段差
⑥、⑦ の上部段差
①、⑧、⑨ 上部段差
⑨、⑩ の縦線
⑩、⑪ の下部段差



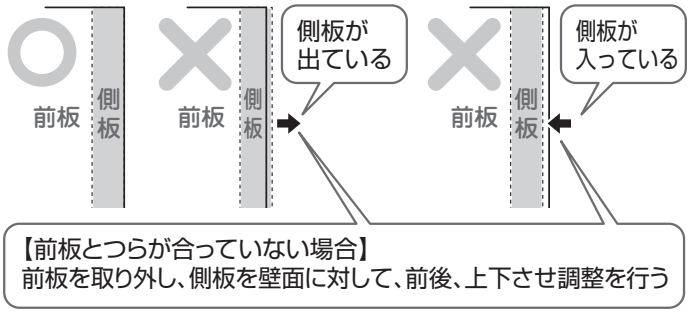
【上下段差が解消しない場合】
前板の仮組みを行い、上下段差、面段差を解消させる。
▶フレーム調整方法 STEP1参照

MEMO

共通

❹ 側板の調整、固定

【正面から見た図】 ※P46 A部の例

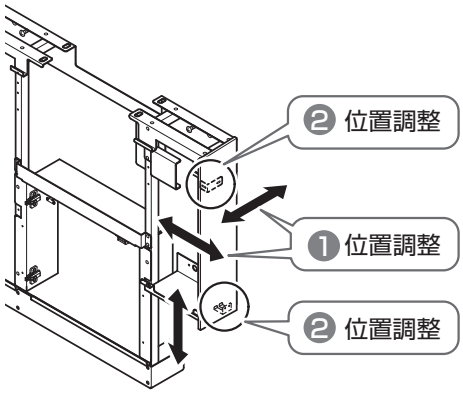


【前板とつらが合っていない場合】
前板を取り外し、側板を壁面に対して、前後、上下させ調整を行う

調整方法

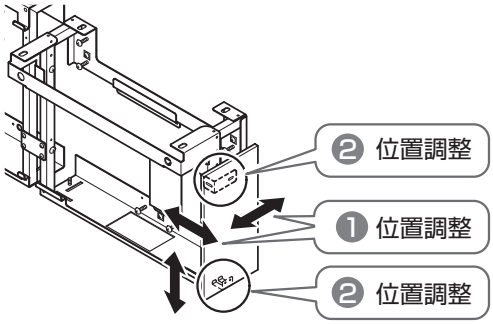
【操作系部】

手締めで



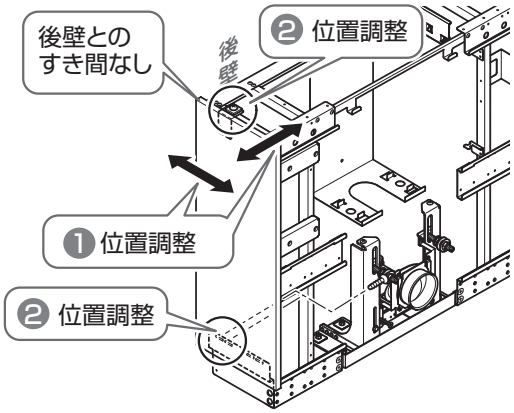
【洗面器部】

手締めで



【大便器部】

手締めで



バインドタッピンねじ
φ4×12（2本）

❺ 調整したねじを固定する

手締めで

※前板を取り付け、取り外ししながら現場で調整してください。

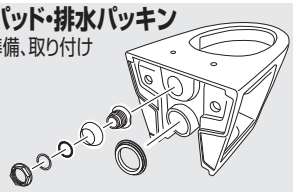
❻ 調整完了後、全ての前板を取り外す

MEMO

STEP6.大便器

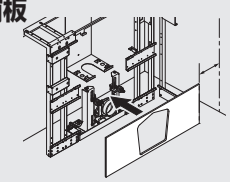
壁掛大便器

1 スパッド・排水パッキン の準備、取り付け



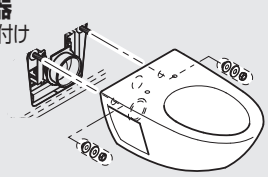
▶P.48

2 大便器前板 の取り付け



▶P.49

3 大便器 の取り付け



▶P.50

床置大便器

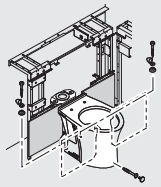
1 大便器の仮固定

▶P.51

2 排水ジョイント・排水管 の取り付け

▶排水ジョイント施工説明書

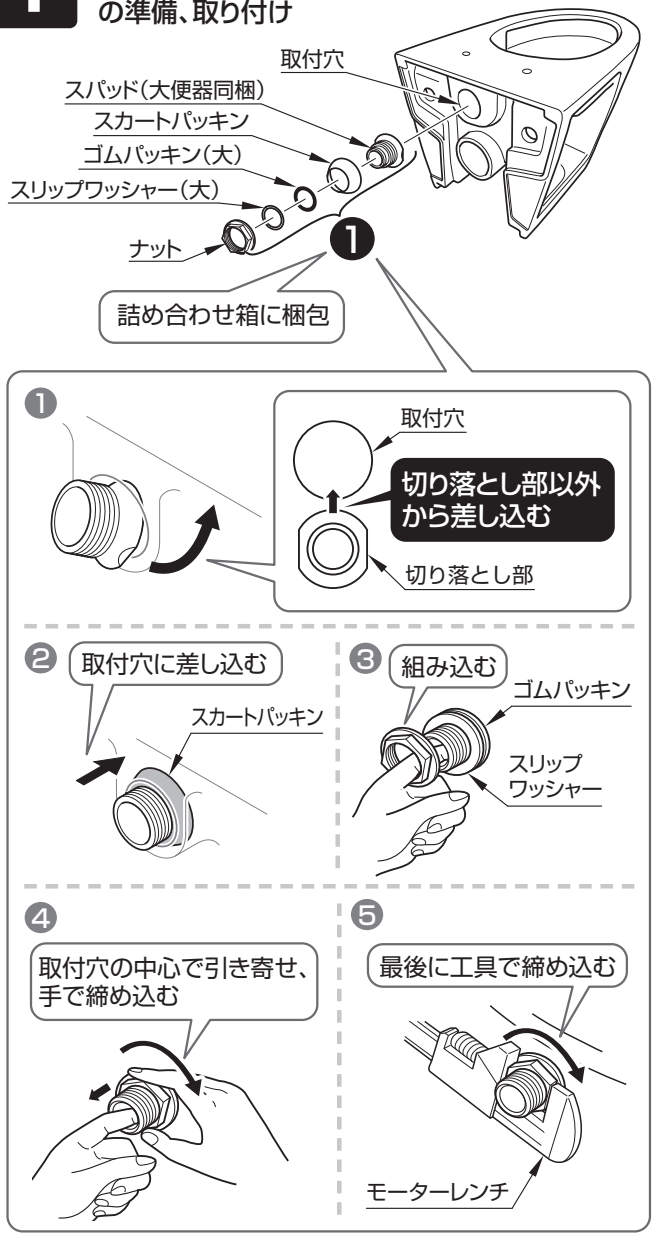
3 大便器 の取り付け

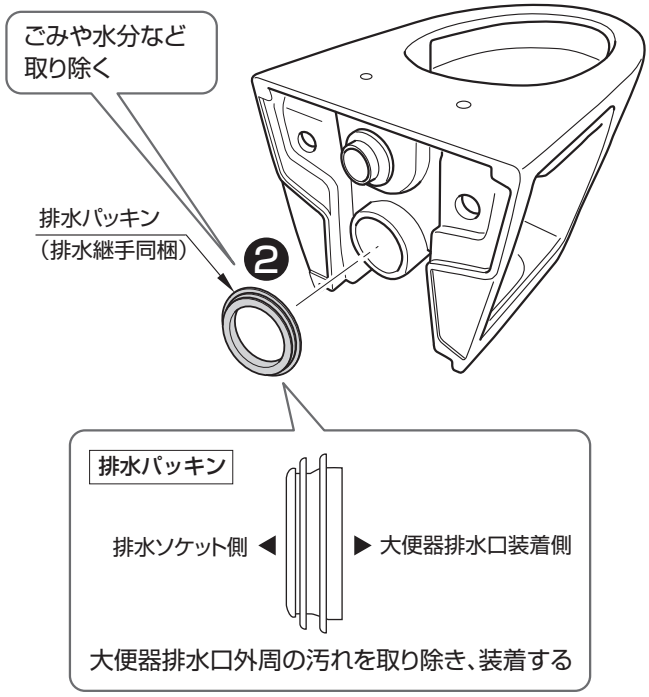


▶P.52

壁掛大便器

1 スパッド・排水パッキン の準備、取り付け





⚠ 注意

禁止

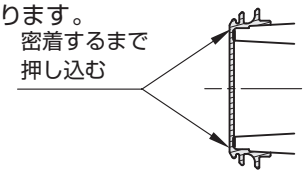
排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない

劣化し水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

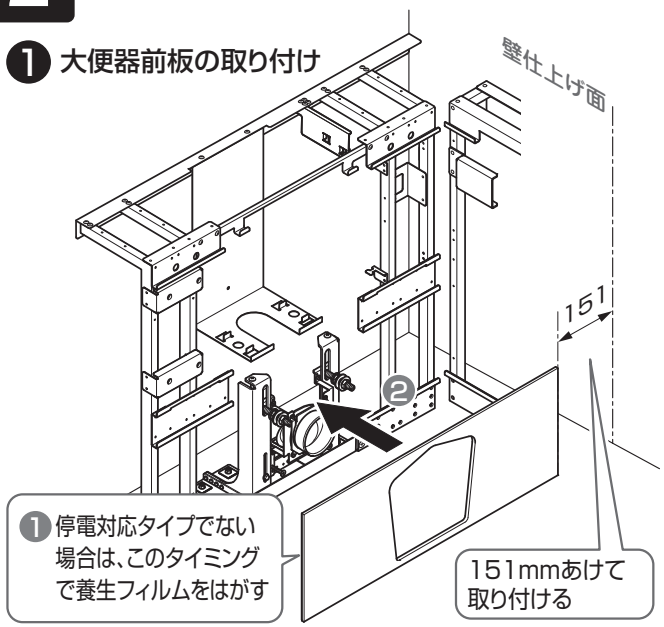
排水パッキンは大便器排水口に密着するまで押し込む

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

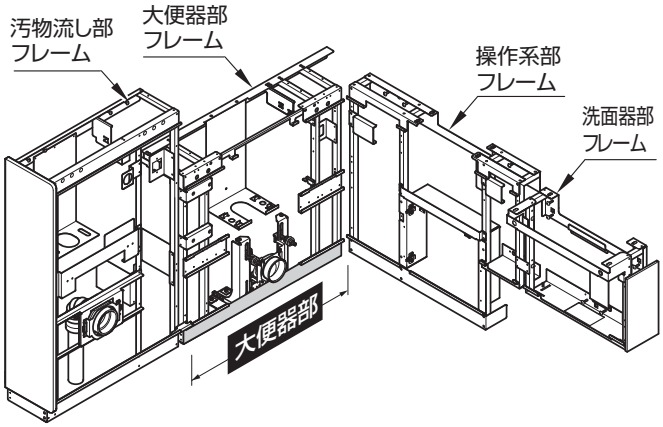


2 大便器前板の取り付け

❶ 大便器前板の取り付け



幅木の位置



❷ タイプに合わせて幅木を選定

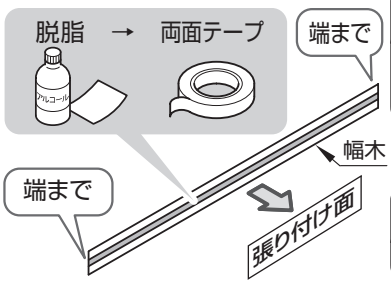
汚物流しありの場合

幅木L=900㎜（大便器部フレームに同梱）1枚を使用。

汚物流しなしの場合

幅木L=900㎜（大便器部フレームに同梱）とL型幅木（大便器部側板に同梱）を使用。

❸【裏面】



チェック

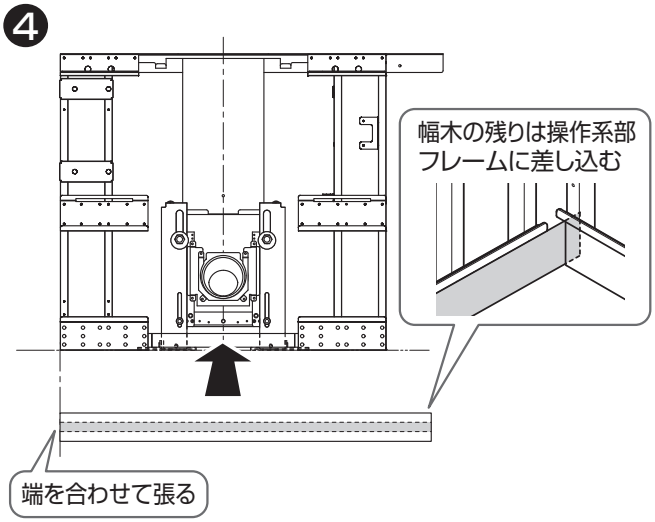
幅木裏面のほこりや油分を取り除く

ポイント

表裏を間違えない

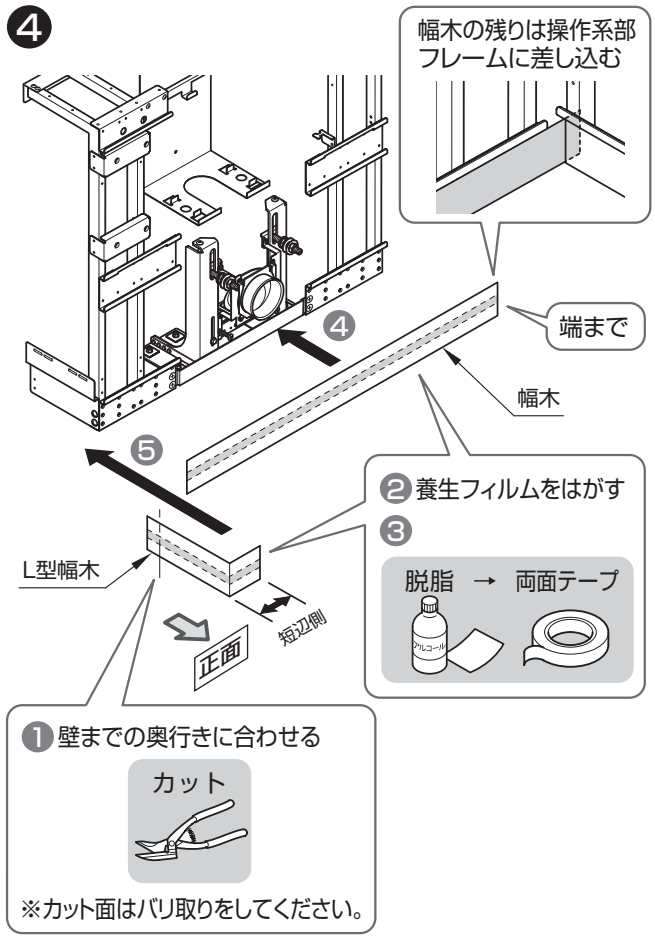
汚物流しありの場合

❹



汚物流しなしの場合

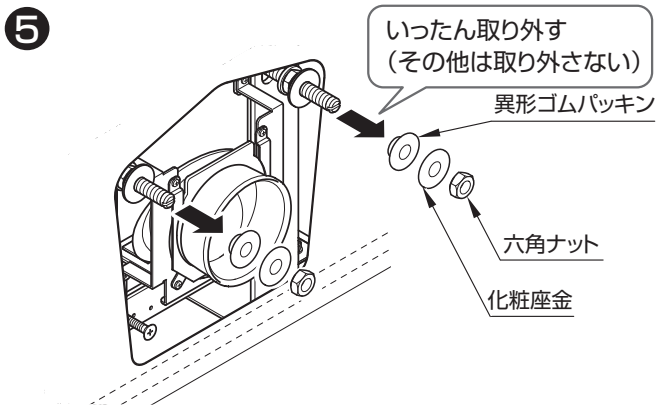
❹



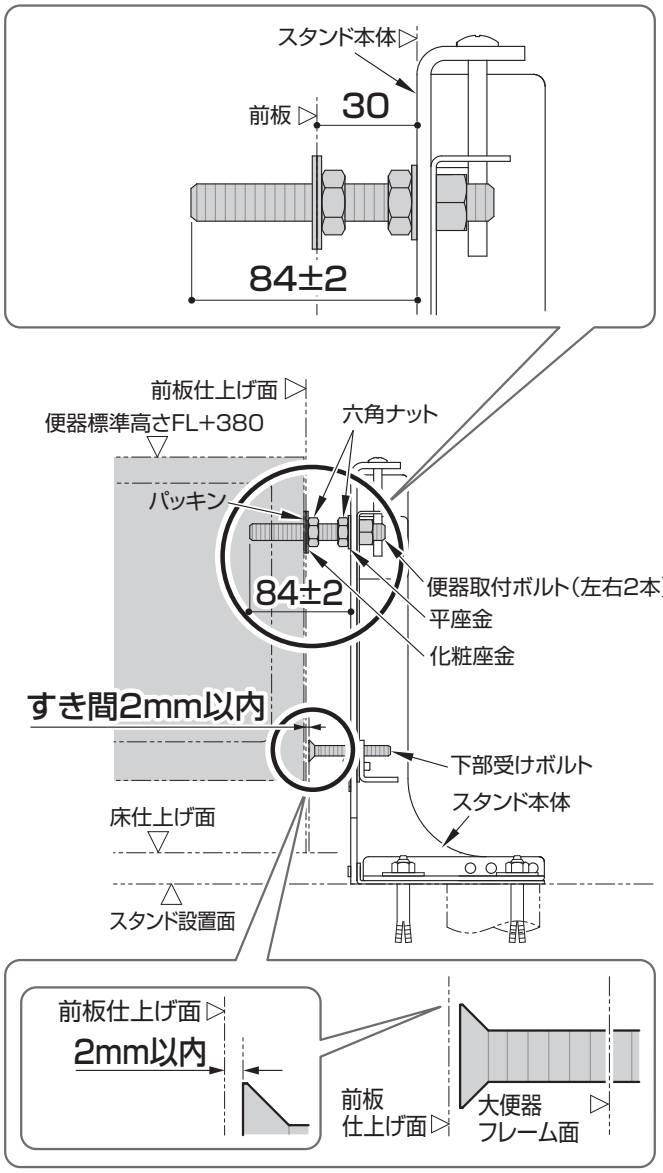
MEMO

壁掛大便器

❺



❻ 便器取付ボルトと下部受けボルトの出寸法、ナット類の調整、本固定



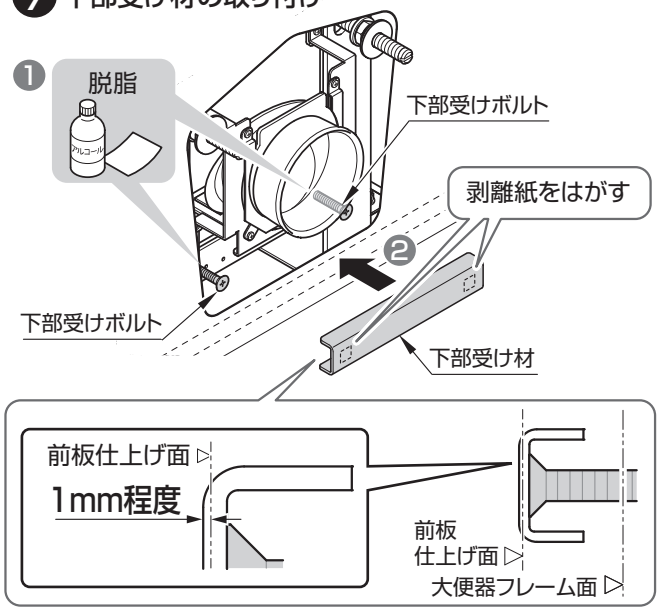
⚠ 注意

必ず守る

下部受けボルトを前板仕上げ面より2mm以上引っ込めない

壁材に荷重がかかり、壁材が破損したり水漏れの原因となります。

❼ 下部受け材の取り付け



⚠ 注意

必ず守る

- **下部受け材は必ず取り付ける**
- **下部受け材は前板仕上げ面より必ず1mm程度前に出す**

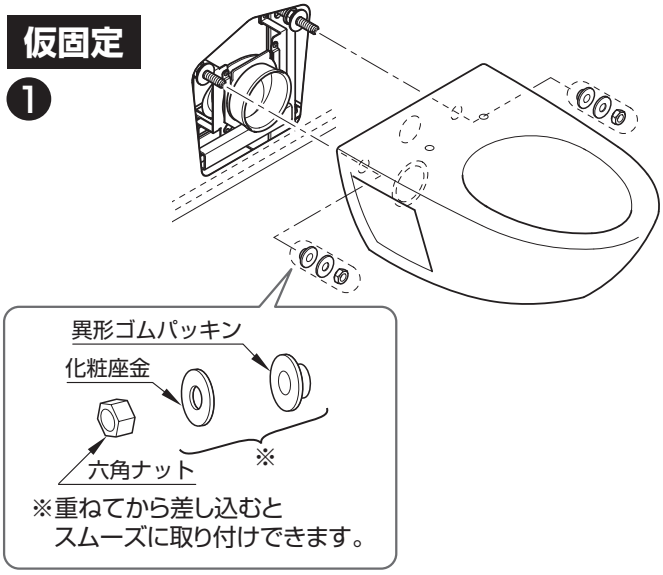
壁材に荷重がかかり、壁材が破損したり水漏れの原因となります。

3 大便器の取り付け

▶大便器同梱の施工説明書参照

仮固定

❶



※重ねてから差し込むとスムーズに取り付けできます。

⚠ 注意

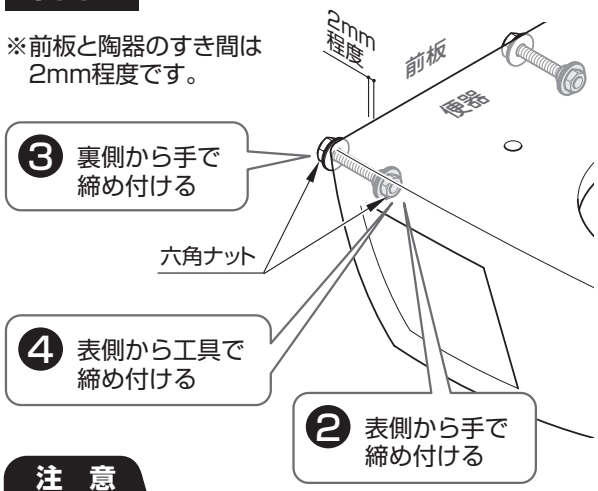
必ず守る

便器下端を必ず下部受け材に接触させ、便器にかかる荷重を2本の便器取付ボルトと下部受け材で支持する

下部受け材が前板仕上げ面より引っ込んでいると、壁材に荷重がかかり壁材が破損したり水漏れの原因になります。

本固定

※前板と陶器のすき間は2mm程度です。

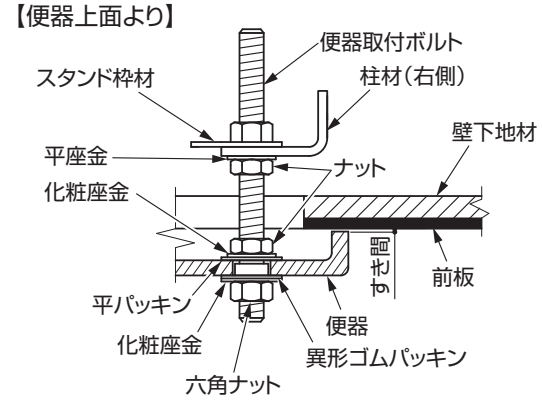


注　意

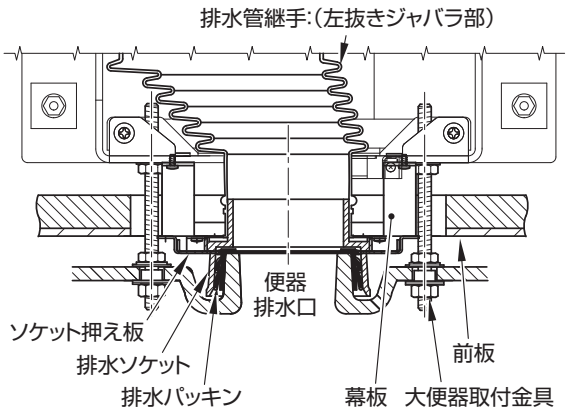
パッキンの擦れる音が発生したら、六角ナットを若干ゆるめる
大便器が破損するおそれがあります。

❺ 高さの確認

便器取付ボルト部納まり



単独排水ソケット部納まり

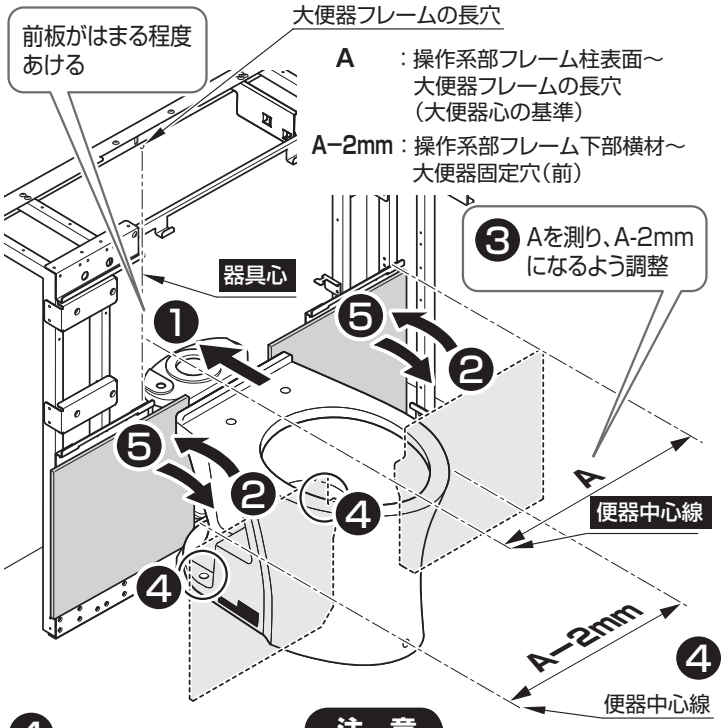


床置大便器

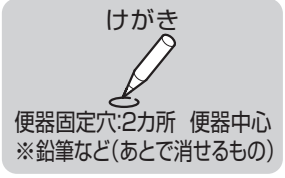
1 大便器の仮固定

❶ 大便器仮置き　❺ 調整後、前板を取り外す

❷ 前板仮設置



❹

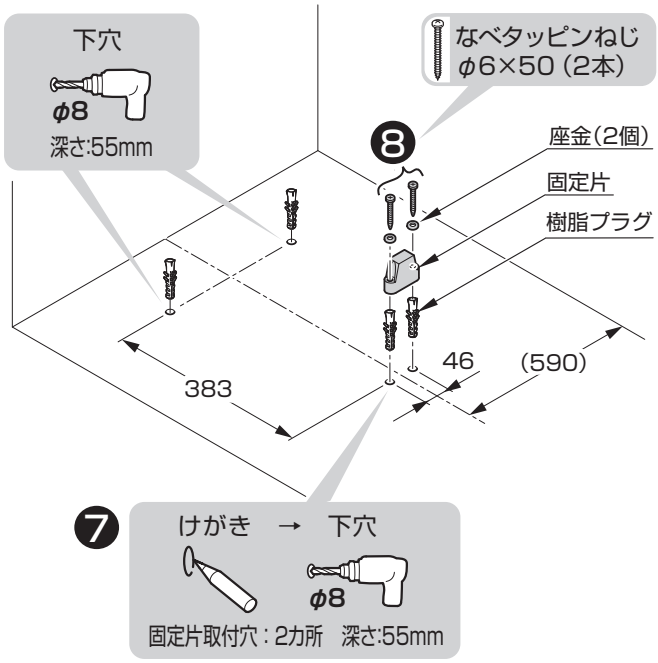


注　意

- **フレームが引っかからない場合は、大便器を少し前に出す**
- **大便器を押し当てた状態で前板が外れることを確認**

❻ 便器を取り外す

❼



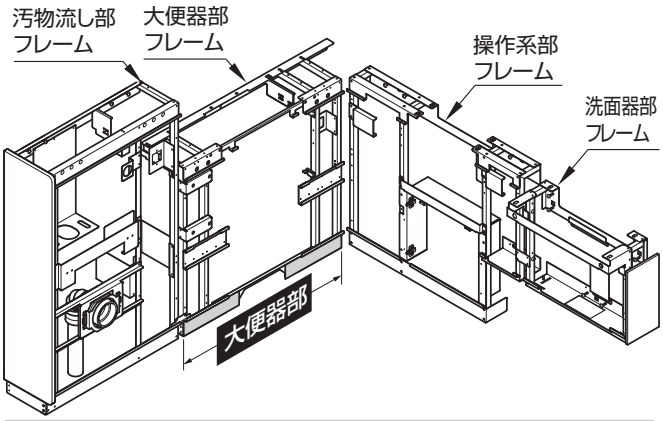
床置大便器

2 排水ジョイント・排水管の取り付け

▶排水ジョイント施工説明書参照

3 大便器の取り付け

幅木の位置



❶ タイプに合わせて幅木を選定

汚物流しありの場合

幅木L=390㎜(大便器部フレームに同梱)2枚を使用。

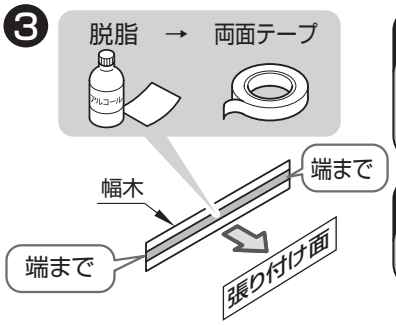
汚物流しなしの場合

幅木L=390㎜(大便器部フレームに同梱)とL型幅木(大便器部側板に同梱)を使用。

❷ 養生フィルムをはがす

【裏面】

❸

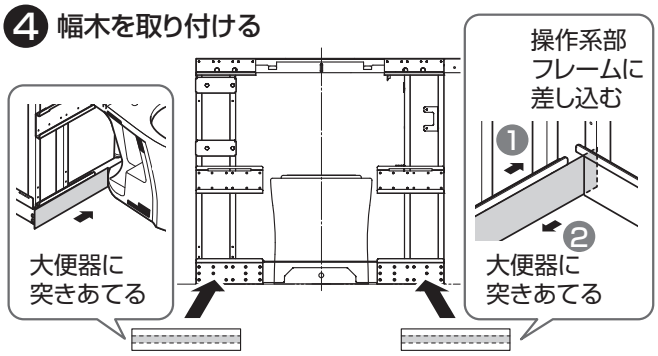


チェック
幅木裏面のほこりや油分を取り除く

ポイント
表裏を間違えない

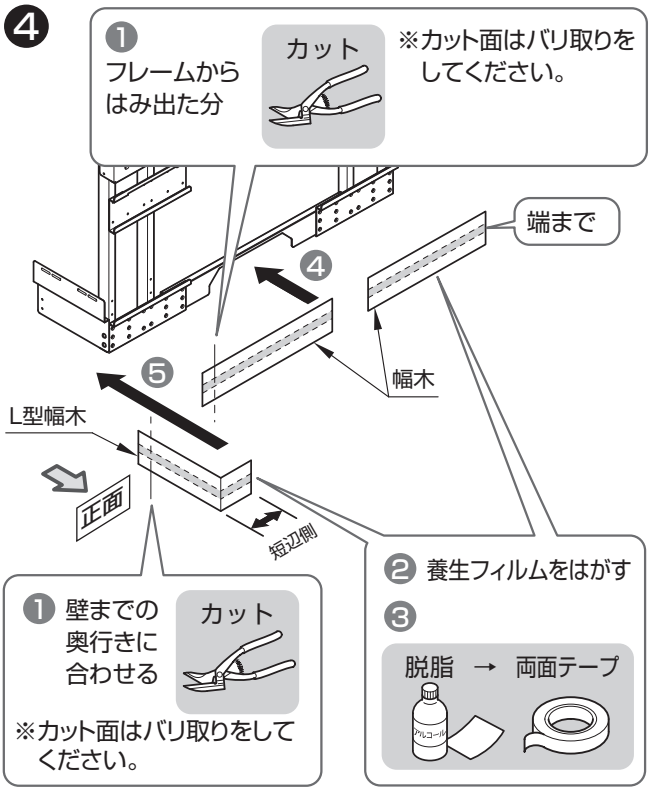
汚物流しありの場合

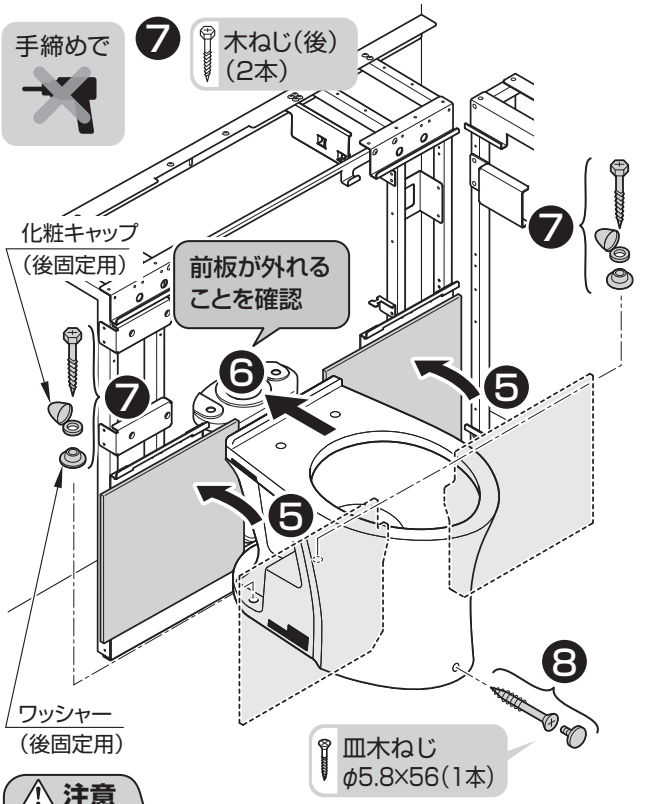
❹ 幅木を取り付ける



汚物流しなしの場合

❹





⚠ 注意

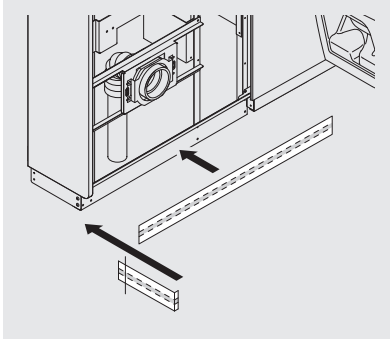
必ず守る

手締めにて行い、木ねじを締めすぎない
強く締めすぎると、便器が割れるおそれがあります。

大便器裏前板・サイドカバーは後工程で取り付けますので、大切に保管してください。
・サイドカバー ▶P.88 STEP19

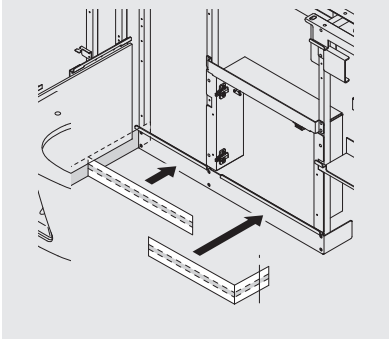
STEP7.幅木

1 汚物流し部幅木の取り付け

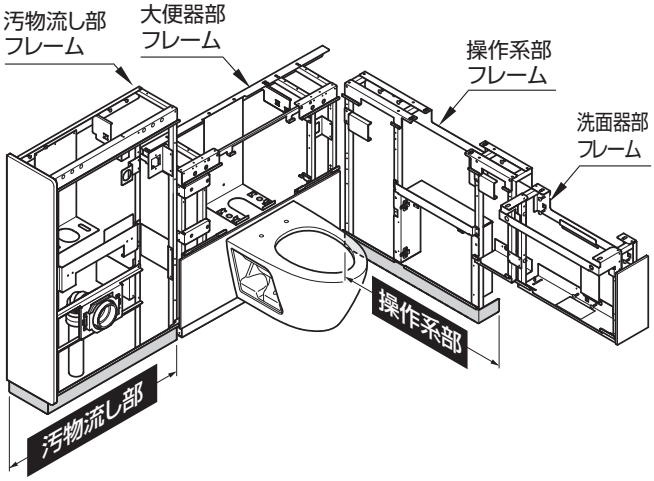


▶P.53

2 操作系部幅木の取り付け



▶P.54



※図は壁掛大便器の場合

1 汚物流し部幅木の取り付け

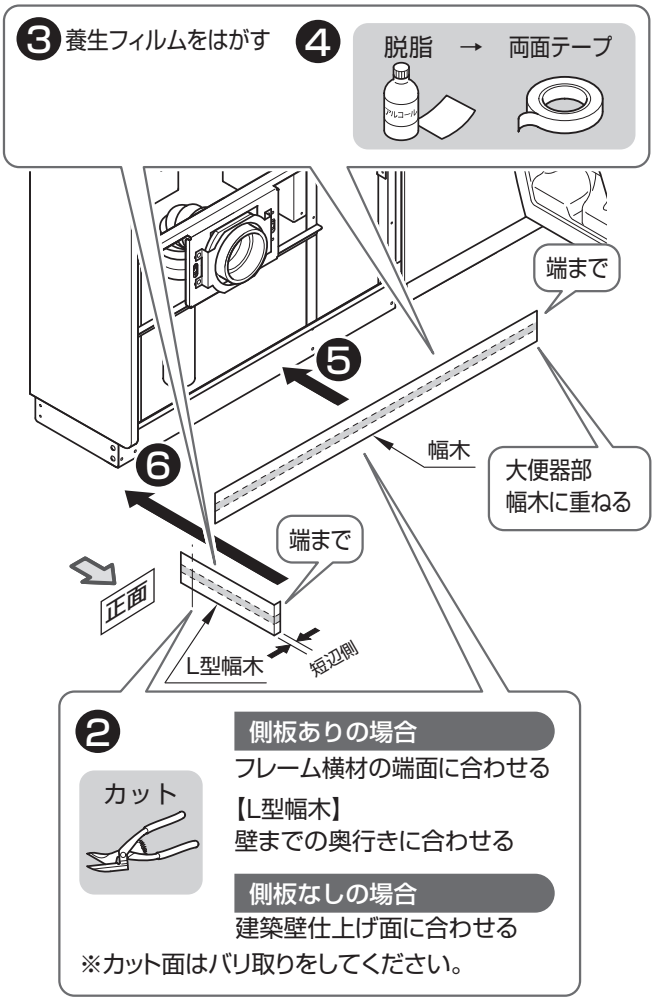
❶ タイプに合わせて幅木を選定

側板なしの場合

幅木L=800㎜ 1枚（汚物流し部フレームに同梱）を使用

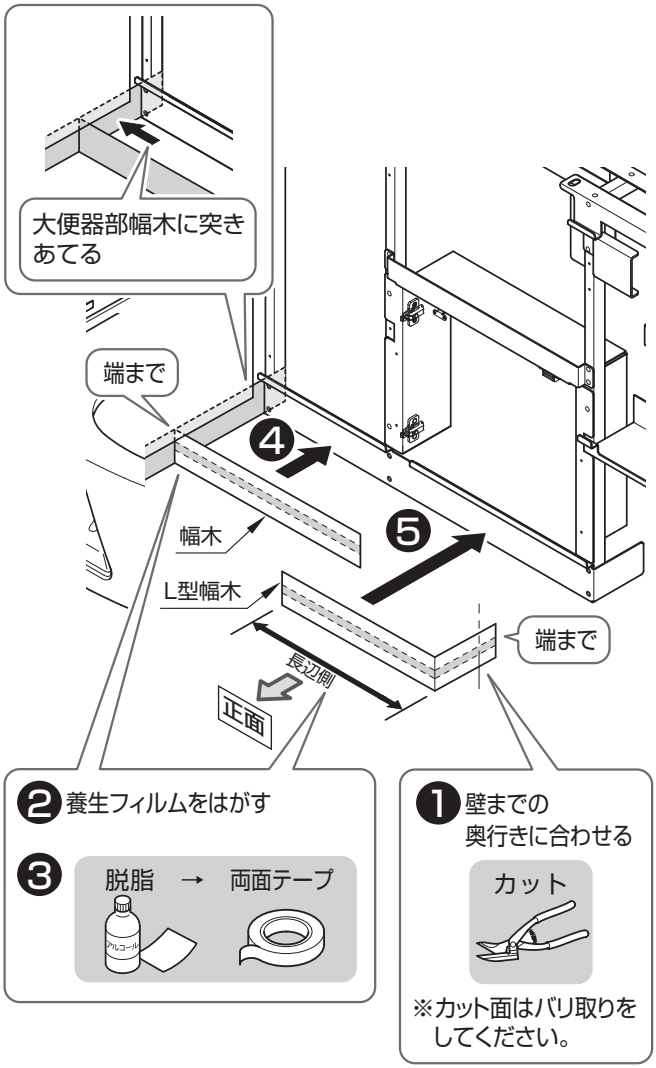
側板ありの場合

幅木L=800㎜（汚物流し部フレームに同梱）と
L型幅木（汚物流し部側板に同梱）を使用



2 操作系部幅木の取り付け

幅木L=500mmとL型幅木各1枚と両面テープ(大便器部フレームに同梱)を使用

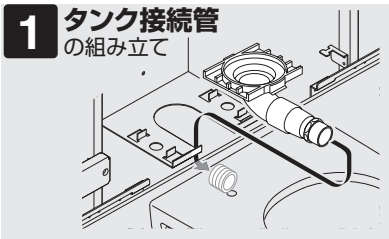


MEMO

STEP8.大便器用セットタンク

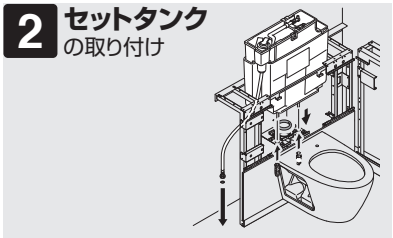
壁掛大便器

1 タンク接続管の組み立て



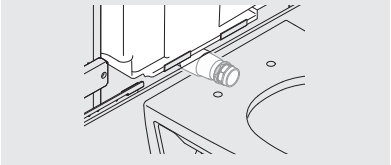
▶P.55

2 セットタンクの取り付け



▶P.55

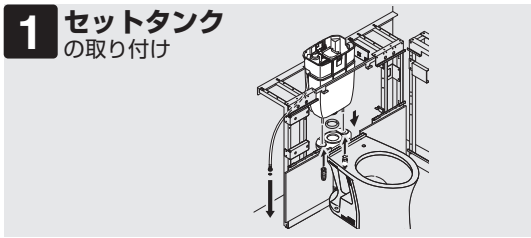
3 セットタンクの傾き調整・**タンク接続管**の固定



▶P.56

床置大便器

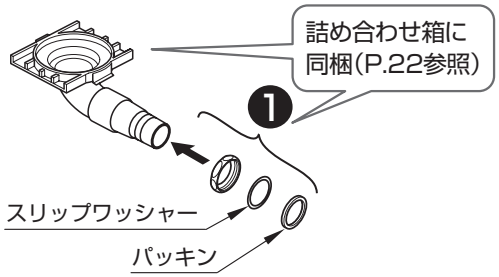
1 セットタンクの取り付け

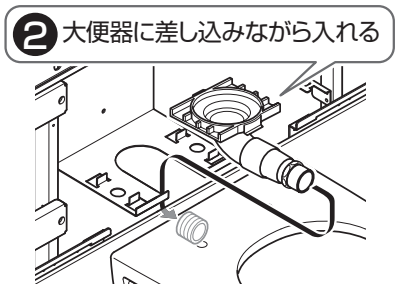


▶P.56

壁掛大便器

1 タンク接続管の組み立て





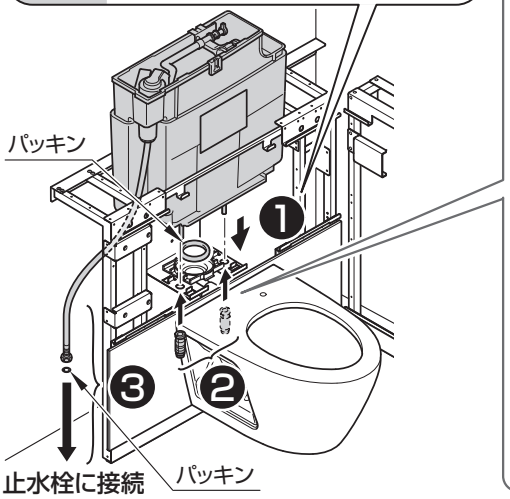
2 セットタンクの取り付け

⚠ 注意

必ず守る

パッキンがセットされていることを確認する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



⚠ 注意

必ず守る

- 汚物流しのセットタンクと見た目が同じなので、必ずラベル付の大便器用セットタンクを使用する
- 再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする

固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

工具使用禁止

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う

工具を使用すると破損するおそれがあります。

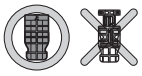
固定ナットを手締めでかたく締め付ける。

※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。

⚠ 注意

必ず守る

- セットタンクを固定ナット（黒）以外で固定しない
  水漏れするおそれがあります。



- 左右の固定ナットを確実に締める
  水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

壁掛大便器

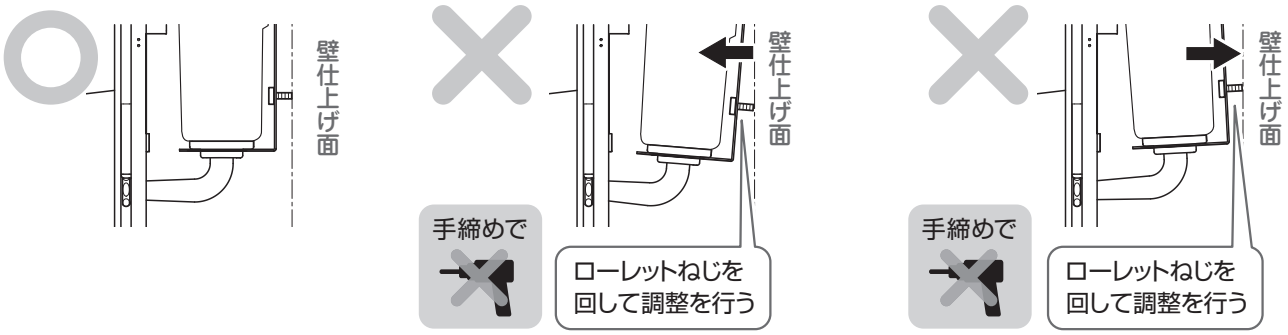
3 セットタンクの傾き調整・タンク接続管の固定

❶ 洗浄管が逆勾配でないことを確認

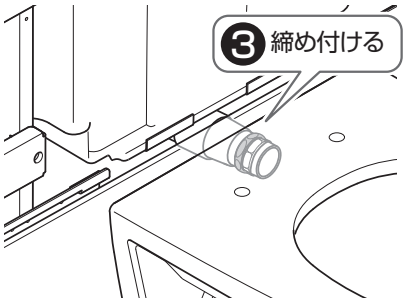
❷ セットタンクの調整

ポイント

【ローレットねじを緩めても水平にならない場合】
タンク接続管をスパッドから外して、軽く差し込んで、再度調整する



❸ タンク接続管の固定



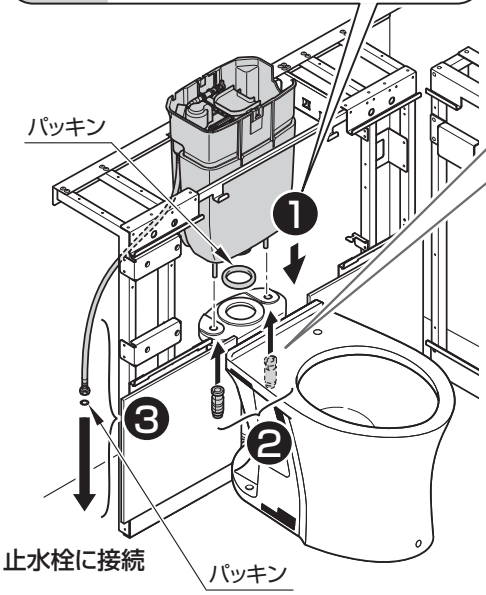
床置大便器

1 セットタンクの取り付け

⚠ 注意

必ず守る

パッキンがセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

工具使用禁止

固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
工具を使用すると破損するおそれがあります。

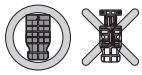
固定ナットを手締めでかたく締め付ける。

※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。

⚠ 注意

必ず守る

・セットタンクを固定ナット(黒)以外で固定しない
水漏れするおそれがあります。



・**左右の固定ナットを確実に締める**
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

⚠ 注意

必ず守る

再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする

STEP9.フィラー

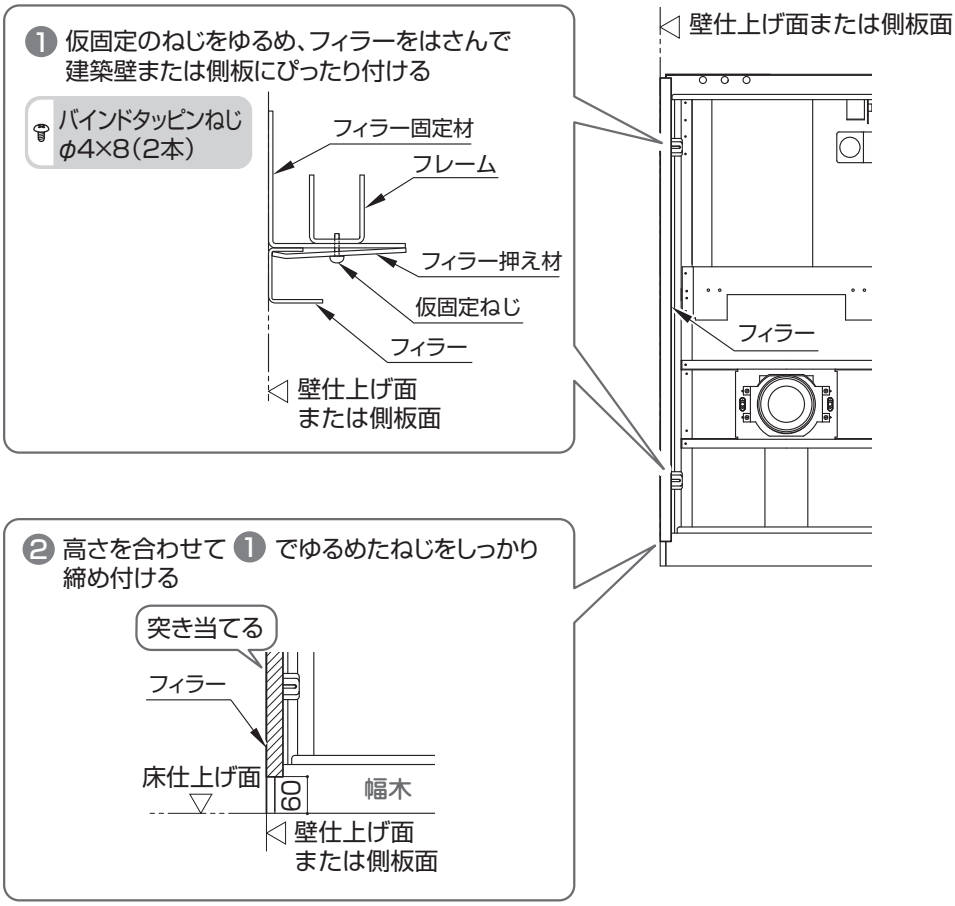
「汚物流しあり」の場合のみです。
「汚物流しなし」の場合P.58「STEP10.洗面器」に進んでください。

1 フィラーの取り付け

❶ フィラーの養生フィルムをはがす

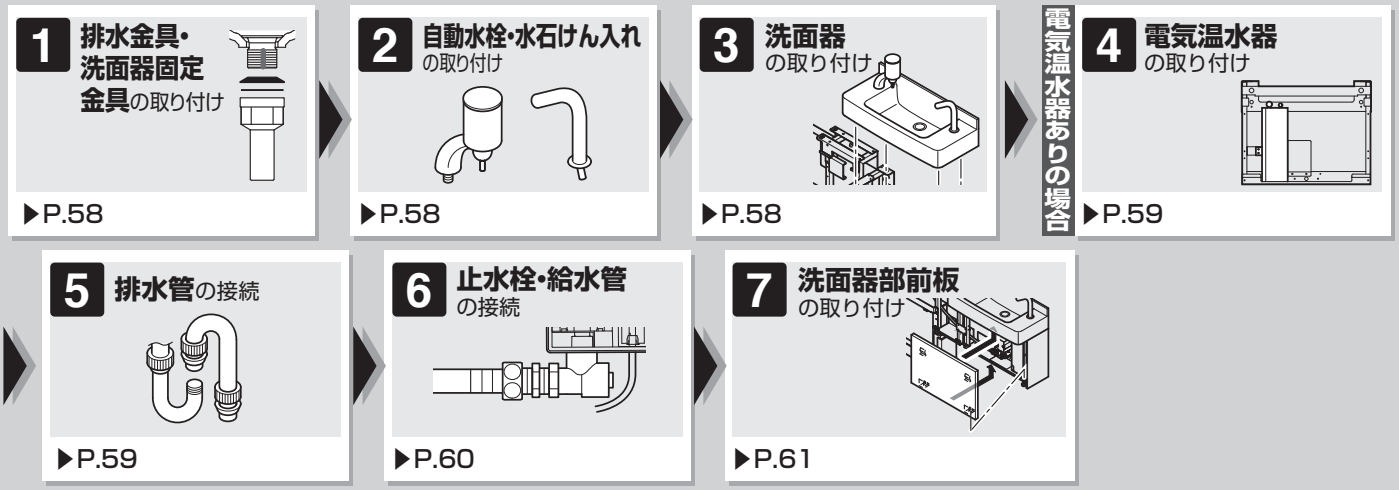
汚物流し部

❷ フィラーを取り付ける

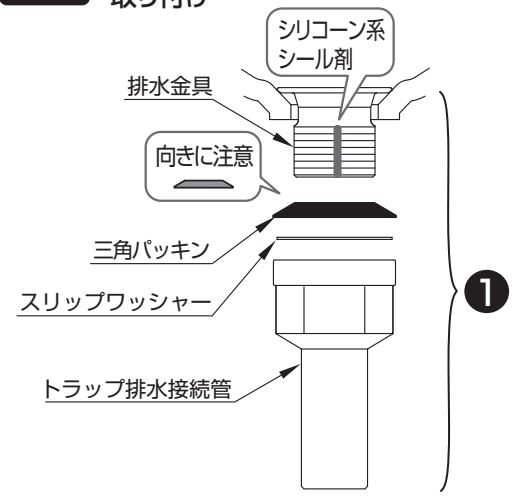


MEMO

STEP10. 洗面器



1 排水金具・洗面器固定金具の取り付け



ポイント

締め付け力の目安としては、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付けるくらい

⚠ 注意

必ず守る

排水金具ねじ部には、必ずシリコーン系シール剤を塗布する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

禁止

接続管を締め過ぎない

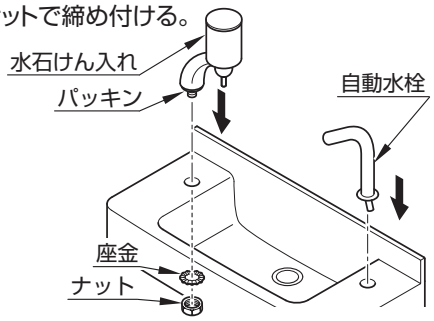
排水金具が破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

2 自動水栓・水石けん入れの取り付け

※水石けんありの場合

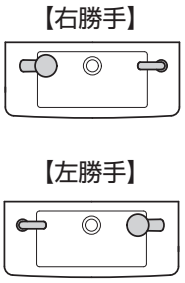
▶取り付け方法は自動水栓施工説明書参照

パッキンのはくり紙をはがし、取付方向を確かめながら取付穴に差し込み、座金、ナットで締め付ける。



注　意

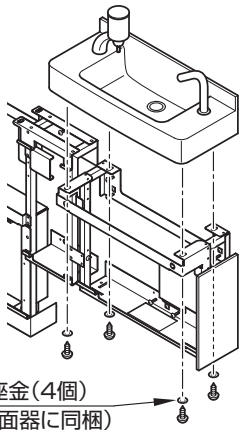
- **自動水栓と水石けん入れは洗面器に平行に取り付ける**
- **左右勝手により、自動水栓と水石けん入れの取付位置が異なる(大便器に近い方が水石けん入れ)**
- **ゆるまないように工具でしっかりと締め付ける**



3 洗面器の取り付け

洗面器に同梱
トラスタッピンねじ φ4×16(4本)

手締めで



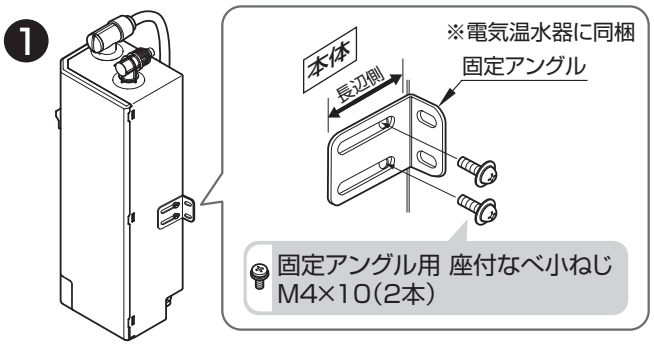
ポイント

側板とすき間がないようにする

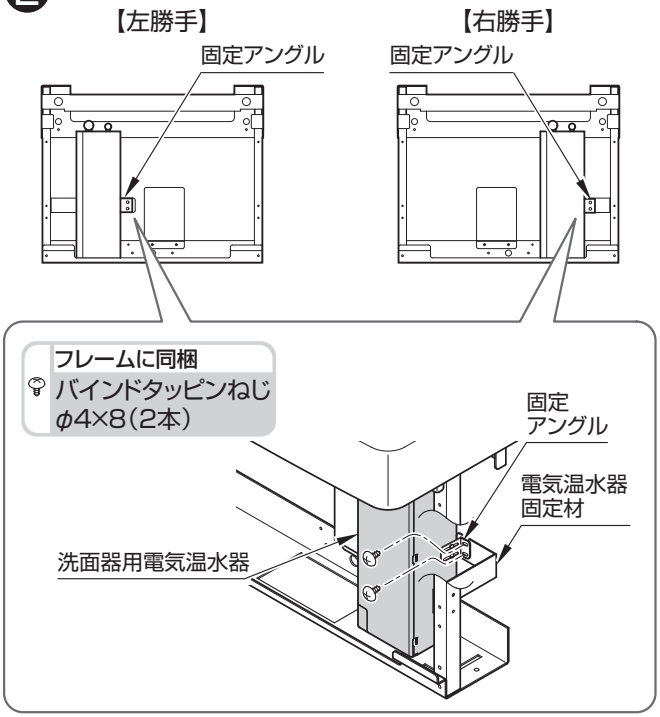
電気温水器ありの場合

4 電気温水器の取り付け

❶



❷ **電気温水器取付位置**

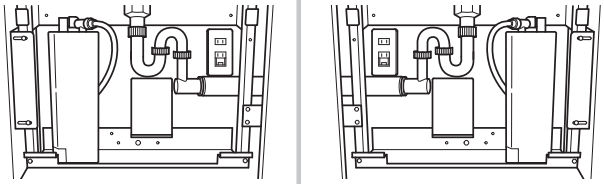


MEMO

5 排水管の接続

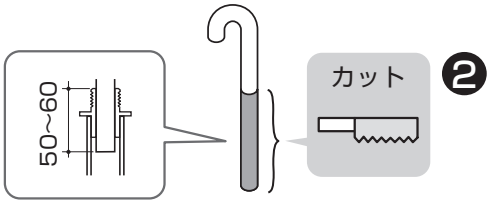
排水管取付位置

【左勝手】 【右勝手】

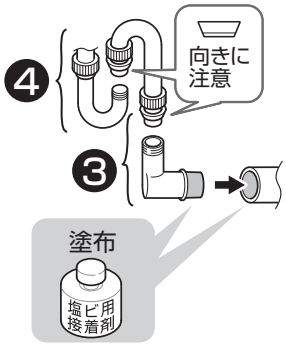


❶ 壁排水ソケットを排水管に仮固定する

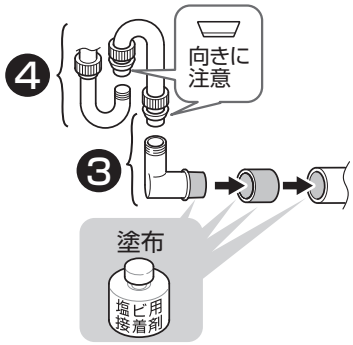
※接着剤は塗布しないでください。



【VP40】

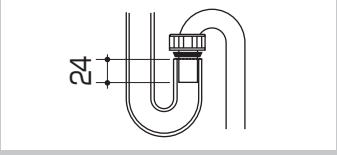


【VU40】



ポイント

- **トラップ（上）をトラップ（下）の奥まで入れる**



- **各部の袋ナットは手で確実に締める**

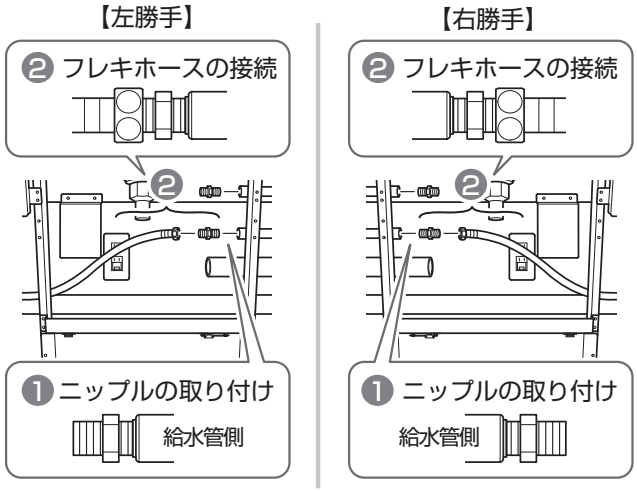
MEMO

6 止水栓・給水管の接続

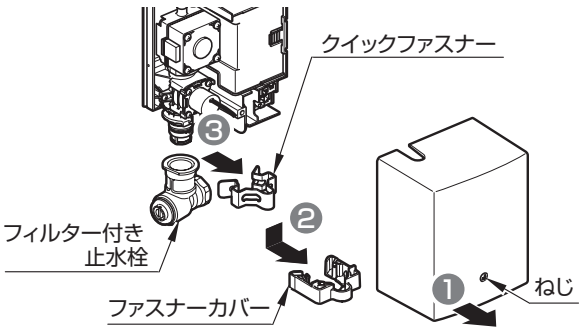
❶ 給水の準備

注 意

フレキホースが折れ曲がらないように!!



❷ 自動水栓の取り付け準備

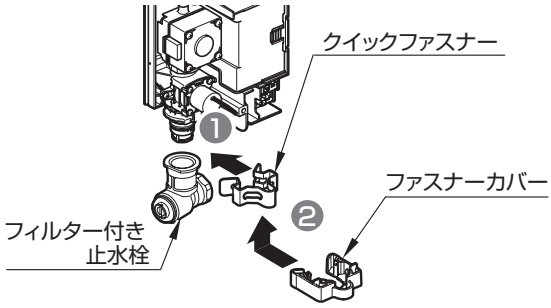


❸ 止水栓の向きを変える

❹ 止水栓を元に戻す

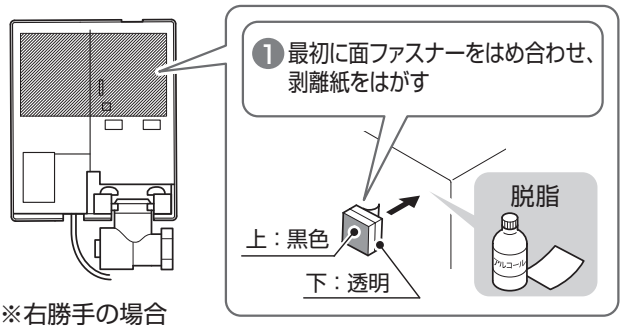
注 意

Oリングにごみなどが付着していないことを確認



❺ 水栓機能部裏に面ファスナーを張る

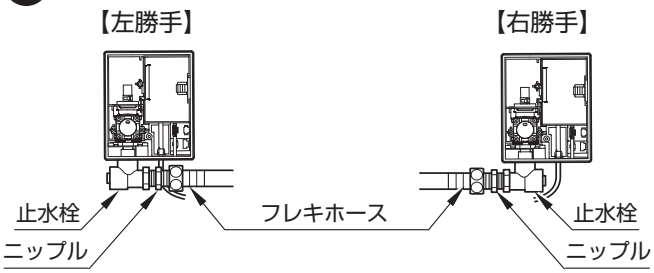
面ファスナー張り付け範囲：▨



※右勝手の場合

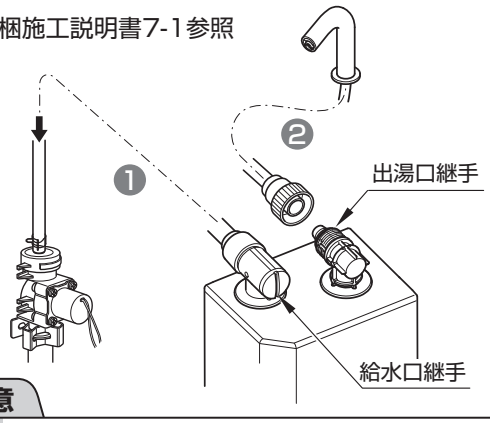
自動水栓の取り付け

❻ 止水栓とニップル、ニップルとフレキホース接続する



❼ 自動水栓とスパウト側の給水栓と接続する

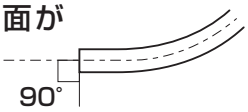
▶水栓同梱施工説明書7-1参照



⚠ 注意

必ず守る

- 給水ホースは、切断面が垂直になるようにカットする

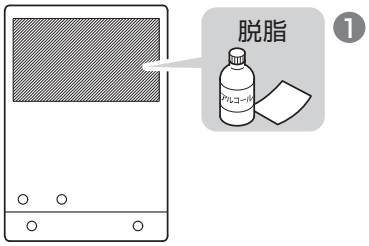


- 給水ホース接続後、軽く引っ張り確実に固定されていることを確認する

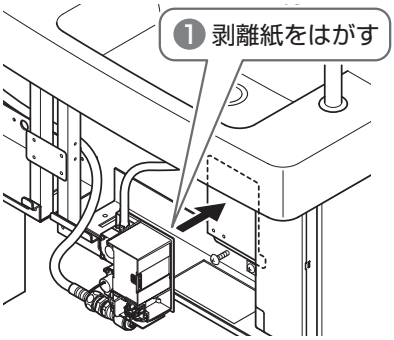
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❽ 水栓機能部取付板を脱脂する

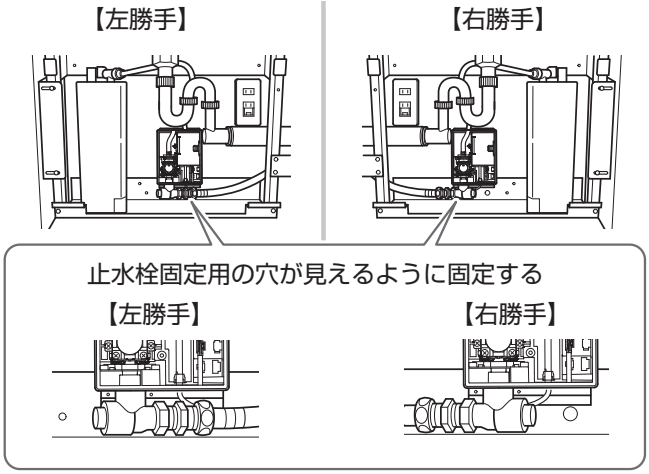
面ファスナー張り付け範囲：▨



❾ 水栓機能部の固定



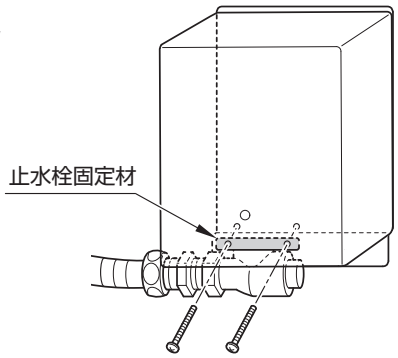
水栓機能部取付位置



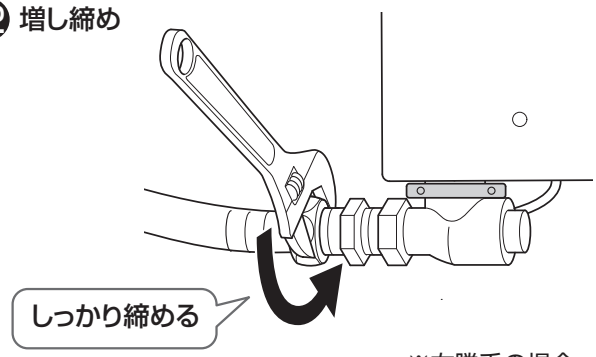
❿ 機能部カバーを取り付ける

⓫ 止水栓の固定

なべ小ねじ
M4×50（2本）



⓬ 増し締め

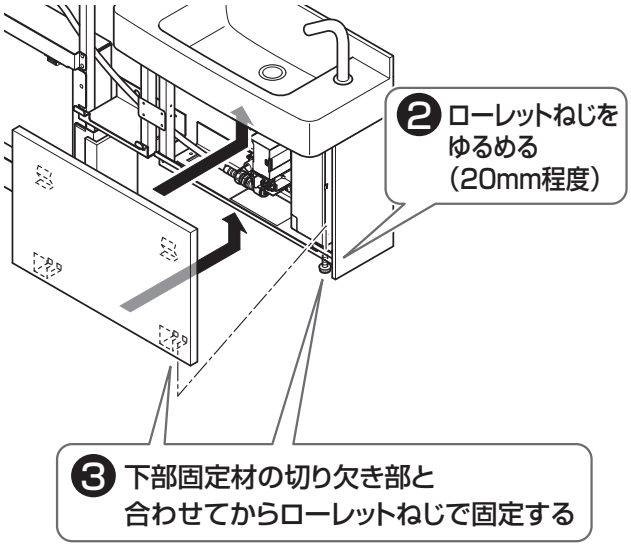


※右勝手の場合

⓭ コンセントに差す

7 洗面器部前板の取り付け

❶ 養生フィルムをはがす



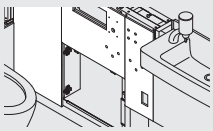
ポイント

洗面器と側板のすき間がある場合は、再度側板を調整する（P.47参照）

MEMO

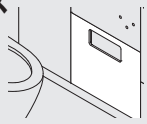
STEP11.前板(取り付け)

1 **操作系部前板**の取り付け



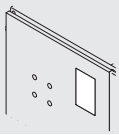
▶P.62

2 **チャームボックス**の取り付け



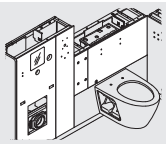
▶P.62

3 **ふさぎプレート**の取り付け



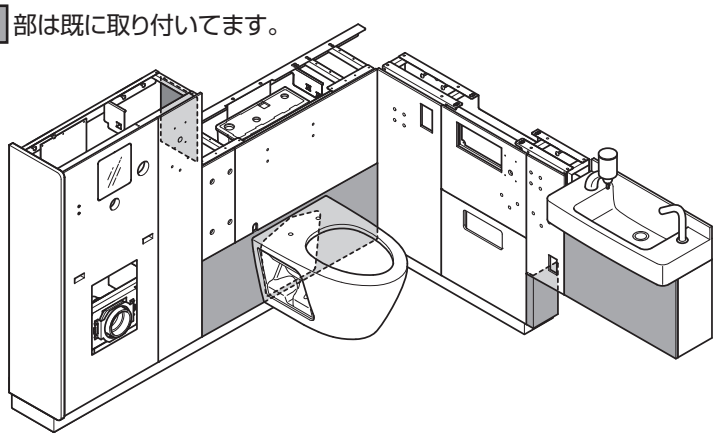
▶P.63

4 **大便器部・汚物流し部前板**の取り付け

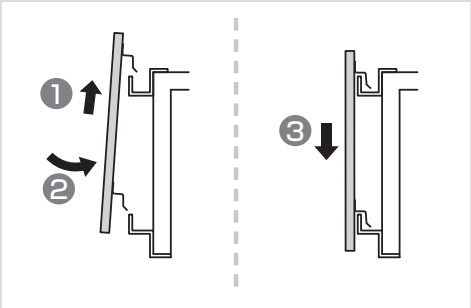


▶P.63

※ ■部は既に取り付いてます。



前板の取り付け方



1 操作系部前板の取り付け

❶ 養生フィルムをはがす

ポイント

隣り合う前板とのすき間がないように寄せて設置する

❸ ②~③ の順に取り付ける

チャームボックスなしの場合

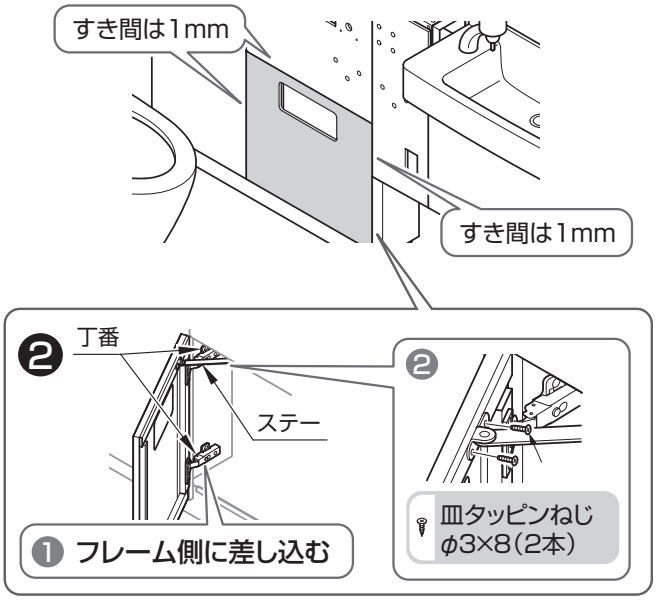
リモコン部前板と同じ順で取り付ける

2 チャームボックスの取り付け

チャームボックスありの場合

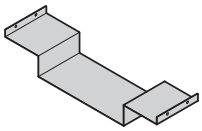
❶ 養生フィルムをはがす

※チャームボックスなしの場合は、チャームボックスの投入口のない前板を取り付けてください。



❸ STEP1（P.33）で外したチャームボックス受け材を取り付ける

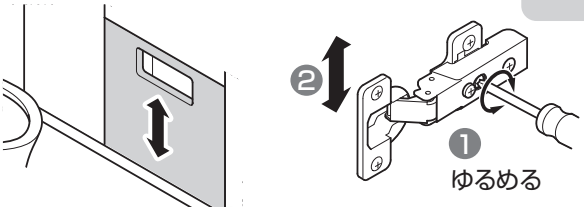
バインドタッピンねじ φ4×8（4本）



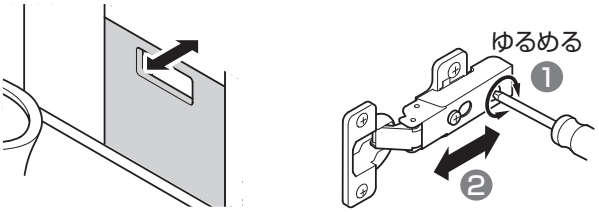
❹ 丁番を調整する

手締めで

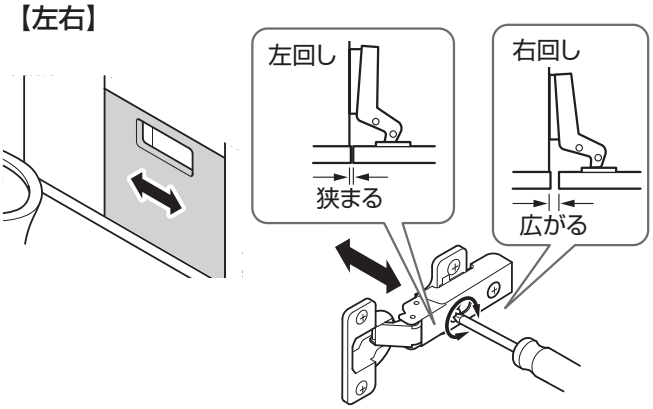
【上下】



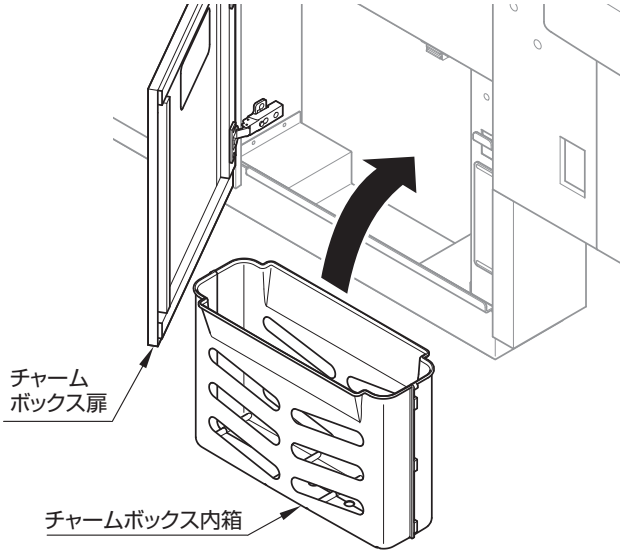
【前後】



【左右】



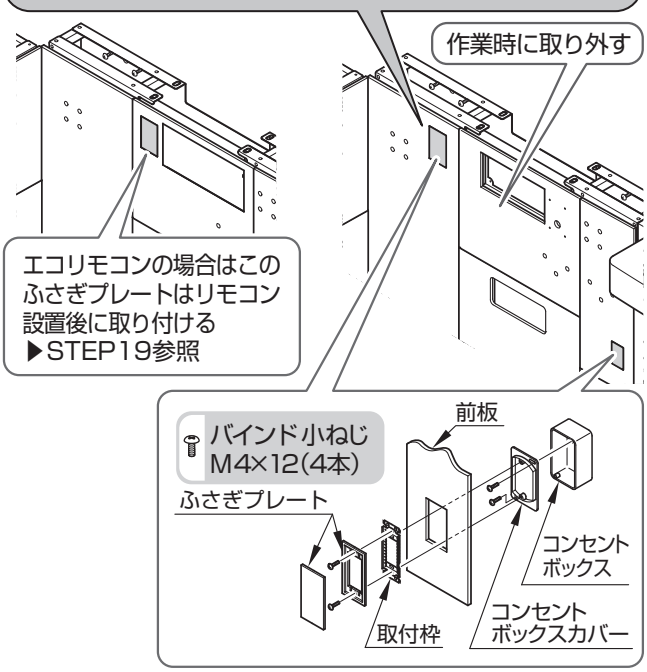
❺ チャームボックス内箱を設置



3 ふさぎプレートの取り付け

ポイント

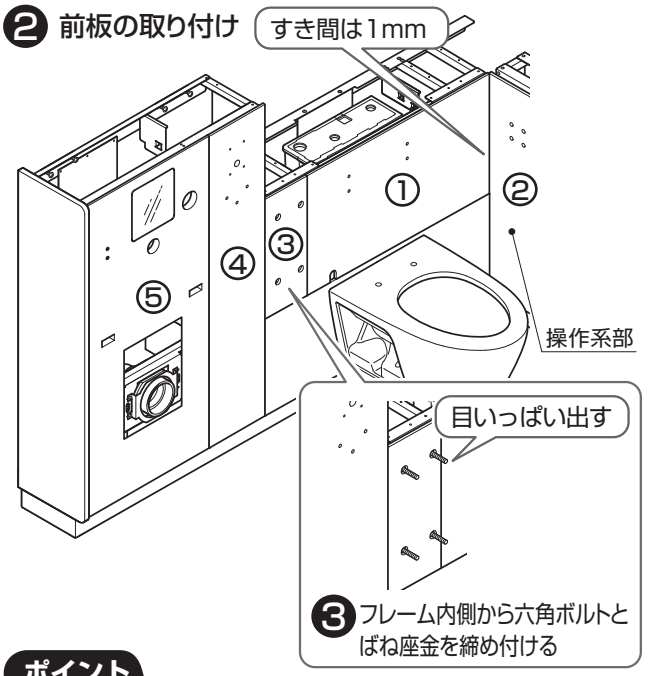
このふさぎプレートを取り付ける場合は、必ず先に前板を設置してから取り付ける



4 大便器部・汚物流し部前板の取り付け

❶ 養生フィルムをはがす

❷ 前板の取り付け

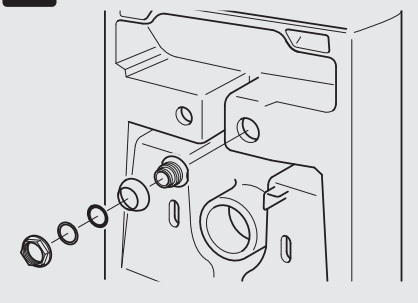


ポイント

- **前板は操作系部へ寄せる**
- **大便器裏前板はそれぞれ左右へ寄せ、隣り合う前板とのすき間をなくす**

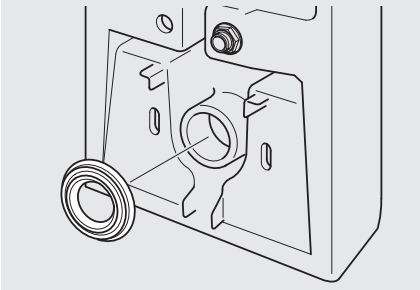
STEP12.汚物流し

1 スパッドの取り付け



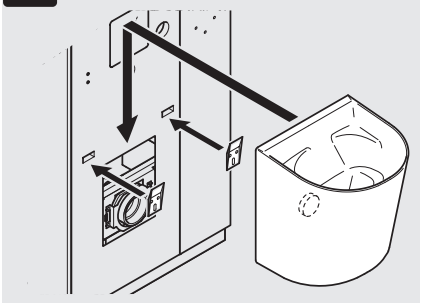
▶P.64

2 排水パッキンの取り付け



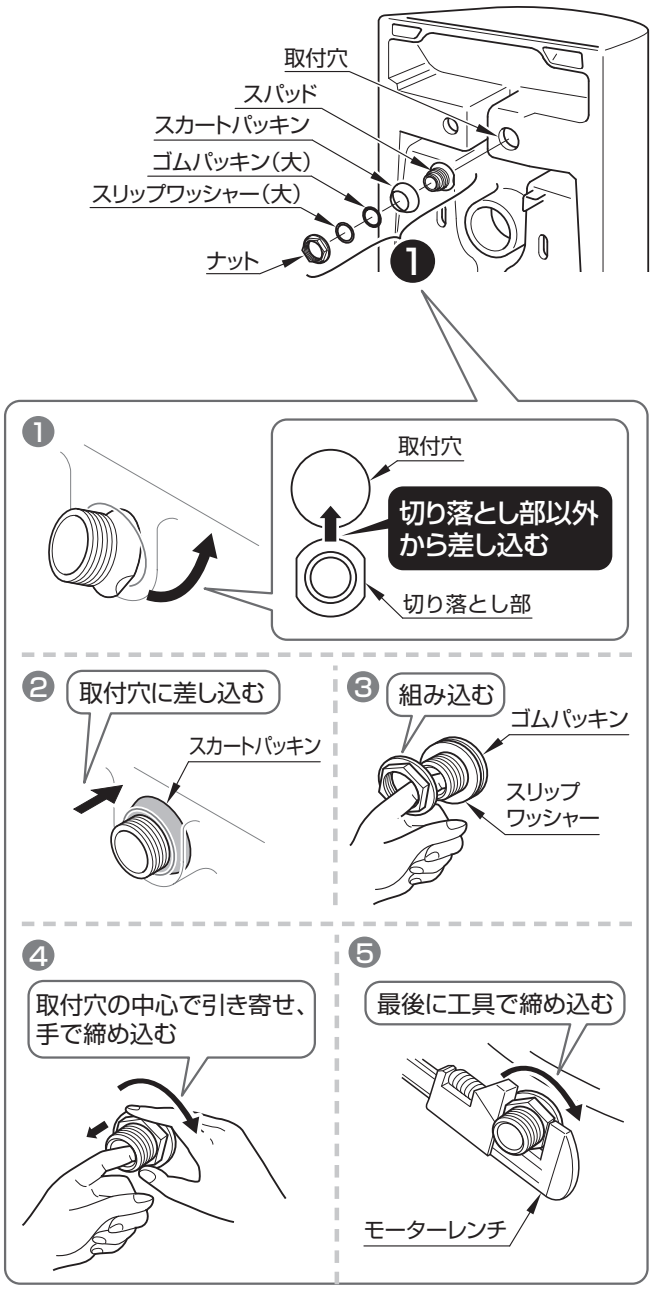
▶P.64

3 汚物流しの取り付け

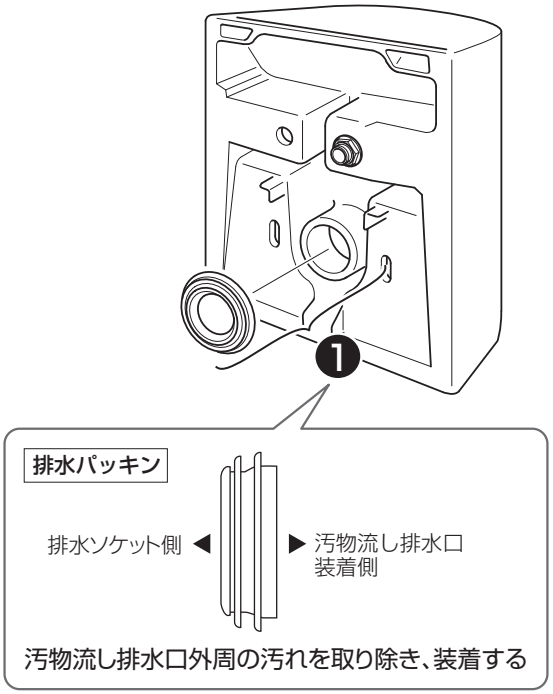


▶P.65

1 スパッドの取り付け



2 排水パッキンの取り付け



⚠ 注意

禁止

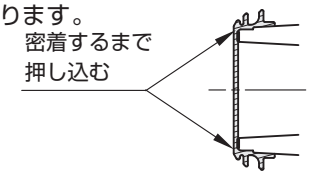
排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない

劣化し水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

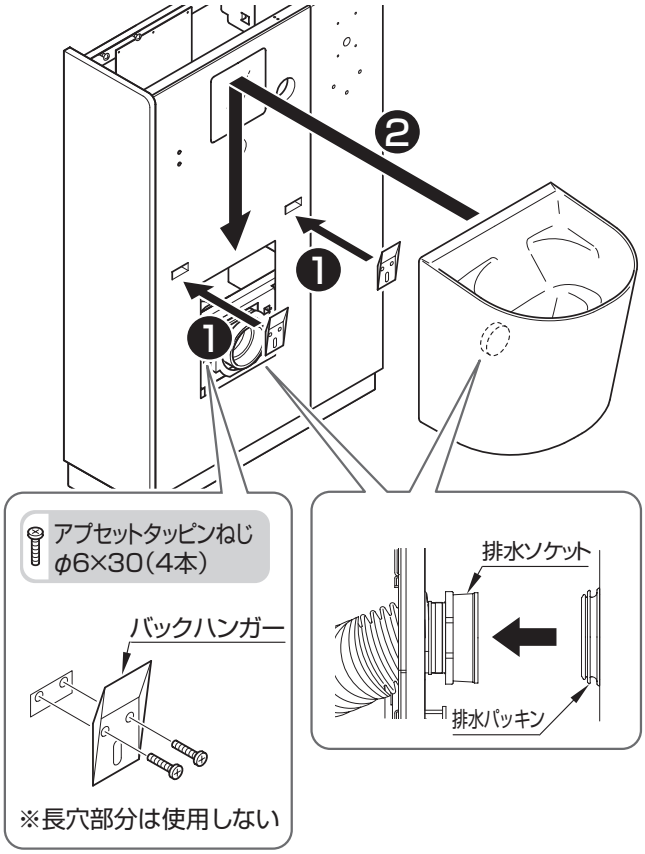
必ず守る

排水パッキンは汚物流し排水口に密着するまで押し込む

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



3 汚物流しの取り付け



⚠ 注意

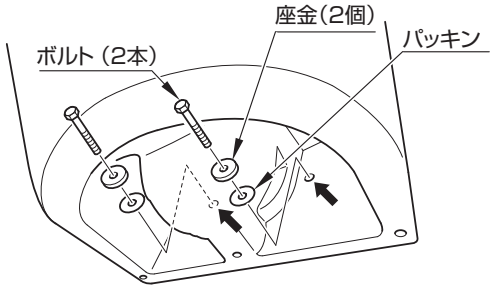
禁止

- **排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない**
  劣化して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **排水パッキンを他の部位にぶつけない**
- **排水パッキンを強引に挿入しない**
  パッキンが変形したりめくれたりして水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

チェック

陶器を引っかける際、前板を傷つけないように注意してください。

❸ 本固定



⚠ 注意

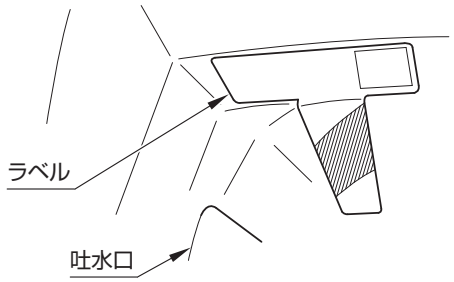
禁止

ボルトをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがの原因になります。

注　意

ボルトをきつく締めすぎると、器具裏前板と点検口に面段差が生じます。

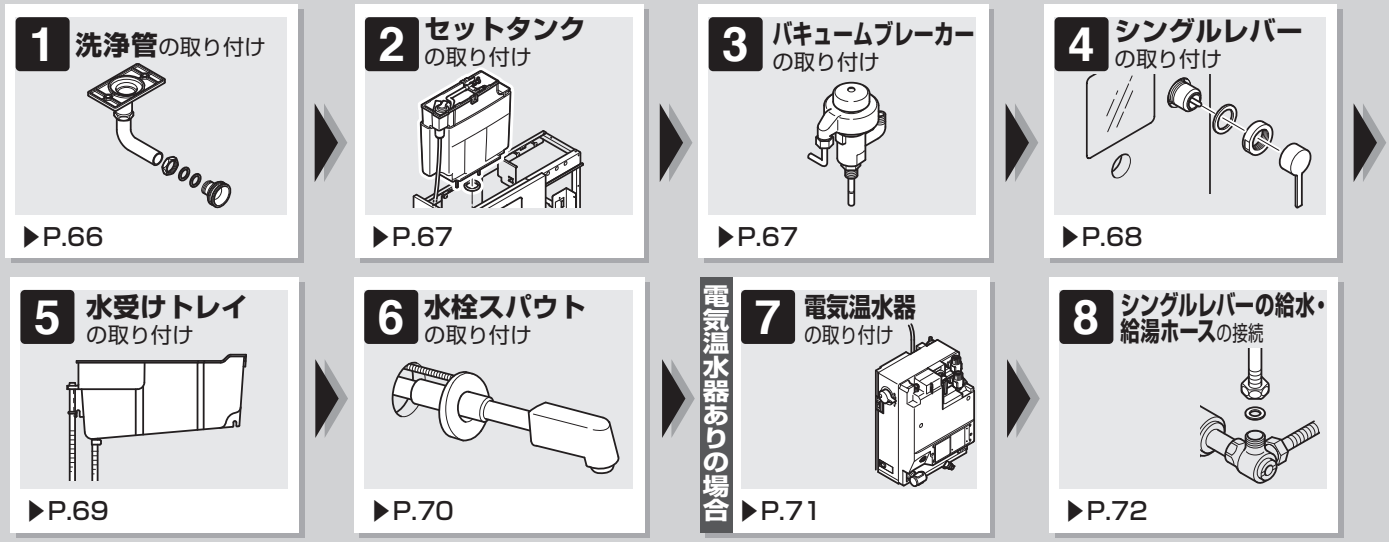
❹ ラベルをはがす（フラッシュバルブ調整用）



（※フラッシュバルブは使用していないので、このタイミングではがしてください。）

MEMO

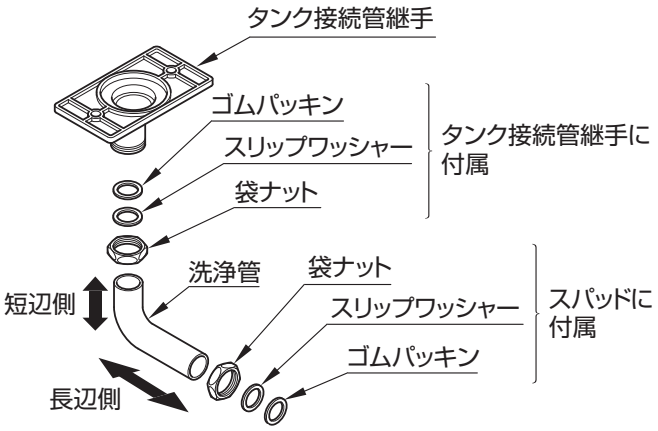
STEP13.汚物流し用セットタンク



1 洗浄管の取り付け

❶ 汚物流し部の前板を取り外す

❷ 洗浄管の仮組み

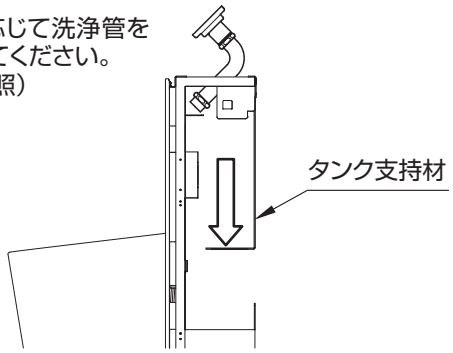


ポイント

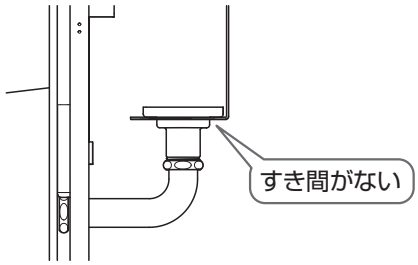
洗浄管の接続方向を間違えない

❸ 洗浄管が逆勾配でないことを確認

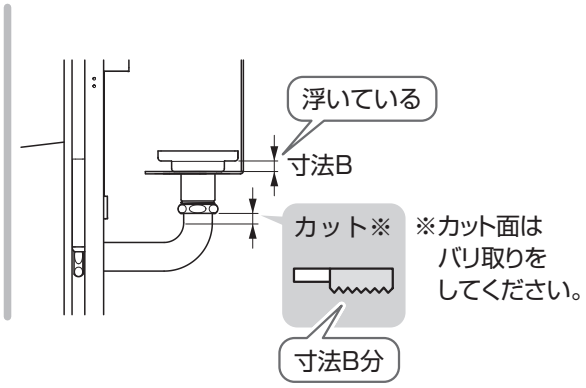
※必要に応じて洗浄管をカットしてください。（右上参照）

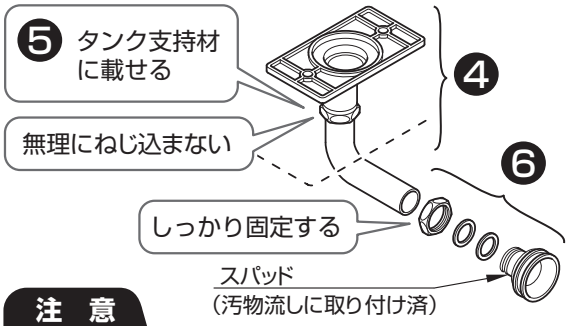


カットしない場合



カットする場合





注　意

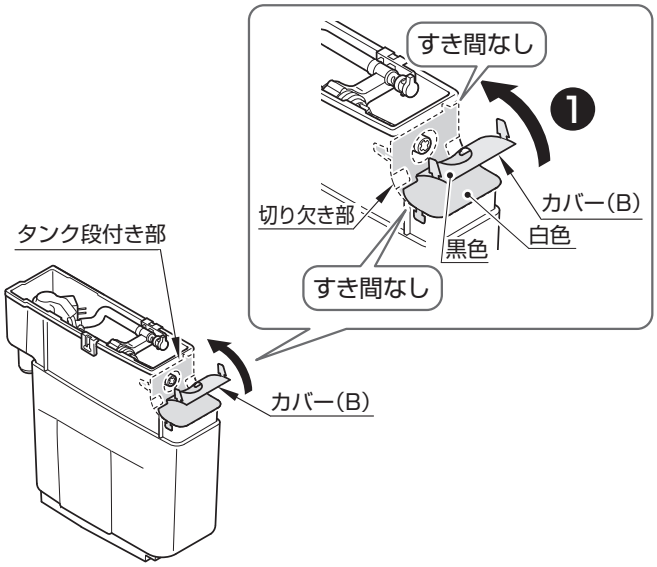
接続する際に、袋ナットがムーズに回らない時は無理に回したり締め込んだりしない

袋ナットを再度はめ直してください。

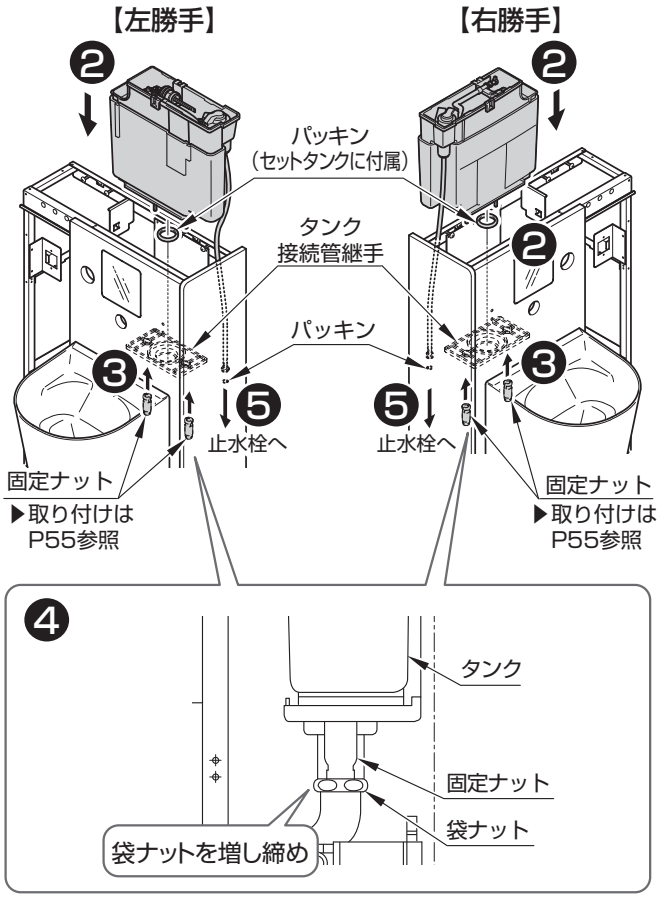
2 セットタンクの取り付け

電気温水器ありの場合

※電気温水器なし仕様の場合は、本作業は必要ありません。
❷から作業してください。



※カバー(B)はフレーム部部品セットに梱包されています。
※カバー(B)は白色の面を外側にして取り付けてください。



チェック

- **洗浄管が逆勾配になっていないかを確認**
- **再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする**

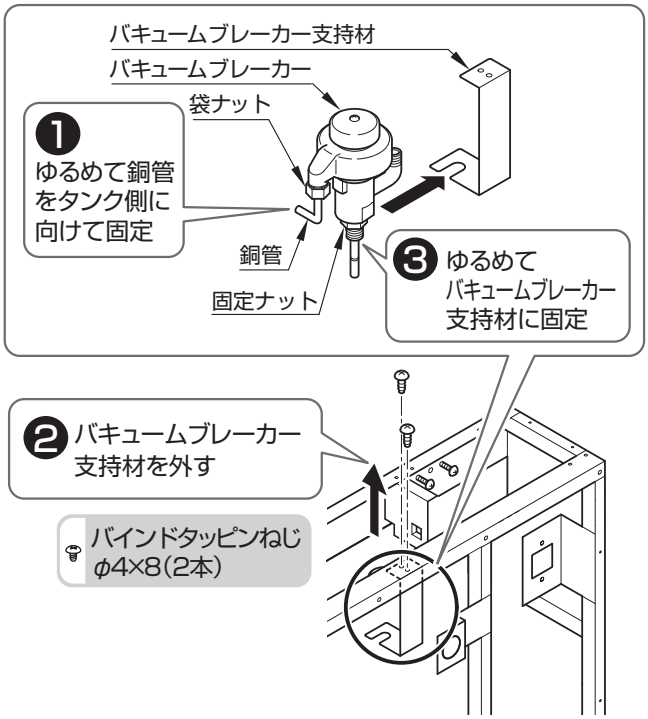
⚠ 注意

必ず守る

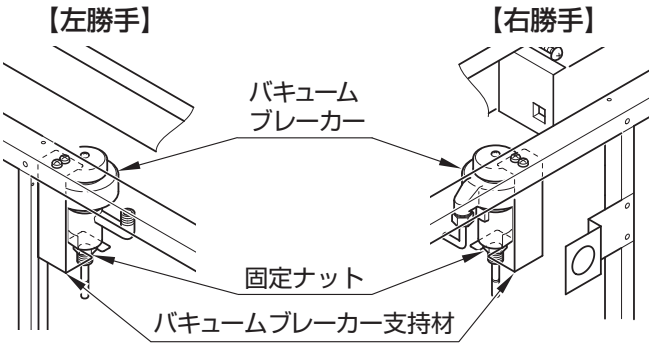
セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

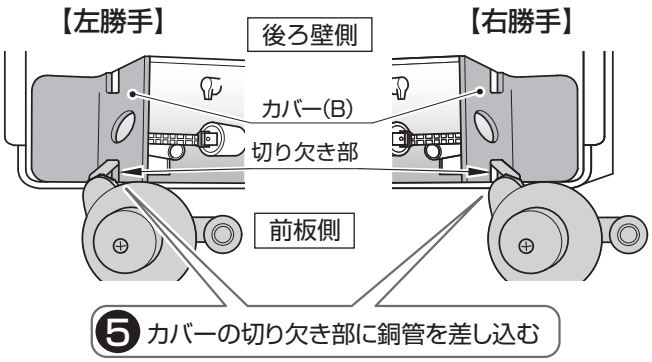
3 バキュームブレーカーの取り付け



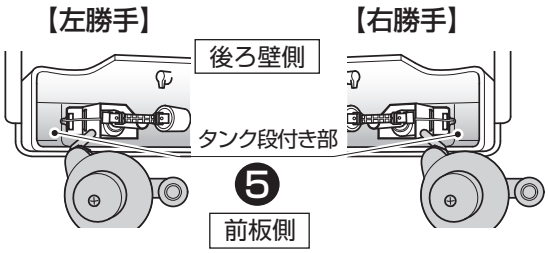
❹ ❷で外したねじでバキュームブレーカー支持材を取り付ける



電気温水器ありの場合

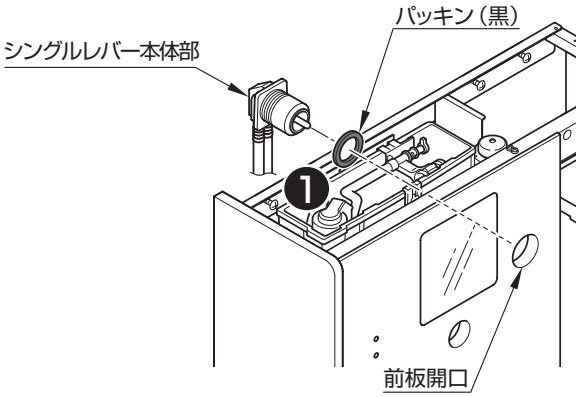


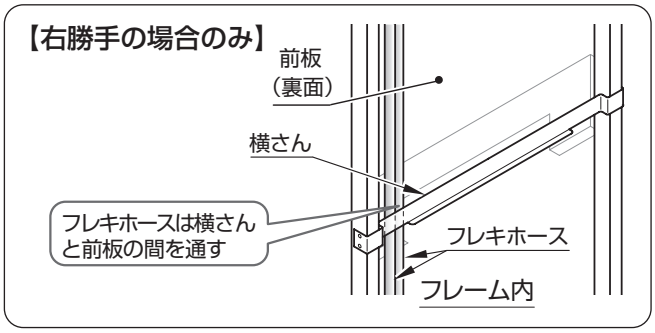
電気温水器なし仕様の場合



❻ 銅管の袋ナットを締め付ける

4 シングルレバーの取り付け

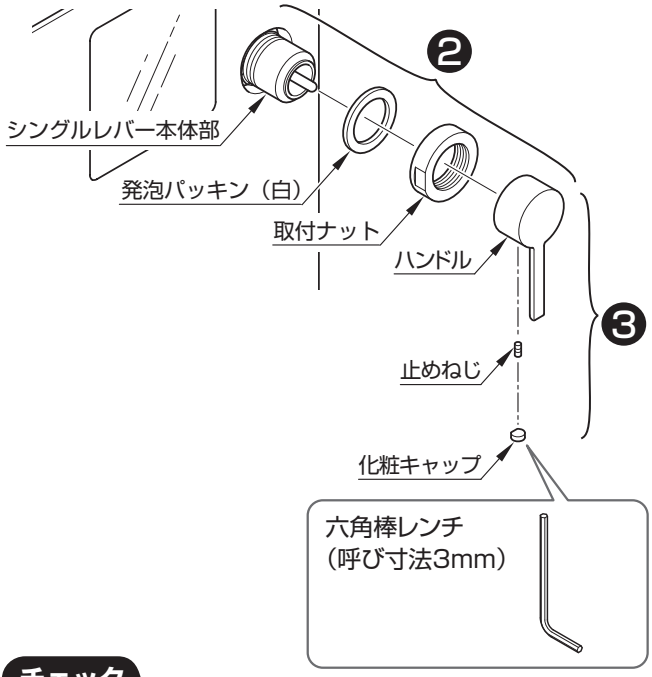




チェック

右勝手の場合のみ、フレーム内のシングルレバーのフレキホースは、横さんと前板の間を通す

水受けトレイが、フレキホースの裏側に取り付けられるので、フレキホースを横さんの外側に通すと水受けトレイが干渉し、取り付きません。左勝手の場合は横さんの外側を通してください。



チェック

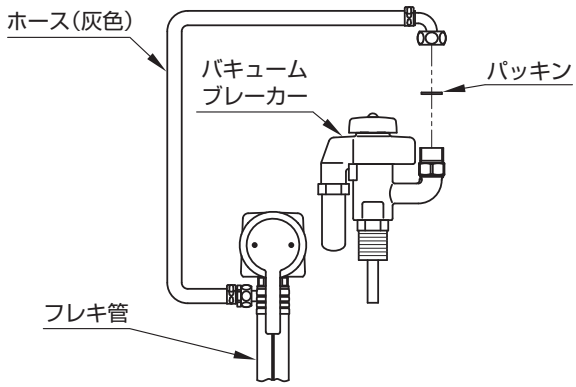
□**ハンドルの向きは正しいか（ハンドルの動作範囲は右図参考）**

□**ハンドルは確実に取り付いているか（ハンドル操作で確認）**

□**化粧キャップは栓の根元側に切り落とし部がくるように取り付ける**

切り落とし部

❹ バキュームブレーカーの接続

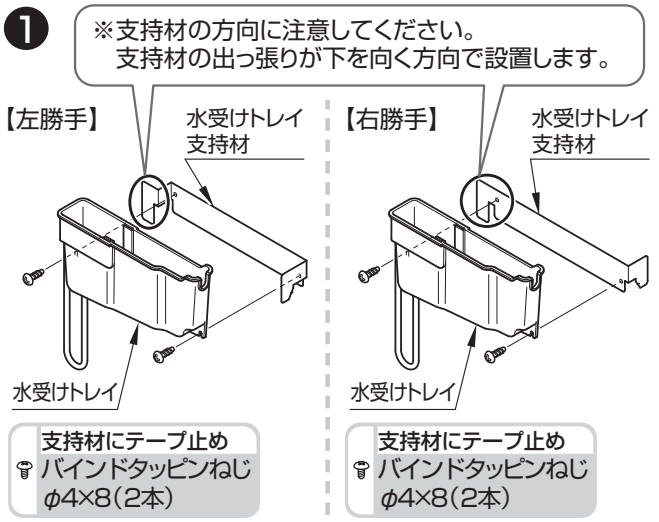


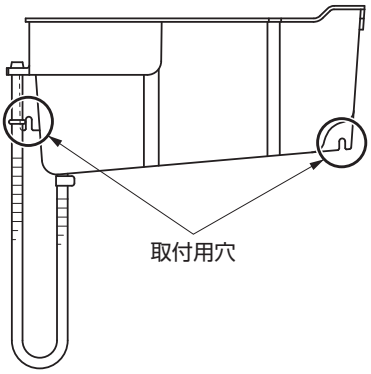
5 水受けトレイの取り付け

注　意

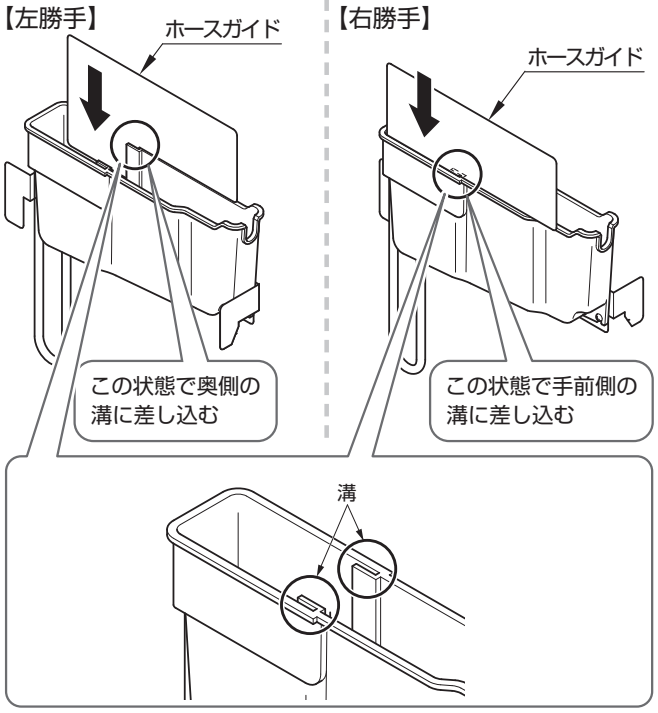
勝手違いで水受けトレイ支持材の形状が異なるため下図を参照

❶





❷ ホースガイドの取り付け

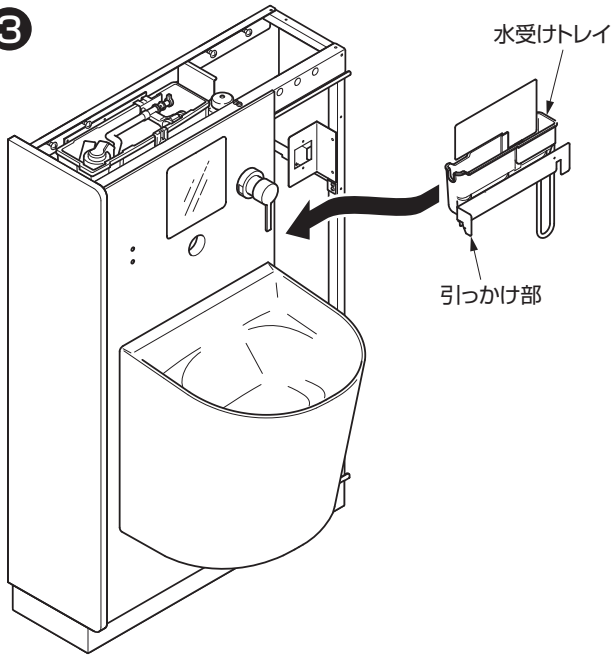


チェック

ホースガイドが溝に正しく差し込まれていることを確認

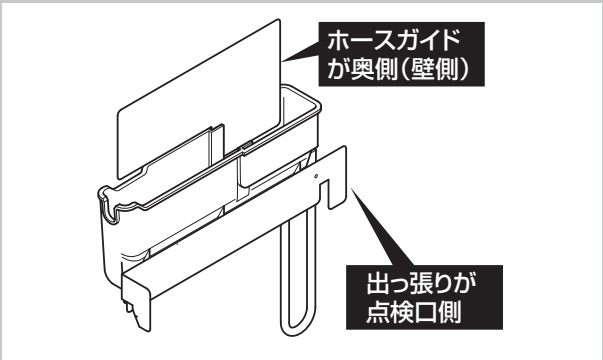
正しく差し込まれていないと水栓が取り付きません。

❸

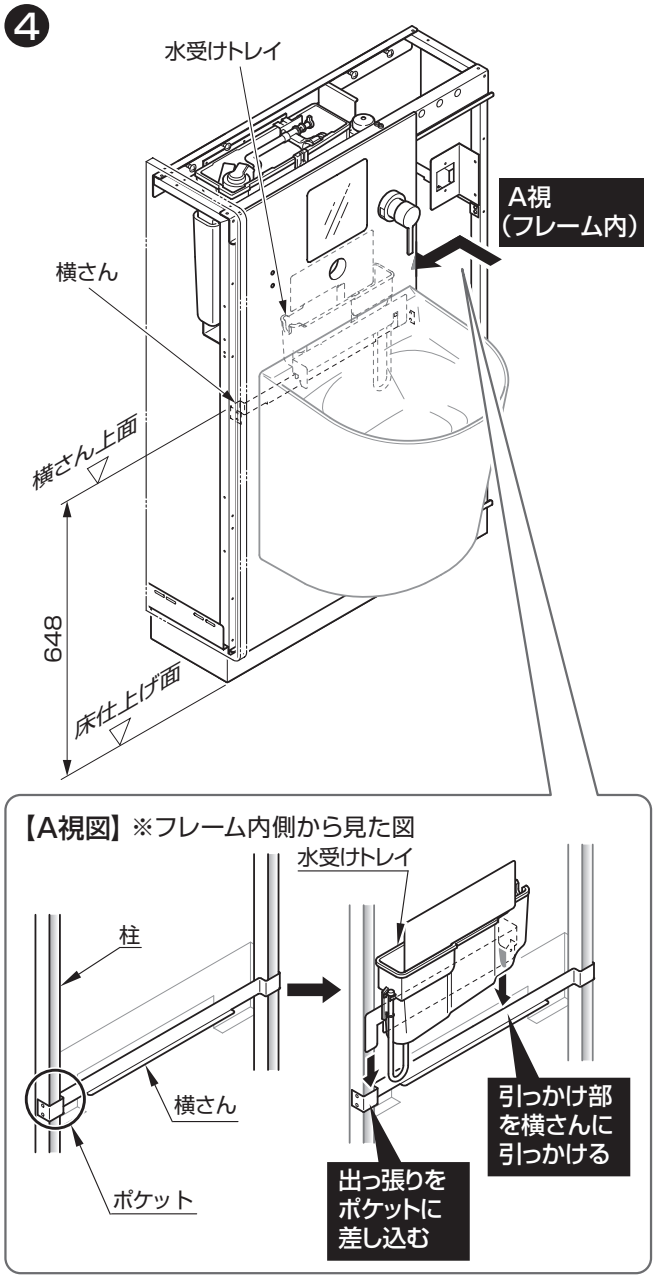


チェック

水受けトレイの向きを確認

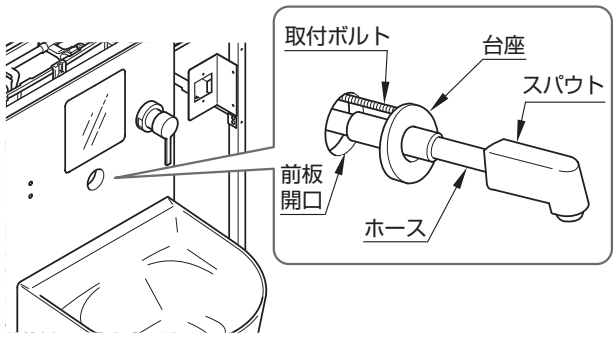


❹



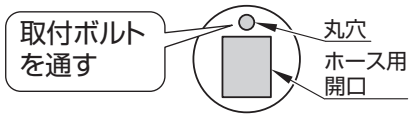
6 水栓スパウトの取り付け

❶ ホースガイドの取り付け



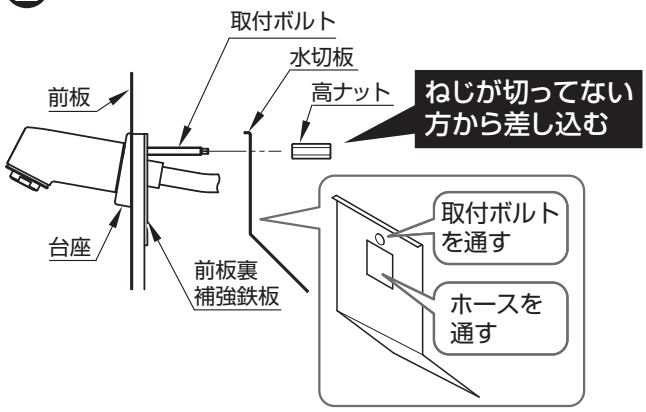
チェック

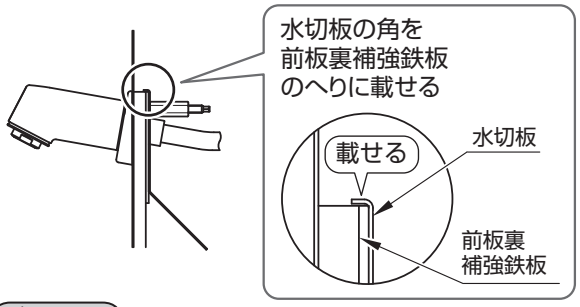
取付ボルトを前板のホース用開口の上部の丸穴に挿入する



前板開口部正面図

❷





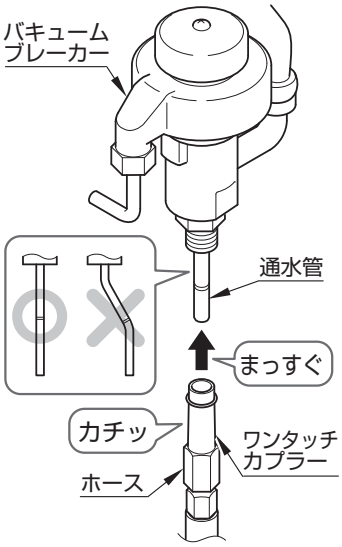
⚠ 注意

必ず守る

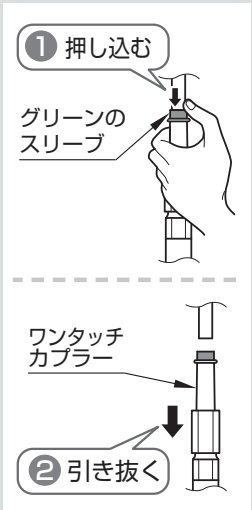
水切板は必ず正しい位置に取り付ける

水切板は水栓使用時にホースを伝ってフレーム内に入った水を水受けトレイに誘導する役割があります。 水切板が正しい位置に取り付いていないと水受けトレイから水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❸ ホースの接続



ホースの取り外し方法



ポイント

ワンタッチカプラーをバキュームブレーカーの通水管にまっすぐ差し込む

「カチッ」と音がして、それ以上差し込めなくなるまで差し込んでください。念のためもう一度ホースを奥まで差し込んでください。

⚠ 注意

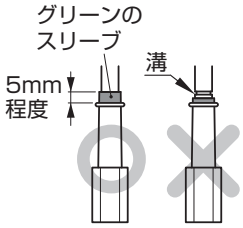
必ず守る

ワンタッチカプラーは通水管にまっすぐ奥まで差し込む

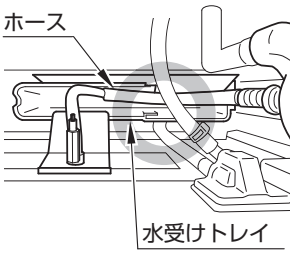
奥まで差し込まなかった場合、不完全な差し込み状態となり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

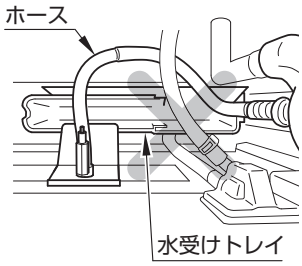
【チェック】

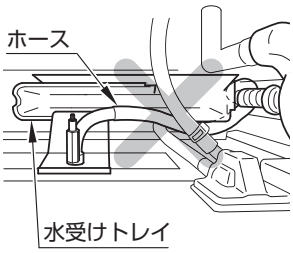
□通水管の溝が隠れているか
□ホースのグリーンのスリーブが5mm程度出ているか
□ホースをまっすぐ下に引っ張っても外れないか



□スパウトを台座に収納した際に、スパウトのホースが水受けトレイに納まっているか（フレームの上面から確認してください。）



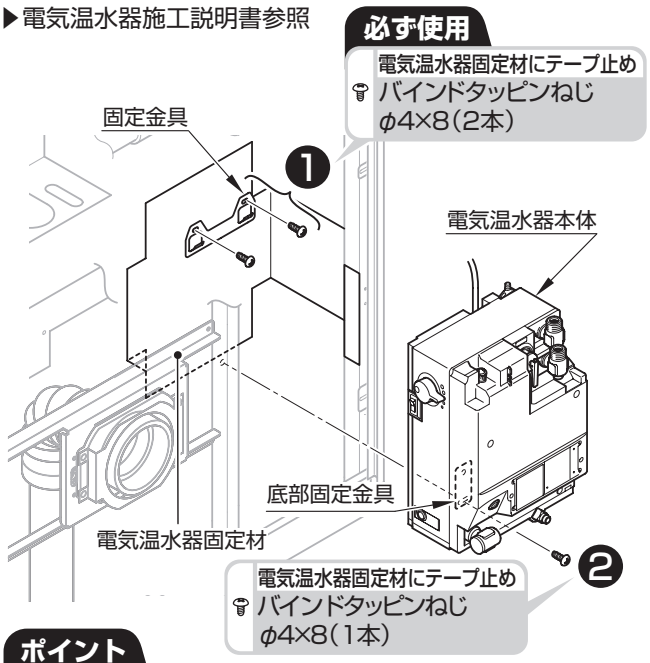




電気温水器ありの場合

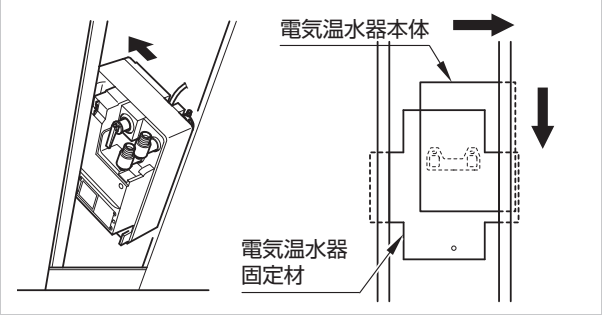
7 電気温水器の取り付け

▶電気温水器施工説明書参照



ポイント

【電気温水器を引っかける時】
- **斜めにしてフレーム内に入れる**
- **電気温水器固定材の右側に添わせると、固定金具に取り付けやすくなる**

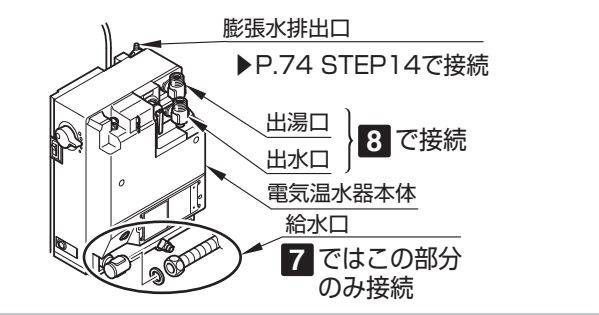


❸ 給水管の接続

▶電気温水器施工説明書参照

チェック

本商品のこの工程では、給水口のみ接続するため、その他の接続は後の工程で行う



止水栓と電気温水器をフレキ管（L=600mm）で接続する

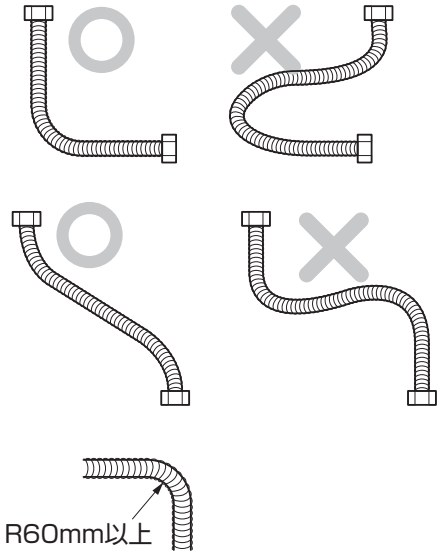
⚠ 注意

フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

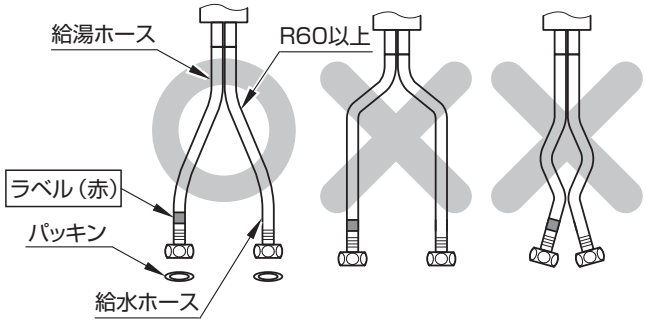
- フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる
  (このとき、フレキ管は小さい角度で曲げないでください。また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。)
- 1 ～ 2 回程度の曲げで所定の形になるようする
  (曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。)
- 必ず同梱のパッキンを使用する
- 袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認する
- フレキ管は極端に折らず、R60 以上を確保する

必ず守る



8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続

❶ シングルレバーの給水・給湯ホース(フレキホース)の接続



⚠ 注意

禁止

ホースを必要以上の力で曲げて折らない

ホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用するとホースが破損して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ホースを必要以上に接触させない

外部補強層の摩擦によりホースに傷が付いて水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ホースを水栓本体端面から極端に歪曲して施工しない、無理に引っ張らない

ホースが破損して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

ホースを接続する際にパッキンの入れ忘れがないか確認する

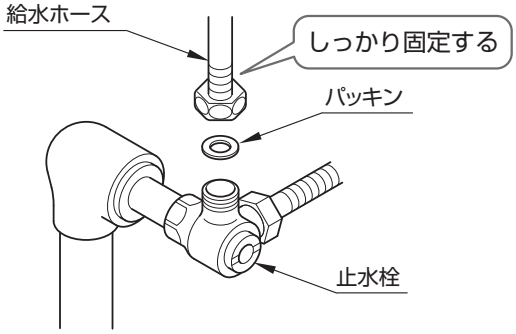
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

電気温水器ありの場合

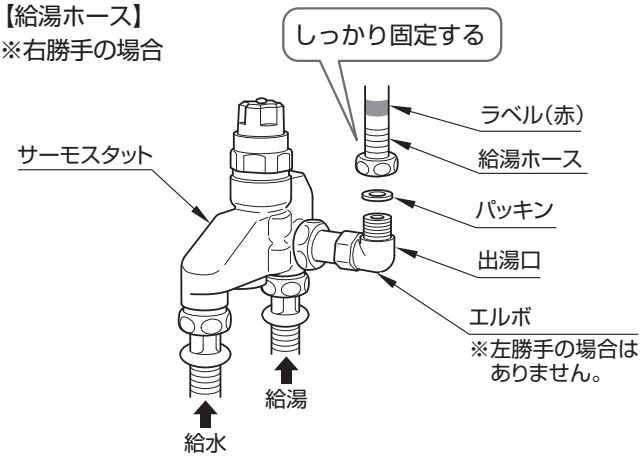
▶電気温水器施工説明書「取付手順」参照
給水･給湯ホースを電気温水器の出水口･出湯口に接続

電気温水器なしの場合

【給水ホース】
※右勝手再生水仕様の場合



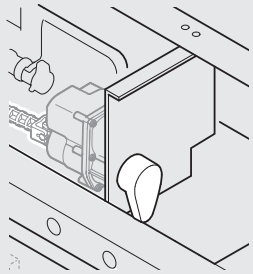
【給湯ホース】
※右勝手の場合



STEP14.便器洗浄ユニット

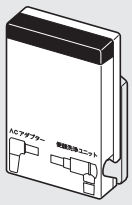
大便器部･汚物流し部共通です。

1 洗浄レバーの取り付け



▶P.73

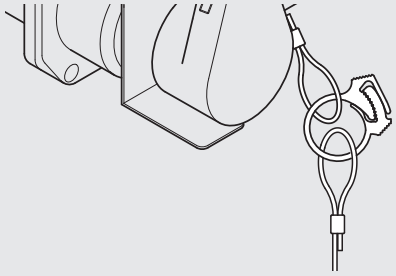
2 受信ユニットの取り付け



※ウォシュレットPS･エコリモコン（別売品）の場合の大便器部にはありません。

▶P.74

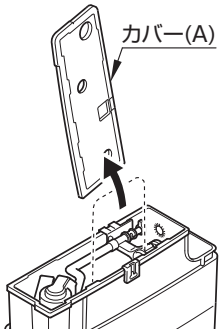
3 ワイヤーユニットの取り付け



▶P.75

1 洗浄レバーの取り付け

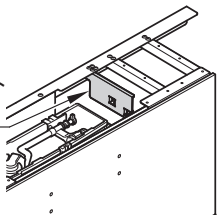
❶



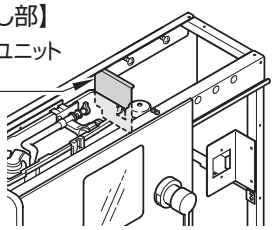
※パッキンははずさないでください。

❷

【大便器部】

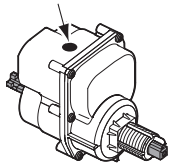


【汚物流し部】



エコリモコンの大便器の場合はウォシュレットへ接続
▶ウォシュレット施工説明書参照
その他の場合は受信ユニットへ接続

●印を上側に向ける



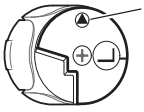
皿ねじ φ3×10

しっかり締め付ける

❸

❹

皿ねじ φ3×10（1本）

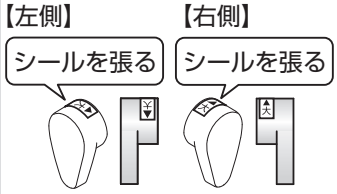


注　意

ガタツキがないようにしっかり締め付けること

シールの張り付け

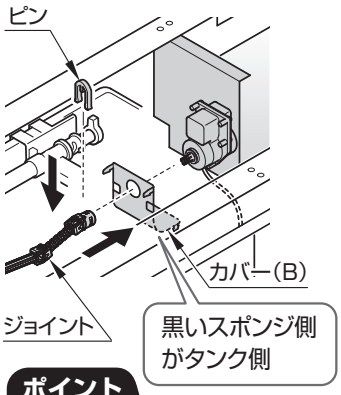
【左側】 【右側】



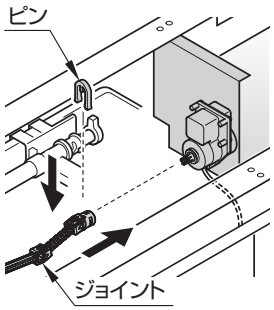
❺ ジョイントからピンを取り外す

❻ 【汚物流し部のみ】

電気温水器ありの場合



電気温水器なしの場合



ポイント

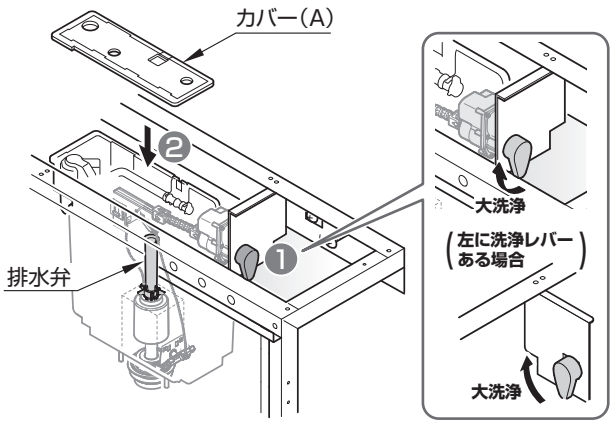
ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置

❼ 作動確認

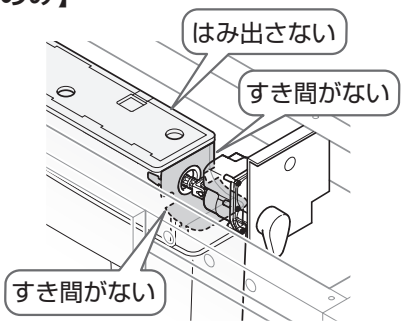
【確認ポイント】

□レバーを「大」側に回して、排水弁のみが引き上がることを確認してから、カバー（A）を付ける



電気温水器ありの場合

❽【汚物流し部のみ】

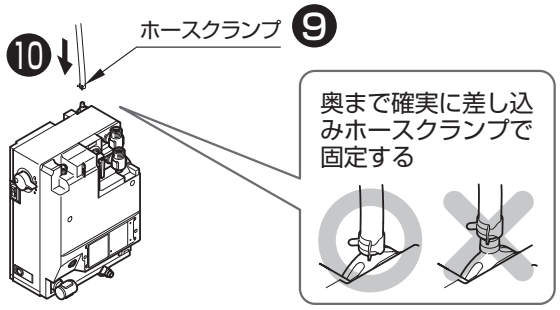


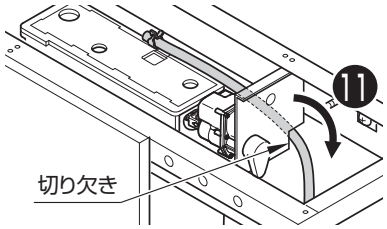
⚠ 警告

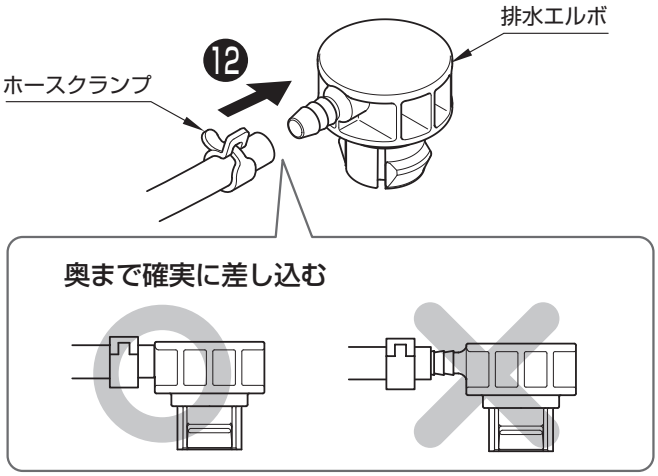
必ず守る

セットタンクのカバー(A)、カバー(B)はタンクとのすき間ができないように確実に取り付ける

水濡れにより、感電、または、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。







⚠ 警告

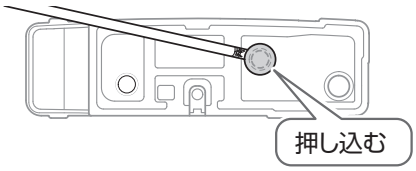
必ず実行

軟質ホースは継手の根元まで手で差し込み、ホースクランプを確実に取り付ける

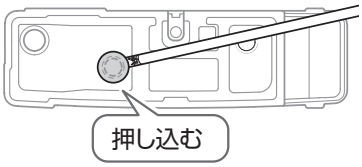
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⓭ 排水エルボの取り付け

【左にレバーハンドルがある場合】



【右にレバーハンドルがある場合】



2 受信ユニットの取り付け

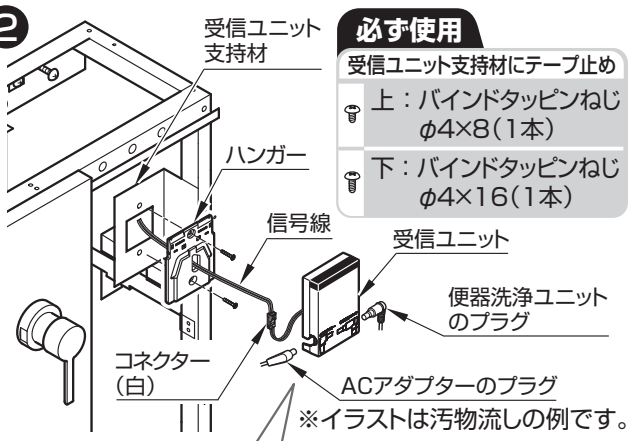
【大便器部／汚物流し部共通】

※ウォシュレットPS・エコリモコン(別売品)の場合の大便器部にはありません。

❶ 受信ユニットをハンガーから外す

※強く上へあげますと信号線が切れるおそれがあります。

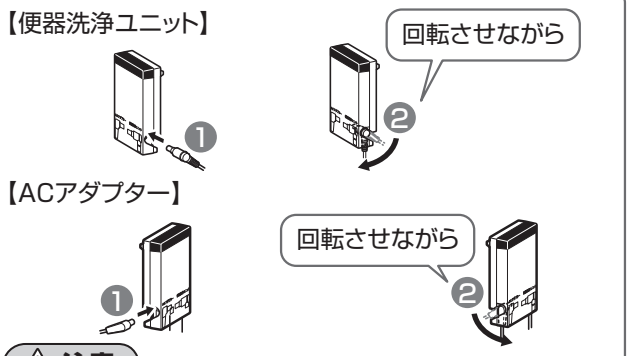
❷



必ず使用

受信ユニット支持材にテープ止め
上：バインドタッピンねじ φ4×8(1本)
下：バインドタッピンねじ φ4×16(1本)

※イラストは汚物流しの例です。



⚠ 注意

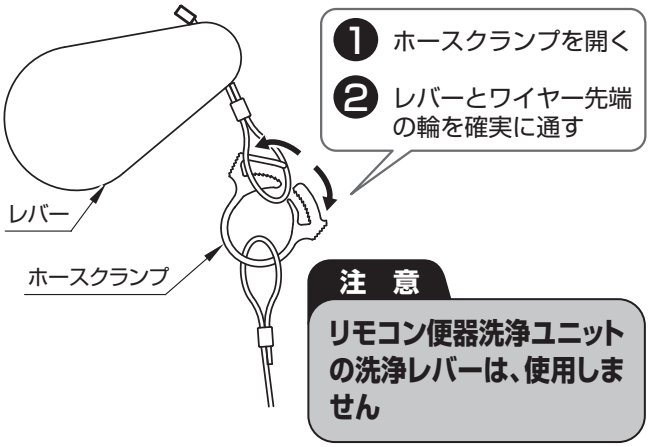
禁止

プラグを逆に差し込まない

壊れる可能性があります。

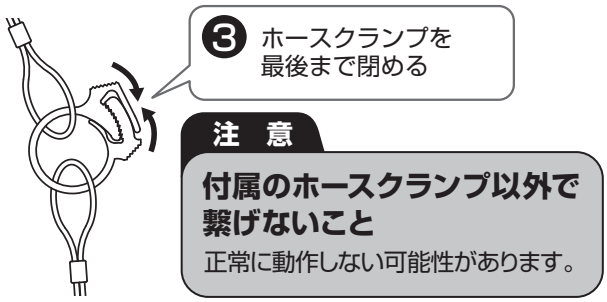
3 ワイヤーユニットの取り付け

停電対応の場合



注　意

リモコン便器洗浄ユニットの洗浄レバーは、使用しません

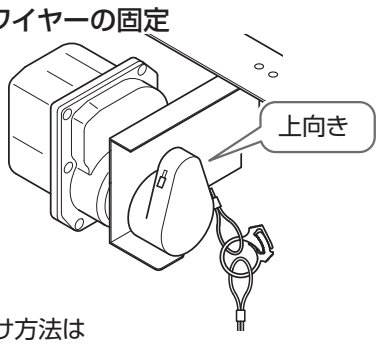


注　意

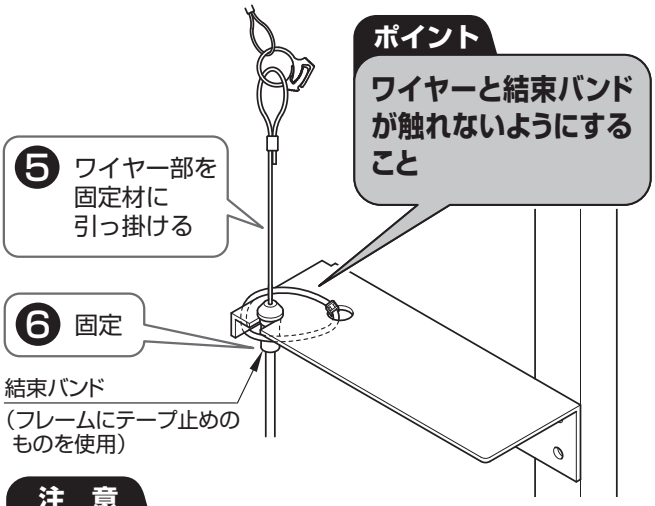
付属のホースクランプ以外で繋げないこと

正常に動作しない可能性があります。

❹ レバーとワイヤーの固定



※レバー取り付け方法は
P.73「STEP14.便器洗浄ユニット」 1 を参考にしてください。



ポイント

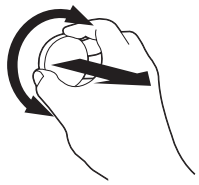
ワイヤーと結束バンドが触れないようにすること

注　意

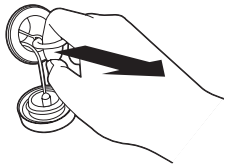
ワイヤーがはずれないように結束バンドで固定すること

❼ 動作確認

❶ 停電時にキャップを回しながら外す



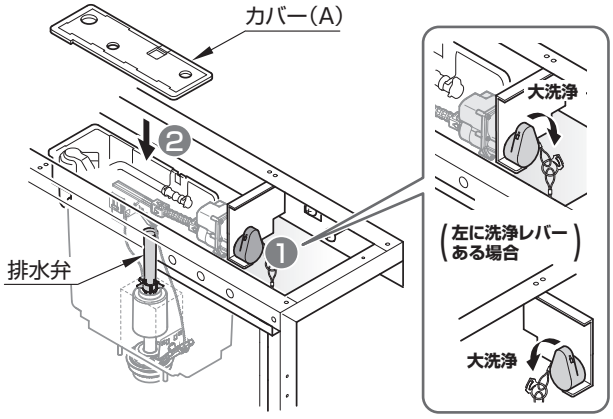
❷ リングを引いて動作を確認する



❽ 作動確認

【確認ポイント】

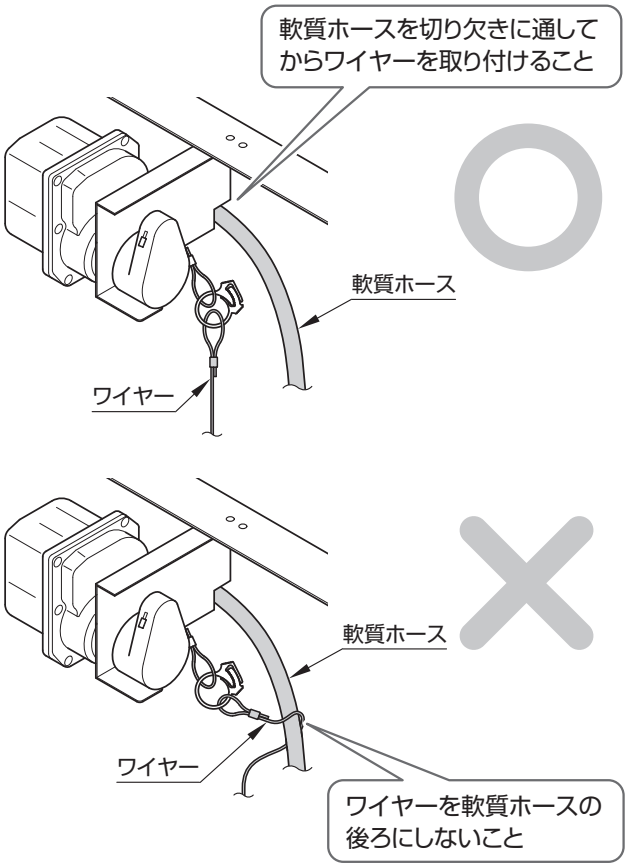
□リングを引いて、排水弁のみが引き上がることを確認してから、カバー（A）を付ける



注　意

ワイヤーと軟質ホースを絡ませないこと

洗浄レバーが正常に作動しません。



STEP15.タッチスイッチ

大便器用タッチスイッチはP.82「STEP18.手洗器」取り付け後、タッチスイッチを取り付けてください。

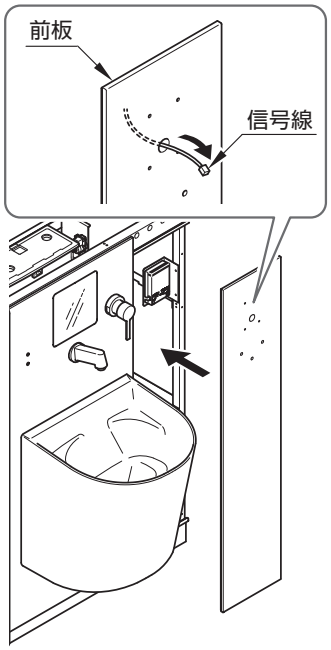
汚物流し用・大便器（ウォシュレットアプリコットの場合）用共通

1 タッチスイッチの取り付け

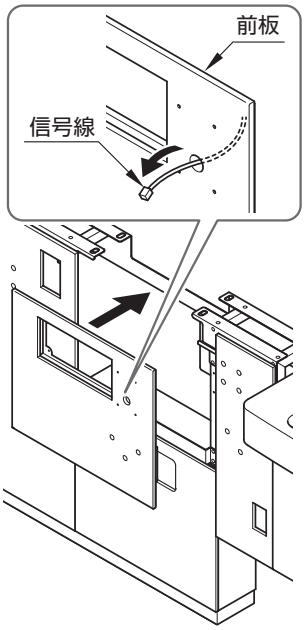
▶エコリモコンの場合はSTEP19で取り付け

❶ 前板の取り付け

【汚物流し用】



【大便器用】
※ウォシュレットアプリコットの場合



❷ ハンガーの取り付け

注　意

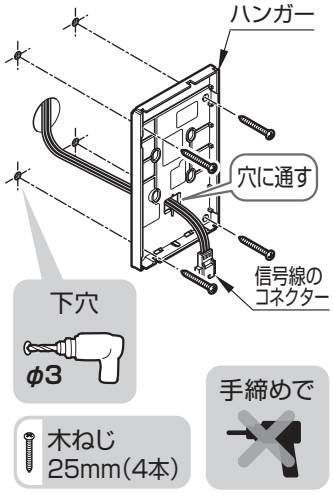
インパクトドライバーは使用しない

チェック

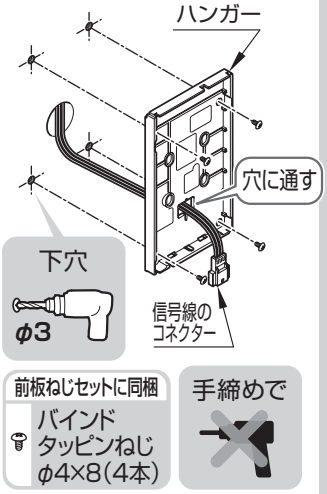
取付ハンガーをそらさない

スイッチユニット付カバーががたついたり、器具が破損するおそれがあります。

【汚物流し用】



【大便器用】

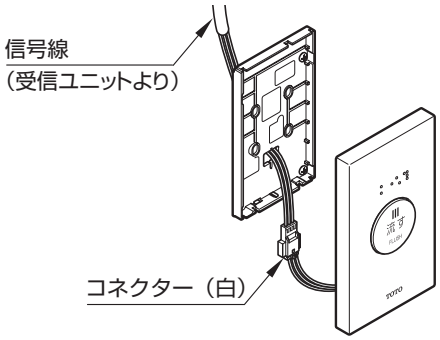


❸ コネクターの接続

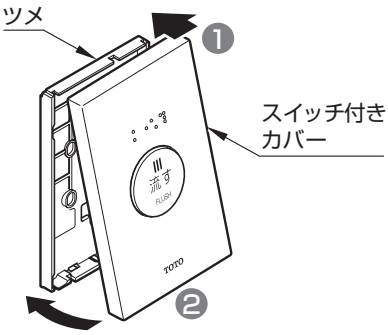
注　意

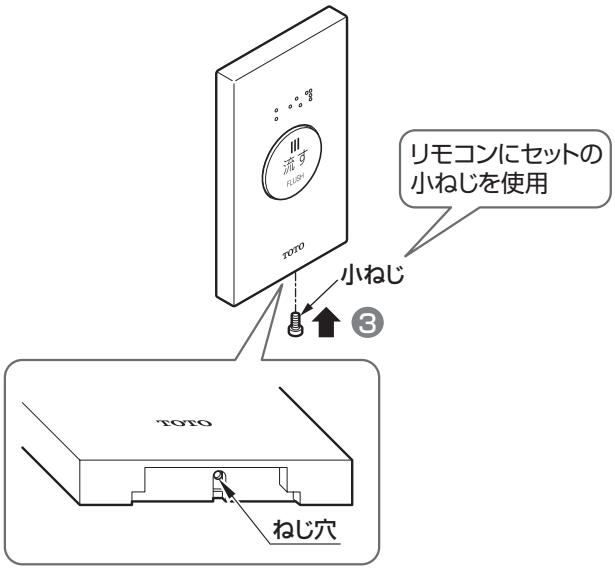
スイッチユニットを落下させない

コードがコネクターから抜けるおそれがあります。



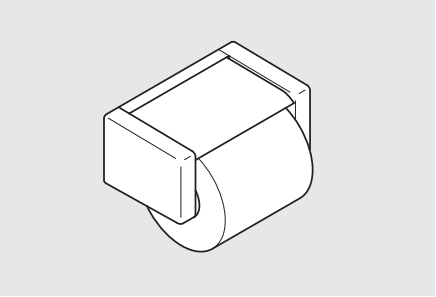
❹ スイッチ付きカバーの取り付け





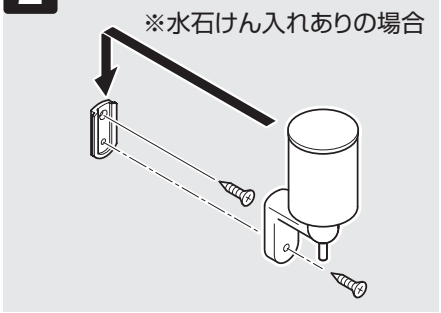
STEP16.器具類

1 紙巻器



▶P.77

2 汚物流し用水石けん入れ
※水石けん入れありの場合

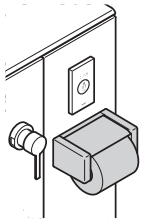


▶P.77

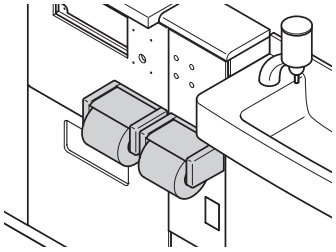
1 紙巻器

▶紙巻器施工説明書参照

汚物流し用



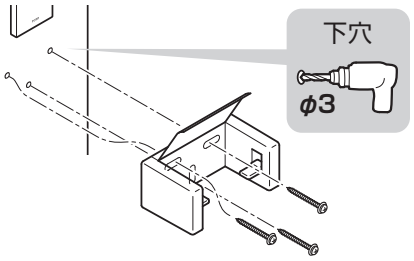
操作系部用



※操作系部用紙巻器は
P.85「STEP19.大便器周辺器具類」
取り付け後、紙巻器取り付けてください。

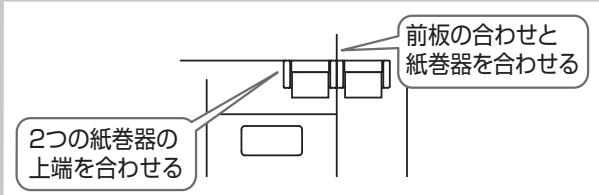
取り付け

必ず使用
座金組込なべ
タッピンねじ
φ4.5×25（3本）



注　意

紙巻器の位置を合わせる



⚠ 注意

必ず守る

取付完了後、商品にガタツキがないことを確認する

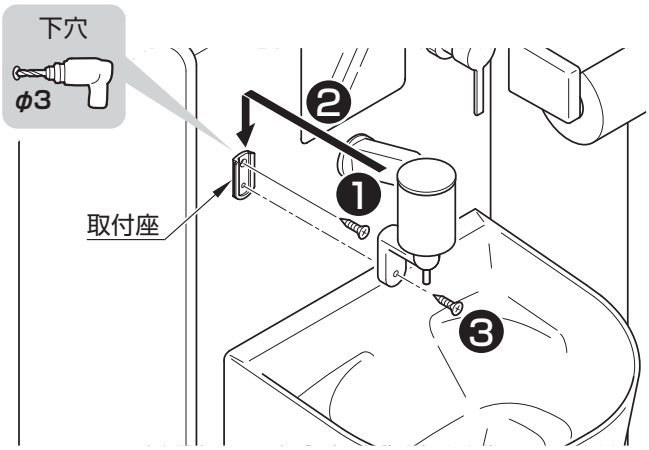
商品にガタツキがあると、商品が外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。

2 汚物流し用水石けん入れ

※水石けん入れありの場合

取付座を上側の皿タッピンねじ1本で取り付け、水石けん入れを上から差し込み下側のねじで共締めする。

皿タッピンねじ
φ4.5×30（2本）



⚠ 注意

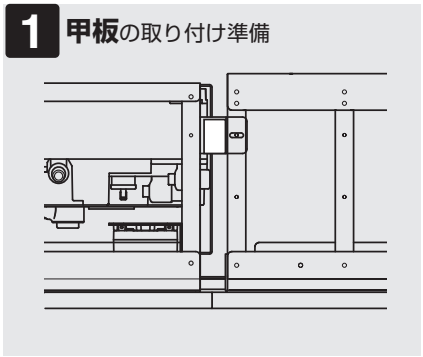
必ず守る

下穴をあける際、ドリルでセットタンクに穴をあけないように注意する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

STEP17.甲板

1 **甲板**の取り付け準備

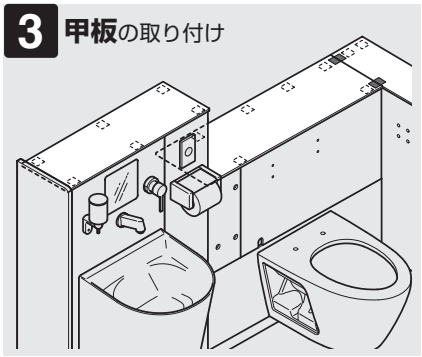


▶P.78

2 **底目地固定材・材底目地材**の取り付け

▶P.79

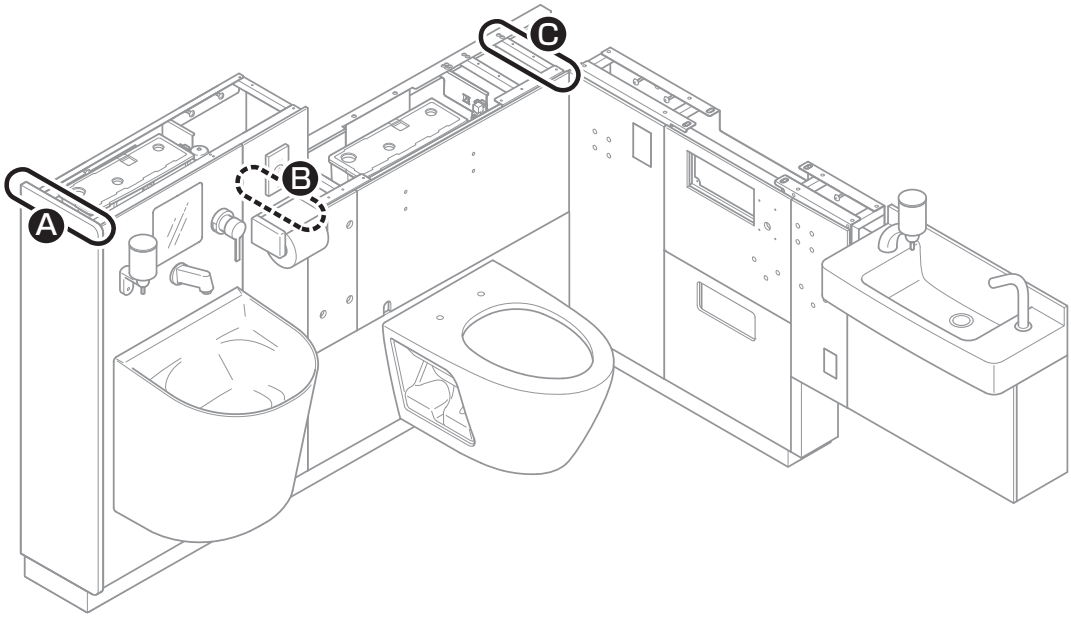
3 **甲板**の取り付け

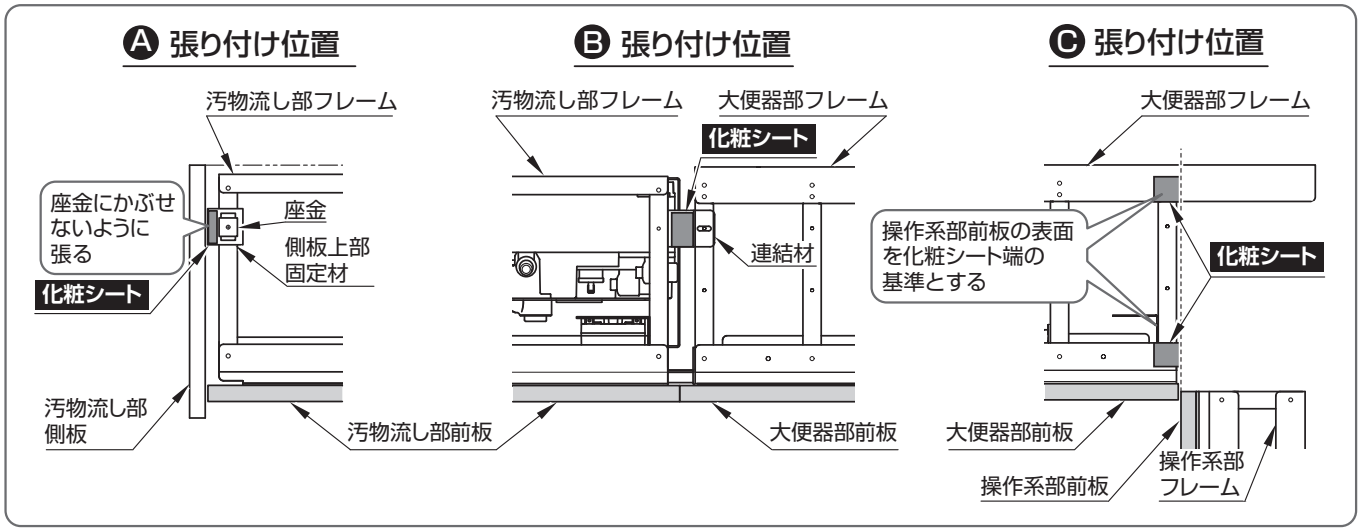


▶P.81

1 甲板の取り付け準備

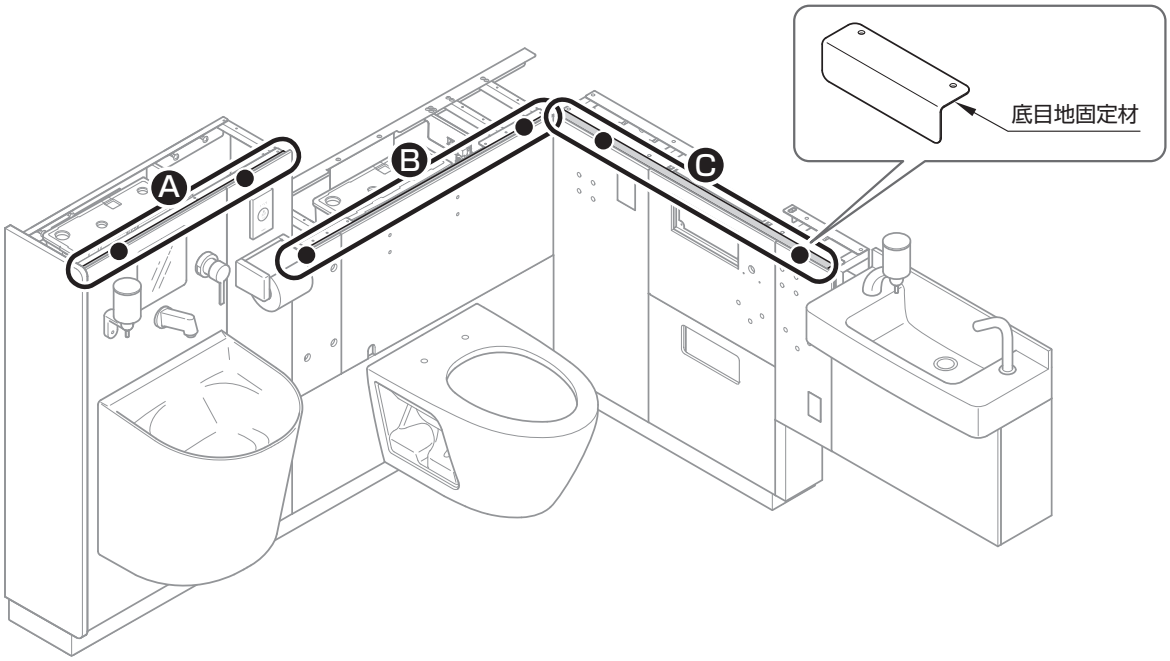
大便器部・汚物流し部フレーム上面（下図Ⓐ Ⓑ Ⓒの位置）に化粧シートを張り付ける（3カ所）
※大便器部側板・操作系部側板の側板上部固定材に化粧シートを張り付ける場合は、
Ⓐ と同様に張り付けてください。





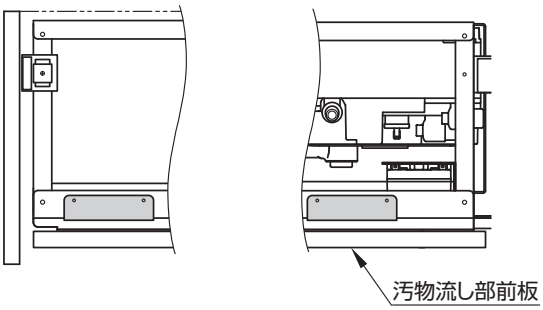
2 底目地固定材・底目地材の取り付け

底目地固定材（● の位置）を張り付け（6カ所）、底目地材（Ⓐ Ⓑ Ⓒ の位置）を張り付ける（3カ所）

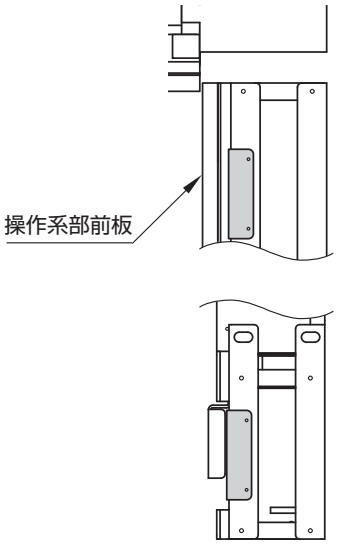


底目地固定材の張り付け位置

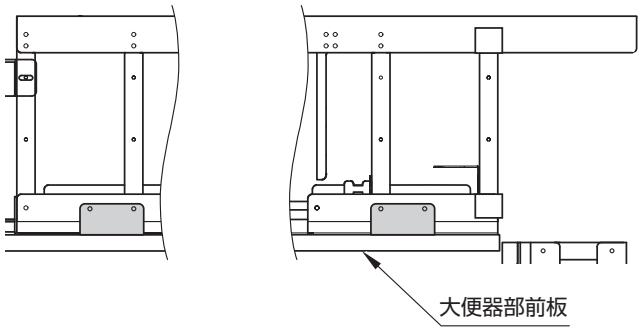
Ⓐ 張り付け位置



Ⓒ 張り付け位置

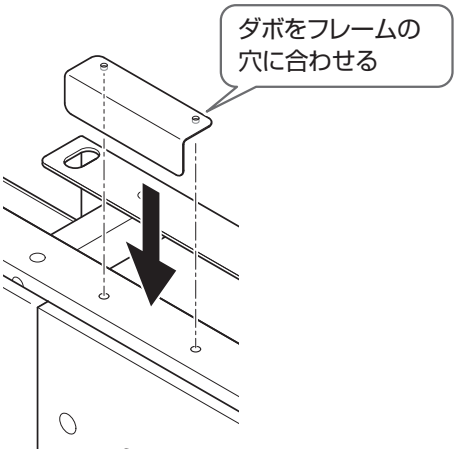


Ⓑ 張り付け位置



❶ 底目地固定材の準備

❷ 底目地固定材の取り付け



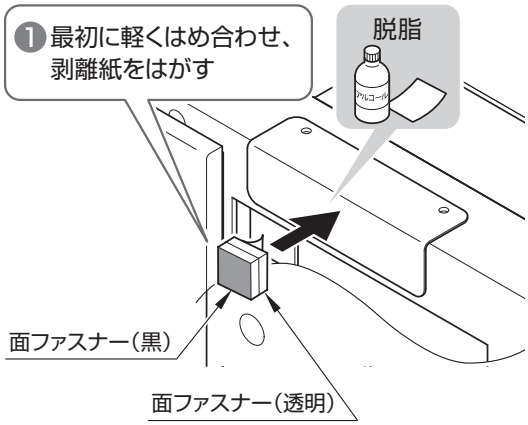
❸ 各フレームの長さにあった底目地材を選定し、養生フィルムをはがす

注　意

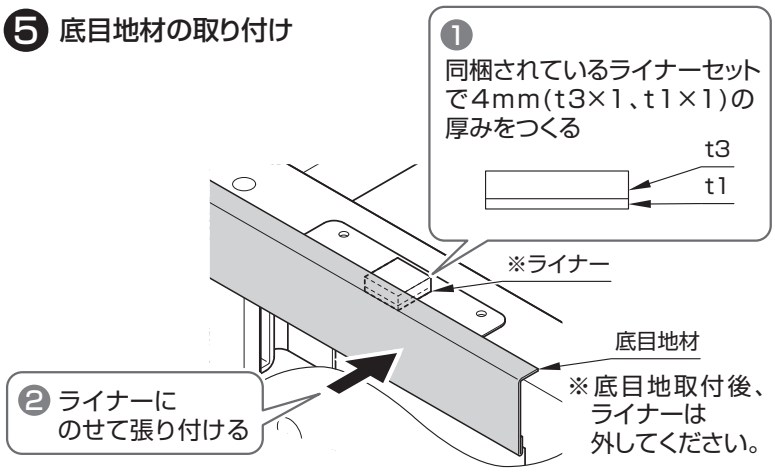
底目地材の端に注意
手袋をして作業を行ってください。

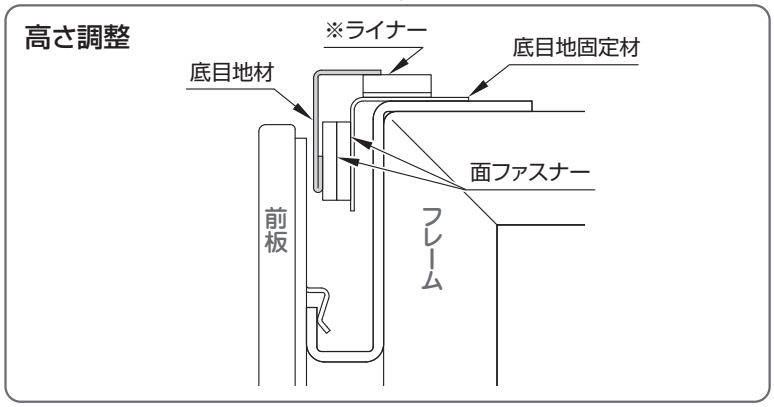
❹ 面ファスナーの取り付け

※板金側に透明側がくるように張り付ける。

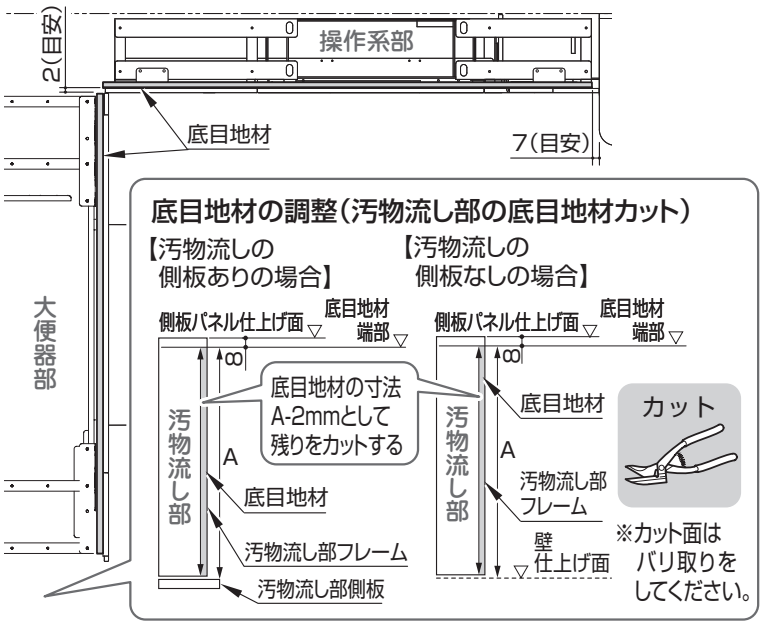


❺ 底目地材の取り付け





❻ 底目地材の調整



❼ 面ファスナーの確認

面ファスナー(黒)が底目地材の裏面に全て張り付いているか
底目地を一度取り外し、確認してください。

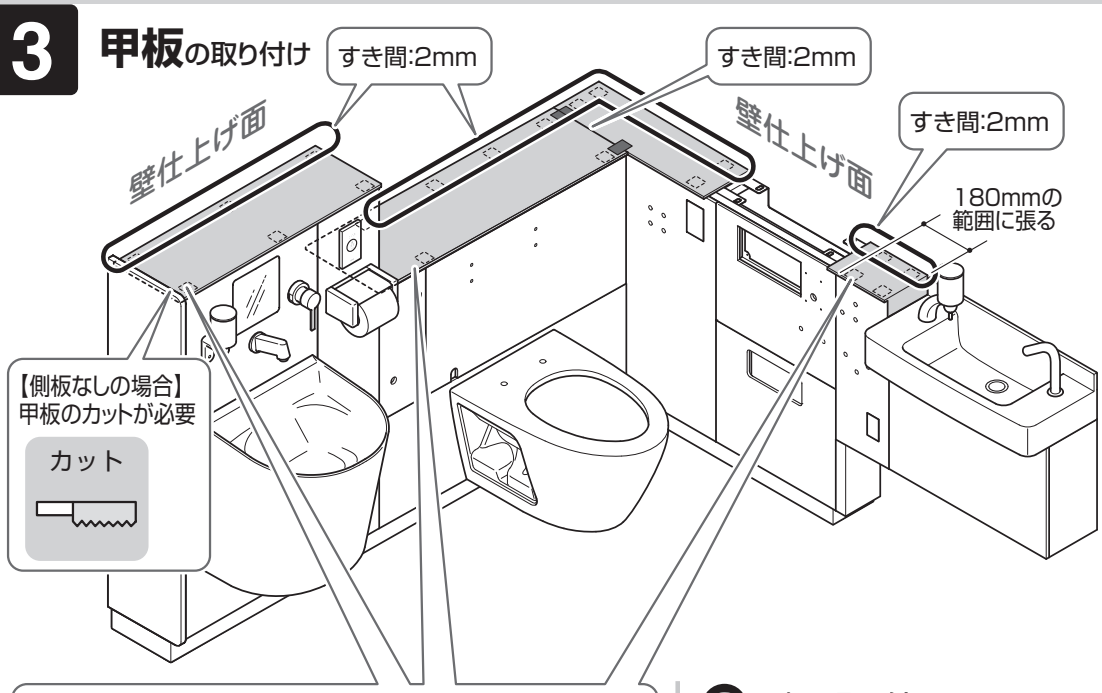
【面ファスナーが底目地固定材側に残っている場合】

❶面ファスナー(黒)を外す

❷底目地固定材側の面ファスナー(透明)の寸法に合わせて、面ファスナー(黒)を底目地材に張り直す

❽ 必要のないライナーは、外す

3 甲板の取り付け



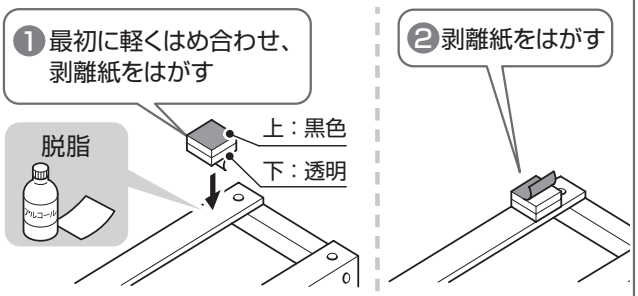
注　意

面取り側を必ず手前にする

注　意

底目地固定材やねじの上に面ファスナーを張らない

❶ 面ファスナーの張り付け



※ねじ頭を避け、下図を参考に前後1カ所ずつ張り付ける
※化粧シート（上図■）とかぶらないように張りつける

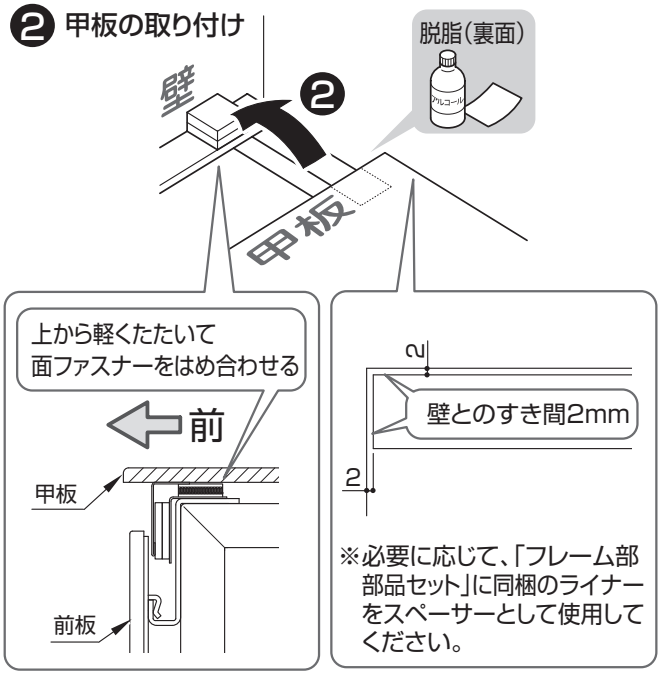
チェック

最初の面ファスナーどうしは強く押し込まず、軽くはめ合わせる

チェック

側板なしの場合は、汚物流し側板パネルの前面に甲板を合わせ、側板までの寸法でカットする

❷ 甲板の取り付け



※必要に応じて、「フレーム部部品セット」に同梱のライナーをスペーサーとして使用してください。

チェック

甲板を連接する場合、連接する甲板どうしの段差がないことを確認する

❸ 面ファスナーの確認

面ファスナー（黒）が甲板の裏面に全て張り付いているか甲板を一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

❶面ファスナー（黒）を外す

❷フレーム側の面ファスナー（透明）の寸法に合わせて、面ファスナー（黒）を甲板に張り直す

注　意

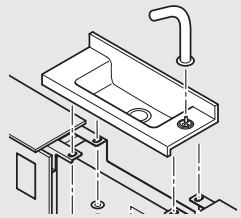
この段階では甲板にシリコーン系シール剤を塗布しない

STEP18.手洗器

1 排水金具の取り付け

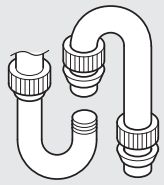
▶P.82

2 手洗器の取り付け



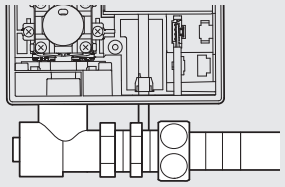
▶P.82

3 排水管の接続



▶P.82

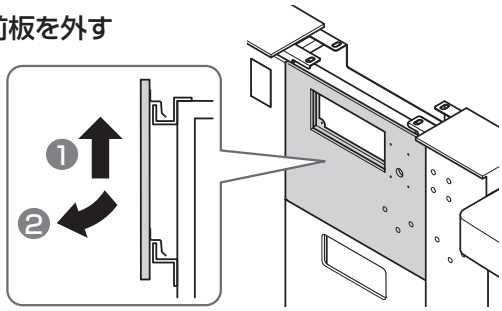
4 止水栓・給水管の接続

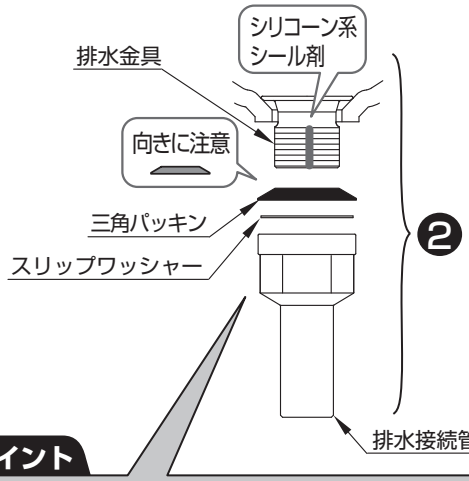


▶P.83

1 排水金具の取り付け

❶ 前板を外す





ポイント

締め付け力の目安は、手締めで止まる位置まで回し、工具にて半回転締め付ける程度

⚠ 注意

必ず実行

排水金具ねじ部には、必ずシリコーン系シール剤を塗布する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

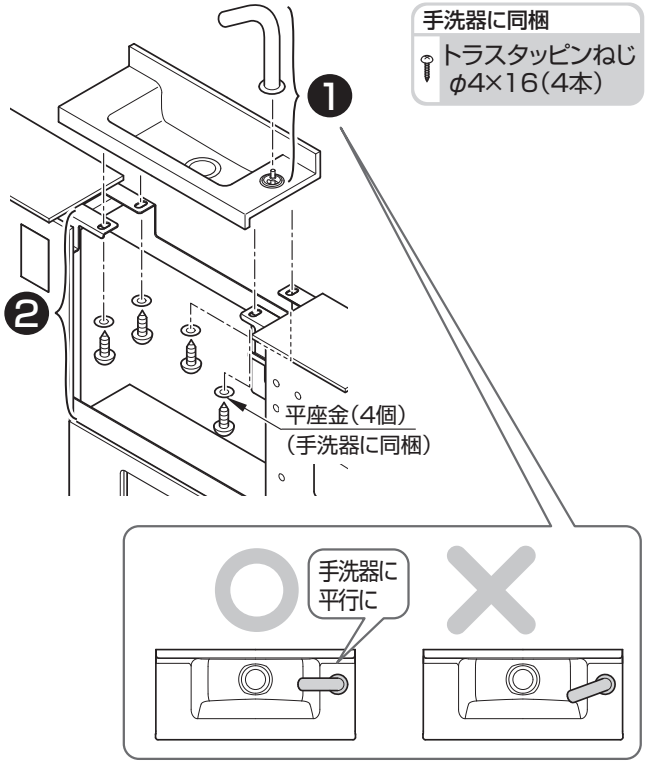
禁止

接続管を締め過ぎない

排水金具が破損して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

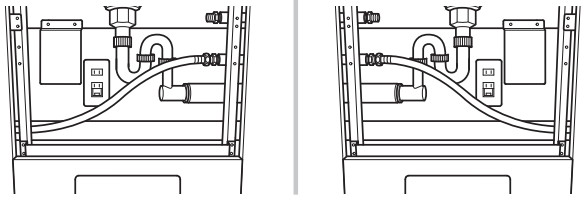
2 手洗器の取り付け

▶取り付け方法は自動水栓施工説明書参照



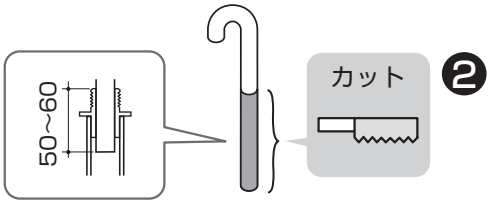
3 排水管の接続

排水管取付位置

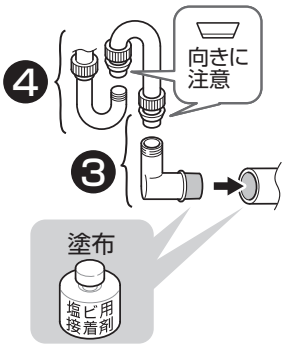


❶ **壁排水ソケットを排水管に仮固定する**

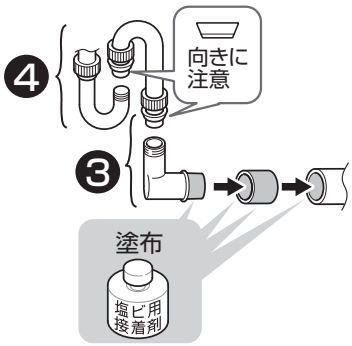
※接着剤は塗布しないでください。



【VP40】

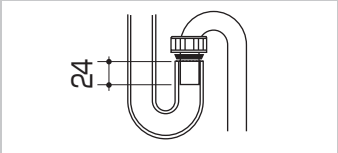


【VU40】



ポイント

- **トラップ（上）をトラップ（下）の奥まで入れる**



- **各部の袋ナットは手で確実に締める**

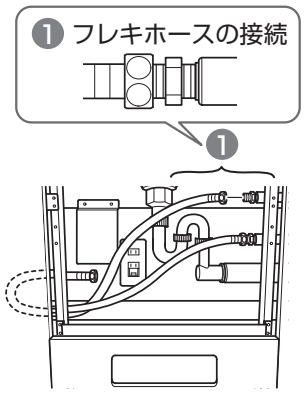
4 止水栓・給水管の接続

❶ 給水の準備

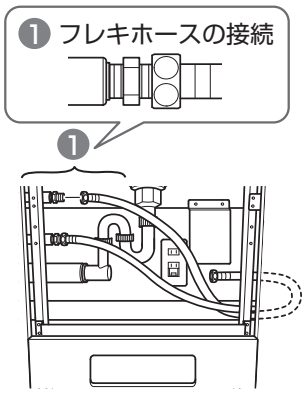
注　意

フレキホースが折れ曲がらないように！！

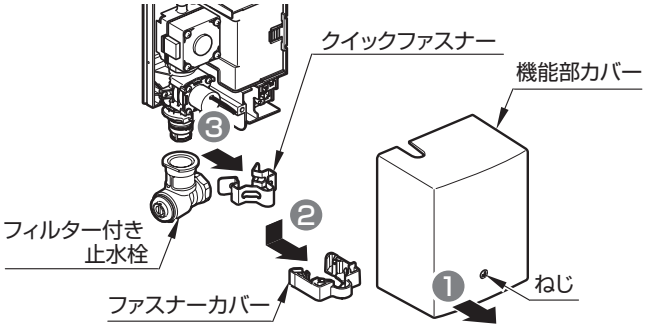
【左勝手】



【右勝手】



❷ 自動水栓の取り付け準備

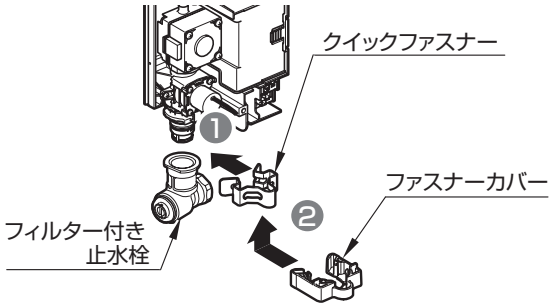


❸ 止水栓の向きを変える

❹ 止水栓を元に戻す

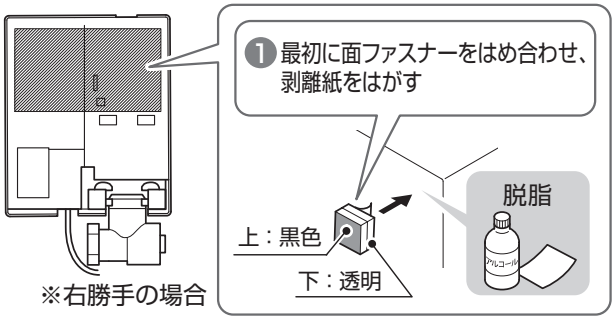
注　意

Oリングにごみなどが付着していないことを確認



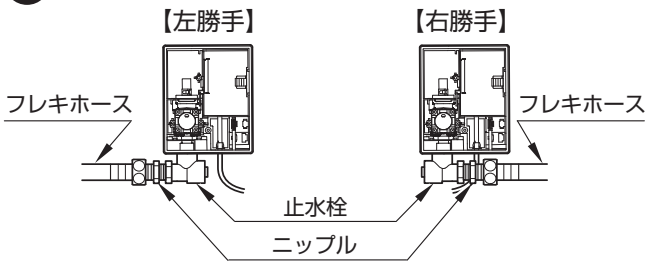
❺ 水栓機能部裏に面ファスナーを張る

面ファスナー張り付け範囲：▨



自動水栓の取り付け

❻ 止水栓とニップル、ニップルとフレキホース接続する

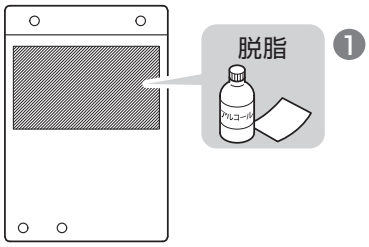


❼ 自動水栓とスパウト側の給水栓と接続する

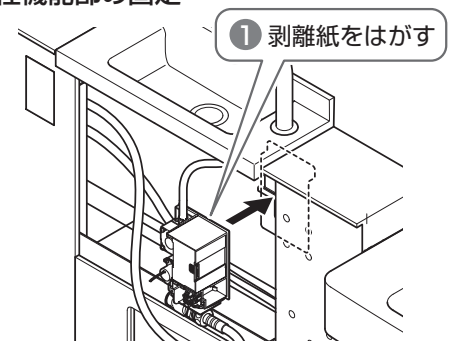
▶水栓同梱施工説明書7-1参照

❽ 水栓機能部取付板を脱脂する

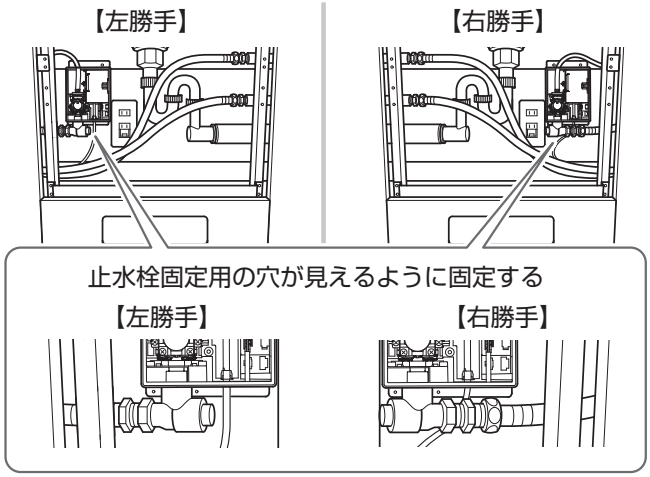
面ファスナー張り付け範囲：▨



❾ 水栓機能部の固定



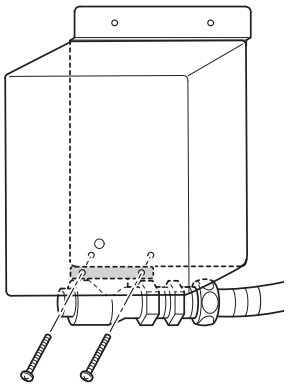
水栓機能部取付位置



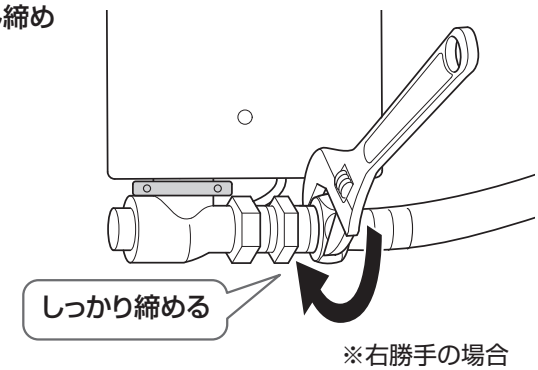
❿ 機能部カバーを取り付ける

⓫ 止水栓の固定

なべ小ねじ
M4×50(2本)



⓬ 増し締め

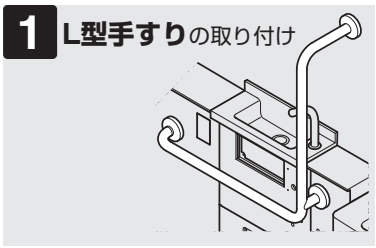


⓭ コンセントに差し、外した前板を取り付ける

MEMO

STEP19.大便器周辺器具類

1 **L型手すり**の取り付け

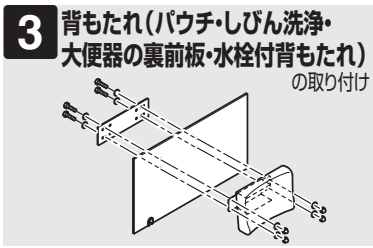


▶P.85

2 **ウォシュレット**の取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

3 **背もたれ（パウチ・しびん洗浄・大便器の裏前板・水栓付背もたれ）**の取り付け



▶P.87

4 **ふさぎ板**の取り付け

▶P.88

5 **サイドカバー**の取り付け

▶P.88

6 **はね上げ手すり**の接続

▶はね上げ手すり施工説明書参照

1 L型手すりの取り付け

▶L型手すり施工説明書参照

❷ 水平確認 → けがき

❸ 手すりをいったんはずす

【耐水合板下地の場合】
下穴φ4
【コンクリート下地の場合】
下穴φ6、深さ85mm以上

❹ 下穴 φ4

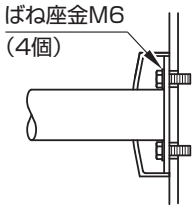
壁

❶ 壁固定穴をけがくため仮固定する

全ねじ六角ボルト M6×25（4本）　ばね座金 M6（4個）

❺ L型手すりの取り付け（下部2カ所）

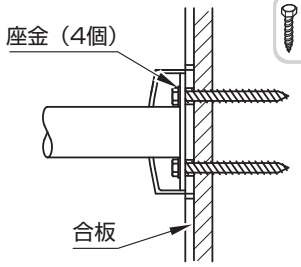
操作系部前板



全ねじ六角ボルト M6×25（4本）

❻ L型手すりの取り付け（上部1カ所）

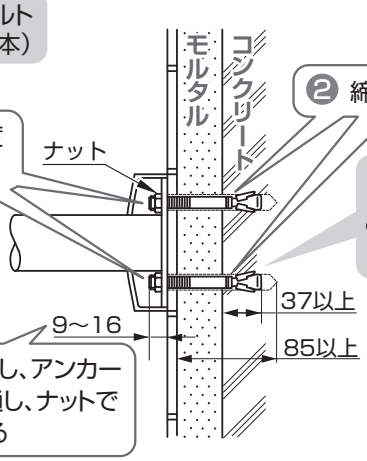
耐水合板下地の場合



六角コーチねじ φ6×70（4本）

コンクリート下地の場合

アンカーボルト φ6×85（4本）



❶ 2mm程度ねじ込む

❷ 締め付ける

下穴 φ6

❸ ナットを外し、アンカーボルトを通し、ナットで締め付ける

❼ カバーを仕上げ面に押し付ける

⚠ 注意

必ず実行

手すりにガタツキやゆるみがないか確認する

手すりが外れ、けがをするおそれがあります。

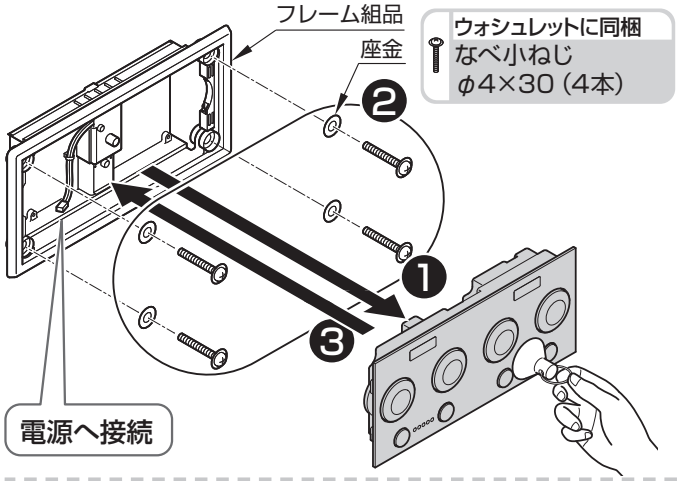
2 ウォシュレットの取り付け

▶ウォシュレット施工説明書参照

注 意

再生水仕様の場合、ウォシュレットの給水接続は水道水と再生水を間違えない

ウォシュレットアプリコット・AC100Vリモコンの場合

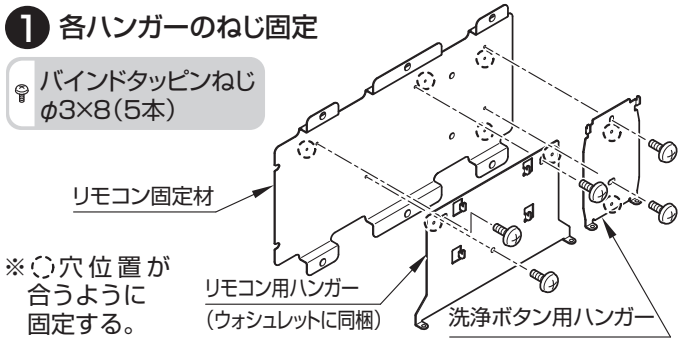


❹

▶ウォシュレット同梱施工説明書
「リモコンの取り付け方法②～⑤(各施工共通)」

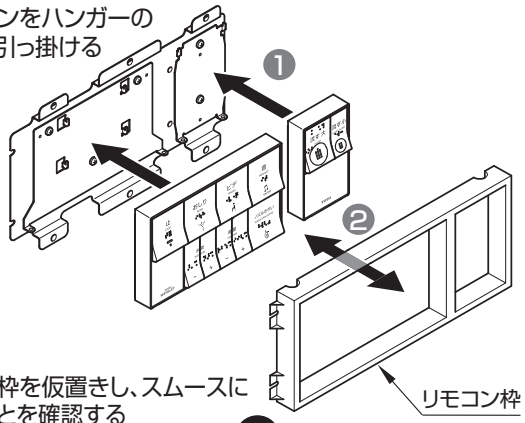
ウォシュレットPS・エコリモコンの場合

❶ 各ハンガーのねじ固定



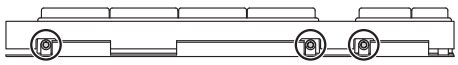
❷ 各リモコンのねじ固定

❶ 各リモコンをハンガーのフックに引っ掛ける



❷ リモコン枠を仮置きし、スムースに外せることを確認する
(スムースに着脱できない場合は❶の位置を確認する)

❸ リモコン固定材とリモコンを下側から固定する



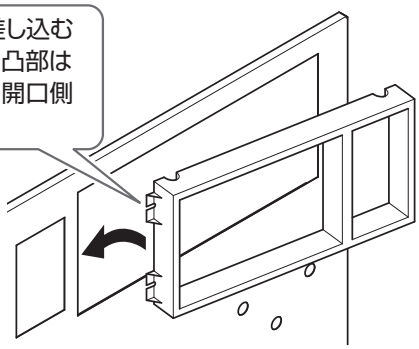
手締めで

六角棒レンチ
対辺2.5mm

各リモコンに付属
六角穴付ねじ
(3本)

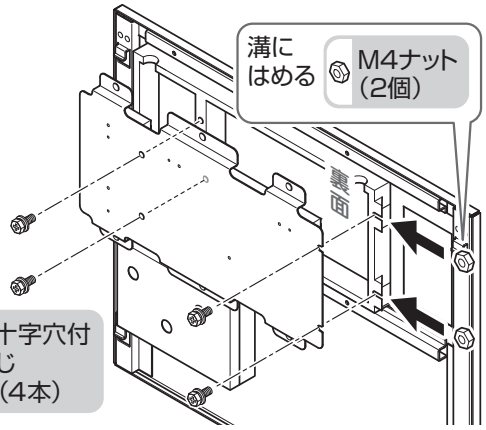
❸ 前板の養生フィルムをはがし、枠を入れる

横の凸部側から差し込む
※リモコン枠横の凸部は呼出しボタン用開口側にする。



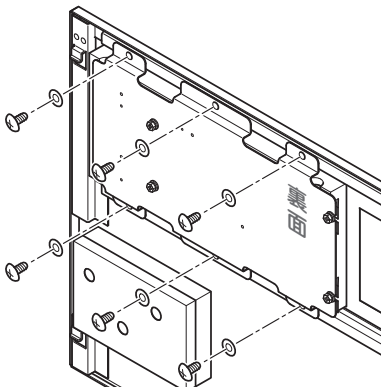
❹ リモコン枠とリモコン固定材の仮固定(4箇所)

手締めで



座金組込十字穴付
六角小ねじ
M4×10 (4本)

❺ リモコン固定材を前板裏面のフレームに仮固定(6箇所)



バインドタッピンねじ
φ4×8(6本)

平座金
M6(6個)

❻ リモコンとリモコン枠のすき間が均等になるように調整して❹と❺の各ねじを本固定

❼ STEP11を参照してリモコン横にふさぎプレートを取り付ける

❽ 前板をライニングに取り付ける

3 背もたれ（パウチ・しびん洗浄・大便器の裏前板・水栓付背もたれ）の取り付け

共通

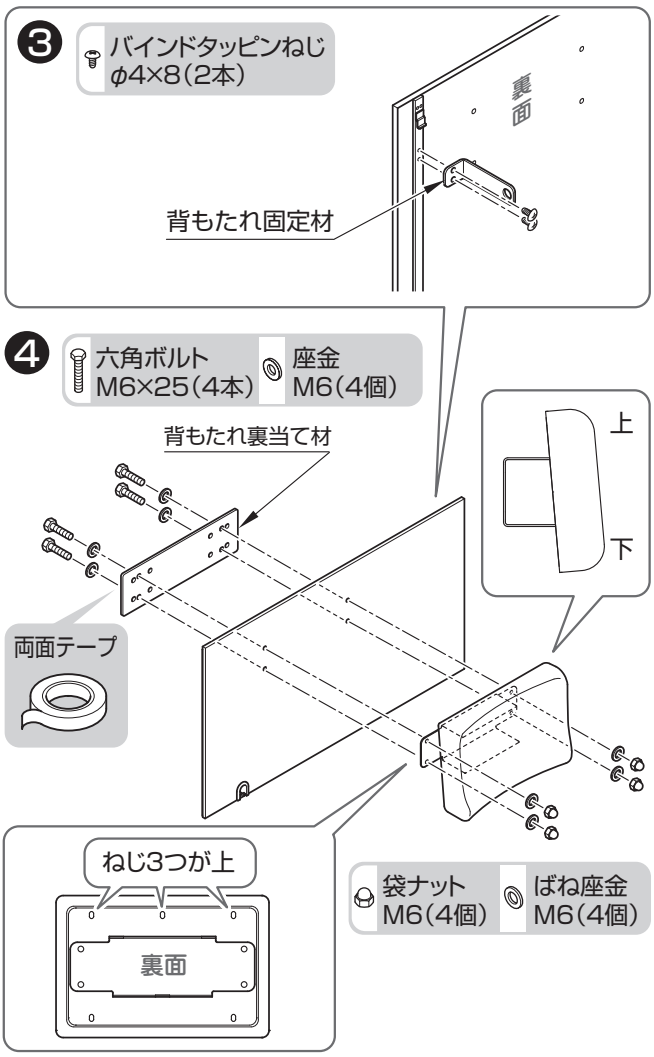
❶ U字ブッシュを取り付ける

❶ 点検口をはずす

❷ U字切り欠き部分にゴム系接着剤でU字用ブッシュを接着

パウチ・しびん洗浄水栓なし・背もたれありの場合

❷ 操作系部側の前板を取り外す

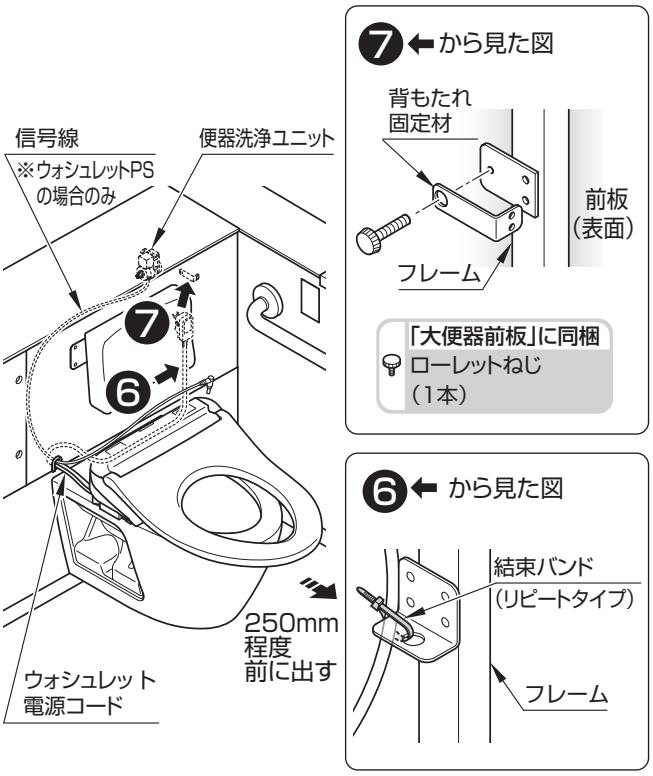


ポイント

背もたれ裏当て材は点検口の裏に両面テープで張り付けておく

六角ボルトが取り付けやすくなります。

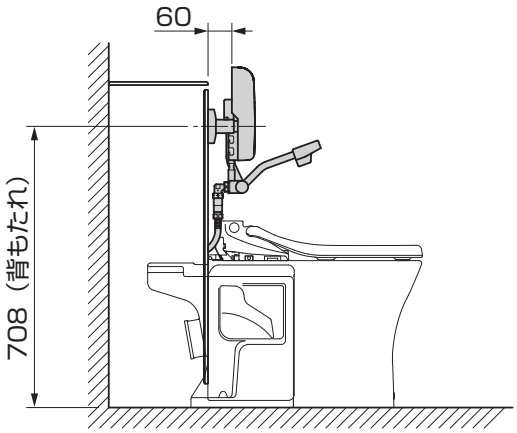
❺ 前板を取り付ける



パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれの場合

▶パウチ・しびん洗浄水栓および専用背もたれ施工説明書参照

背もたれ取り付け位置（前出）

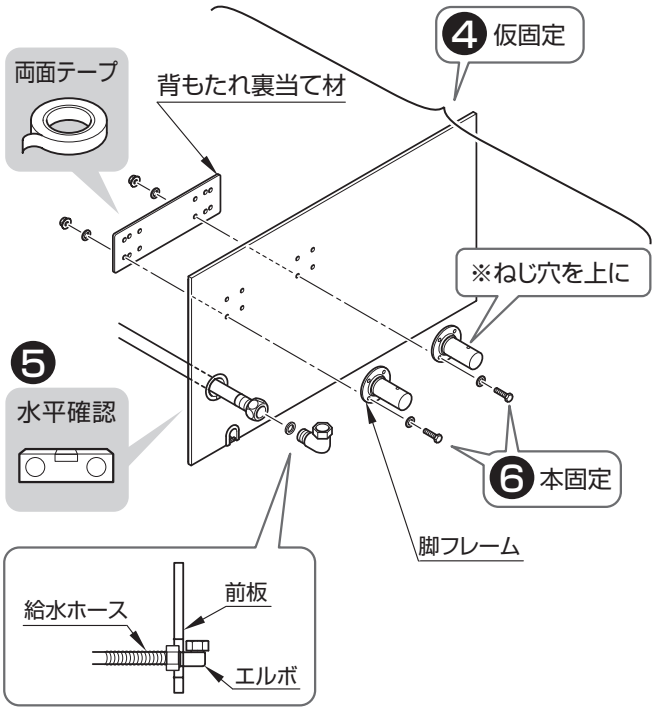


❷ 操作系部側の前板を取り外す

❸ 給水ホースを止水栓に取り付ける

▶接続位置はSTEP4を参照

座付きナット M6(8個)　座金 M6(8個)



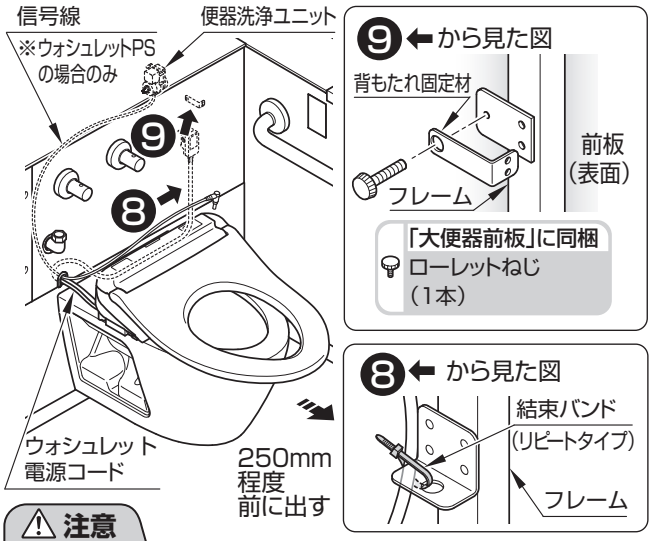
六角ボルト M6×30(8本)　ばね座金 M6(8個)

ポイント

背もたれ裏当て材は点検口の裏に両面テープで張り付けておく

六角ボルトが取り付けやすくなります。

❼ 前板を取り付ける



⚠ 注意

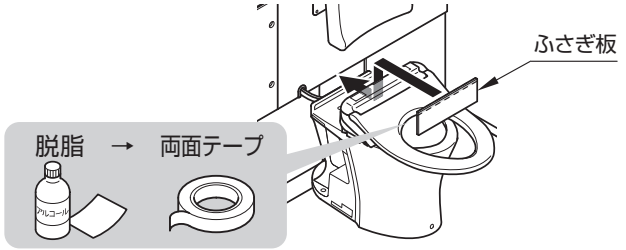
必ず守る

- **点検口で給水ホースを挟まないように注意して取り付ける**
- **給水ホースがキンクしないよう注意する**

水漏れし、建物や設備などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

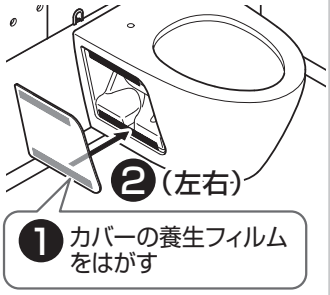
4 ふさぎ板の取り付け

床置大便器の場合のみ



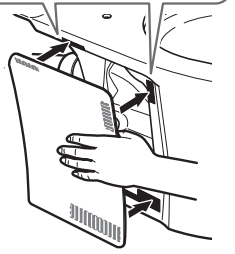
5 サイドカバーの取り付け

壁掛大便器の場合



床置大便器の場合

❶ サイドカバーの面ファスナーと便器の面ファスナーの位置を合わせて取り付け



6 はね上げ手すりの取り付け

▶はね上げ手すり施工説明書参照

STEP20.試運転・確認

1 水漏れ確認

【大便器部】
- □給水一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
- □セットタンク接続部
- □排水ジャバラ接続部
- □ウォシュレット分岐金具接続部

【操作系部・洗面器部（洗面器ありの場合）】
- □給水一次側止水栓接続部
- □フレキホース接続部
- □手洗器・洗面器用止水栓接続部
- □水栓金具・電気温水器接続部
- □手洗器・洗面器用排水金具接続部

【汚物流し部（汚物流しありの場合）】
- □給水一次側（給水管接続部・止水栓まわり）
- □セットタンク接続部
- □排水フランジ・排水ジャバラ接続部
- □水栓金具（シングルレバー・スパウト）・電気温水器・バキュームブレーカー・サーモスタット接続部

※大便器・汚物流し（汚物流しありの場合）の排水接続部に水漏れが見られる場合は、
排水パッキンの取り付けから再施工してください。

2 通水試験

❶ 通水試験

【ポイント】

□全ての器具、配管などの連結部が完全に接続されているか
□電気配線に間違いがないか
□電気温水器の試運転は、電気温水器の施工説明書を確認
□通水試験については、建築・設備担当者または、責任者の承認、指示を受け、その立会いのもとで実施
（試験結果を検査表として整理し、立会い者のサインをもらう）
□通水試験時には必ず、2名以上の人員を配備しPS内元バルブ開閉者とトイレパックの水漏れ確認者とに分かれて作業する
□元バルブ以降の配管・器具の外れ、または接合部からの大きな漏れが発見された場合は、ただちに元バルブ開閉者へ合図・連絡を行う
□元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉する
□PS内には他にもいろいろな配管、バルブ類があるため、間違いのないよう確認して開閉する
□止水栓・スパウトのフィルター・網目に詰まった異物はブラシなどで取り除く
（初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがある）

⚠ 注意

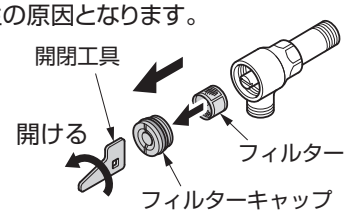
必ず守る

通水試験後に止水栓のフィルター清掃を行う（自動水栓、電気温水器）

フィルターに付着したごみが機器内に入り、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う

水が噴き出して、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



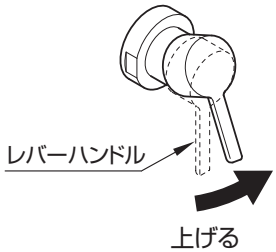
❷ 必要な水圧

最低必要水圧:0.05MPa（流動時）
最高水圧:0.75MPa（静止時）

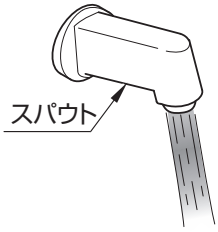
❸ 汚物流し吐水流量の調整

【水出し確認】

□レバーハンドルを上げて、吐水口から水が出るか



□水栓本体、レバーハンドルにがたつきがないか



故障ではありません

▶吐水はじめに、一度少量の水が出て一瞬止まり、その後本吐水しはじめる

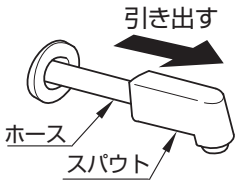
バキュームブレーカーとスパウトの間のホースに残った水が一度スパウトから排出されるものであり、故障ではありません。

▶水栓の水を止めたあと、スパウトからしばらく水が垂れる

水栓内部の残留水が排出されるものであり、故障ではありません。

【動作確認】

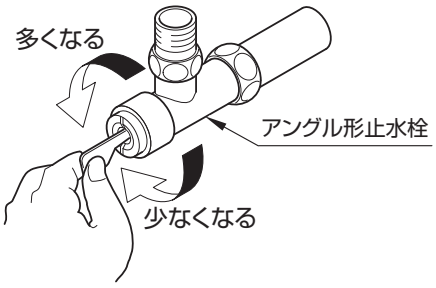
□スパウトが汚物流しボウルの先端付近までスムーズに引き出せるか



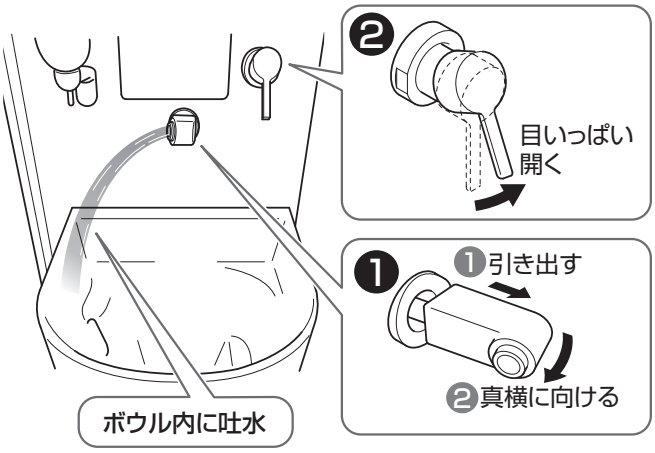
▶引き出せない場合は、ホースがフレーム内で各器具に干渉していないか確認してください。

【吐水流量の調整、および温度の確認】

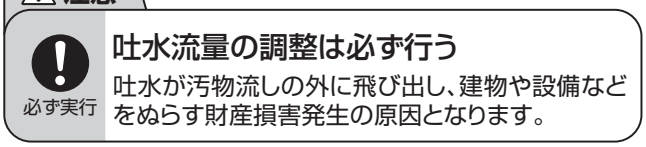
全閉した状態から調整をはじめてください。



〈吐水流量の調整〉



⚠ 注意



吐水流量の調整は必ず行う

吐水が汚物流しの外に飛び出し、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

※ハンドルを目いっぱい開いても、吐水が汚物流しのボウル内に納まるように、止水栓で水勢を調整ください。

MEMO

必ず実施してください

3 水位確認

正常な状態

設定変更不要です。

設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。

水たまり面が低い

設定変更してください。

▶P.92
「水たまり面が低い場合の対応方法」

汚物付着の原因になります。

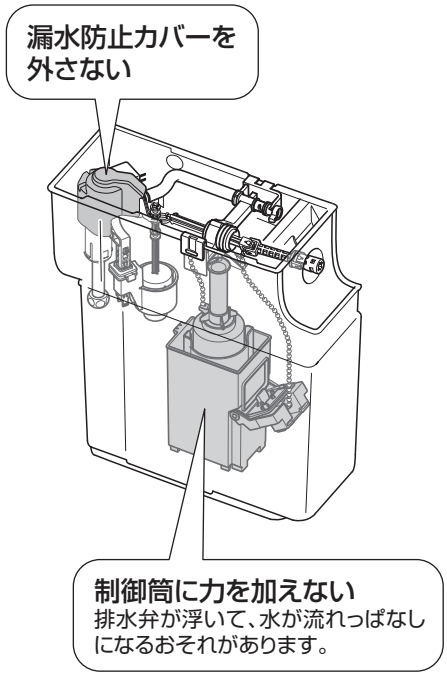
〈水たまり面　低下の理由〉

- 排水管に曲がりが多い
- 通気が不十分

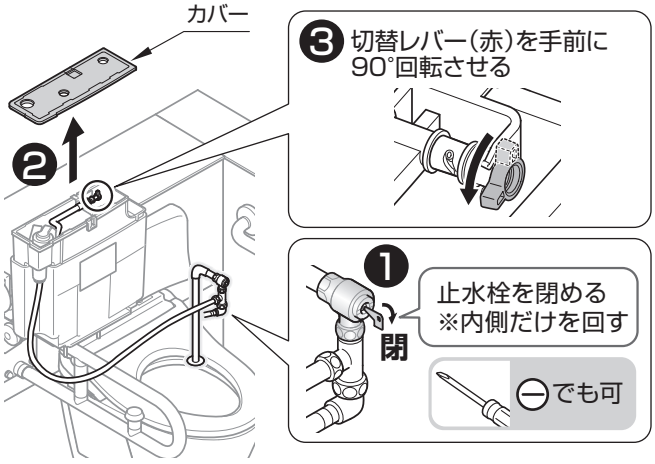
〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉

ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

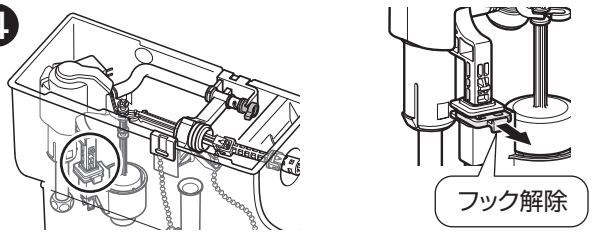
タンク内を調整する際のご注意



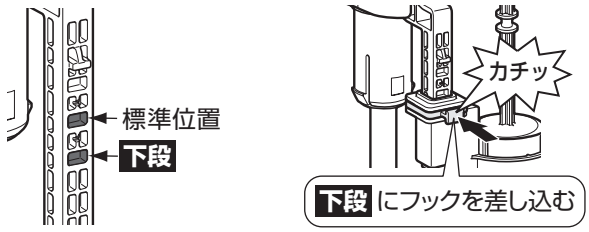
水たまり面が低い場合の対応方法



❹

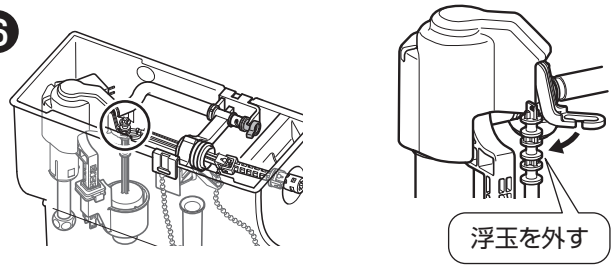


❺

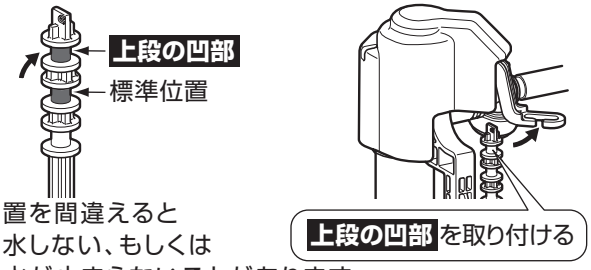


位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❻



❼



位置を間違えると
給水しない、もしくは
給水が止まらないことがあります。

❽ カバーを元にもどす

❾ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L

変更できます。

大洗浄	6L
小洗浄	4.8L

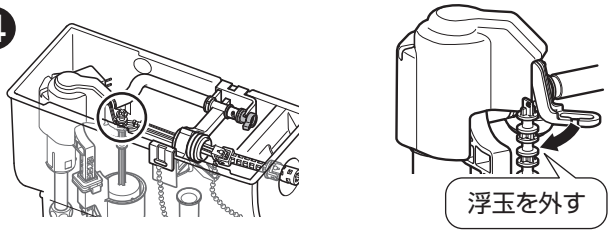
大洗浄	8L
小洗浄	7.5L

大洗浄6L、小洗浄4.8L への切替方法

❶～❸

▶P.92左 水たまり面が低い場合の対応方法 の
❶～❸を実施

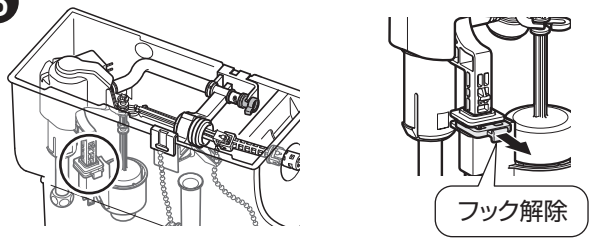
❹



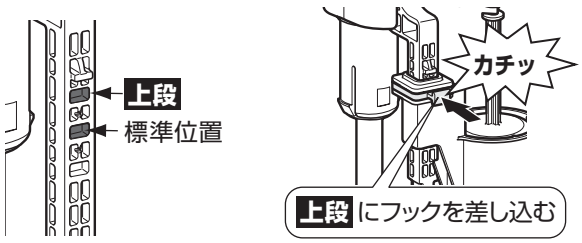
❺

位置を間違えると
給水しない、もしくは
給水が止まらないことがあります。

❻



❼



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❽ カバーを元にもどす

❾ 完了後の確認

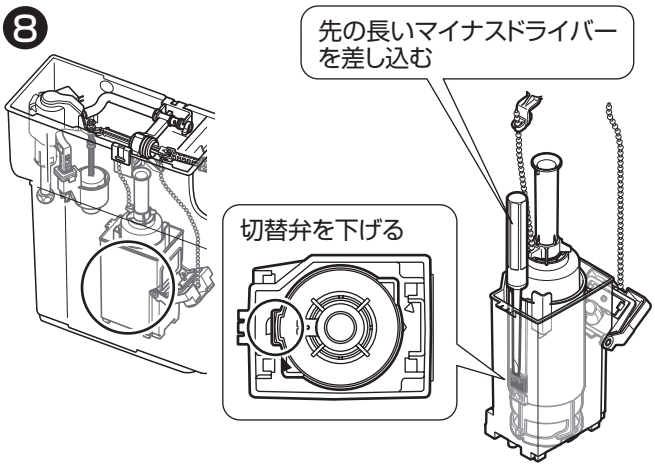
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

大洗浄8L、小洗浄7.5L への切替方法

❶～❼

▶P.92右 大洗浄6L、小洗浄4.8L の ❶～❼を実施

❽

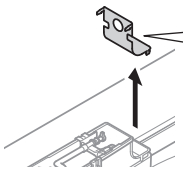


❾ カバーを元にもどす

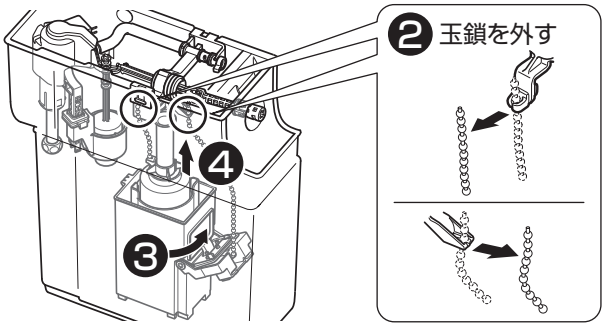
❿ 完了後の確認

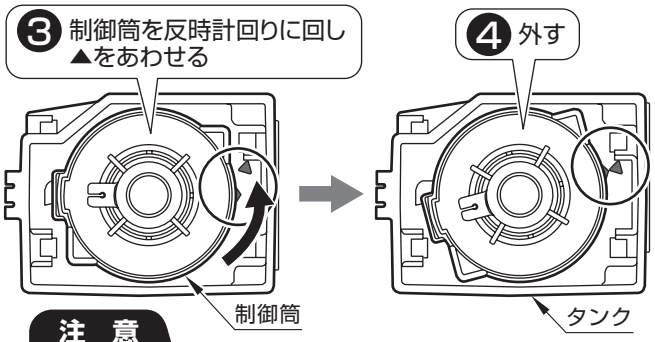
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

切替弁を下げられなかった場合



❶ カバーを外す

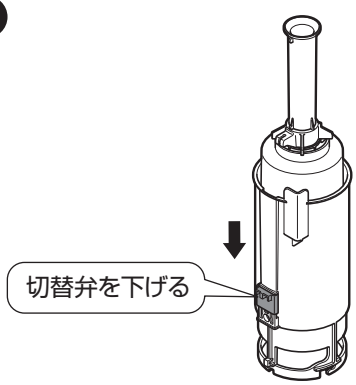


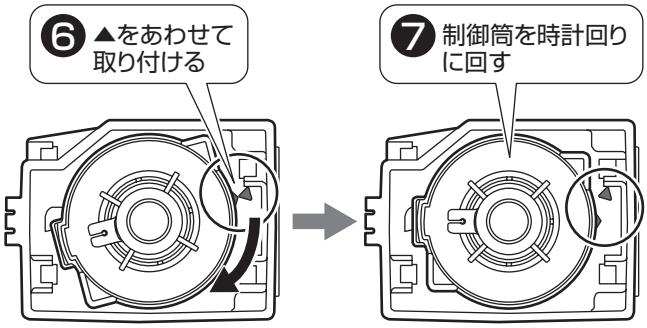


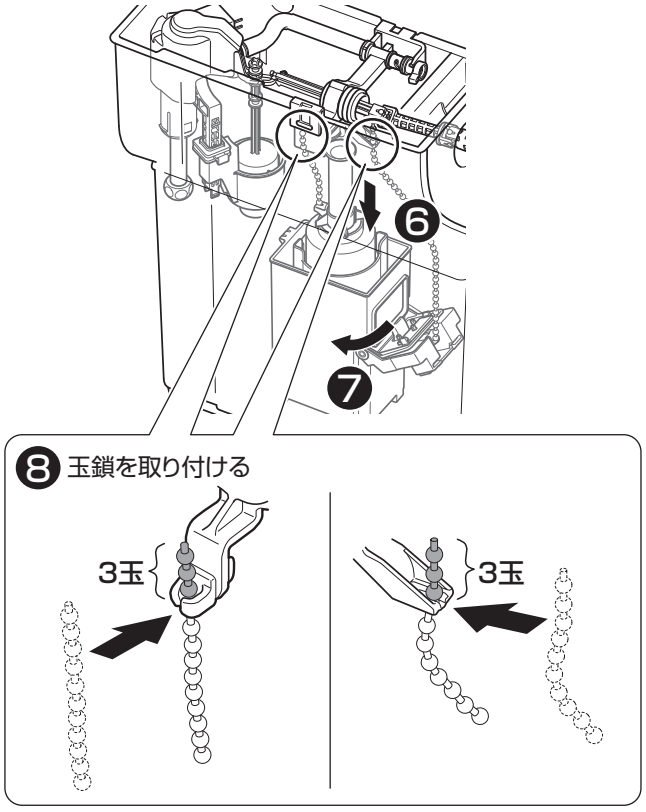
注　意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと

❺







正しく取り付けないと止水不良になります。

❾ カバーを元にもどす

❿ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

4 外観・固定部の確認

【外観が問題ないことを確認】

□取り付け忘れの器具がないか
□寸法が間違っていないか(奥行き・高さ・間口寸法)
□水平・垂直が正しくとれているか
□フレーム内部が露出していないか
(前板・フィラー・幅木が正しく取り付けられているか。)

【取付部の固定はゆるんでいないかを確認】

⚠ 警告

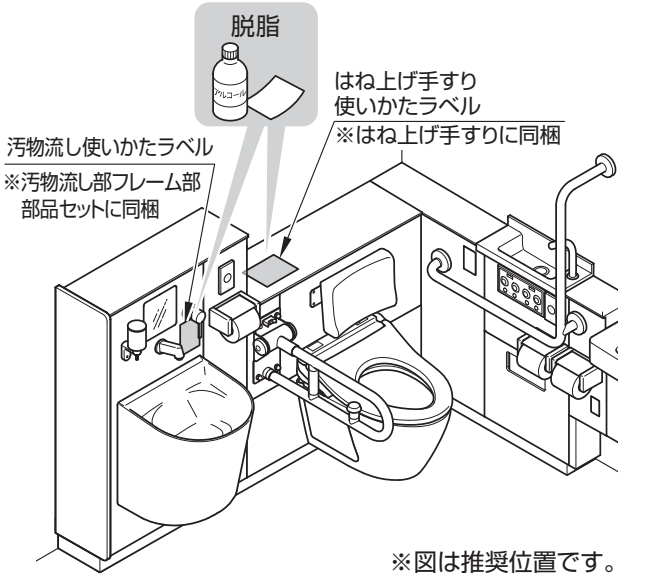
必ず守る

各部の固定・連結がゆるんでいないか確認する
器具が落下して使用される方のけがの原因となります

□甲板全体を強く押し付けて取り付ける
□手すりの固定がゆるい場合は、増し締めする
▶本施工説明書もしくは手すりの施工説明書参照

5 ラベルの張り付け

はね上げ手すりと汚物流しの使いかたラベルを見やすい場所に張り付けてください。



※図は推奨位置です。

注 意

ラベルの張り付けは、確実に行う
張り付けない場合は、確実にお客様にお渡しください。

【お引渡し前に】
取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

MEMO

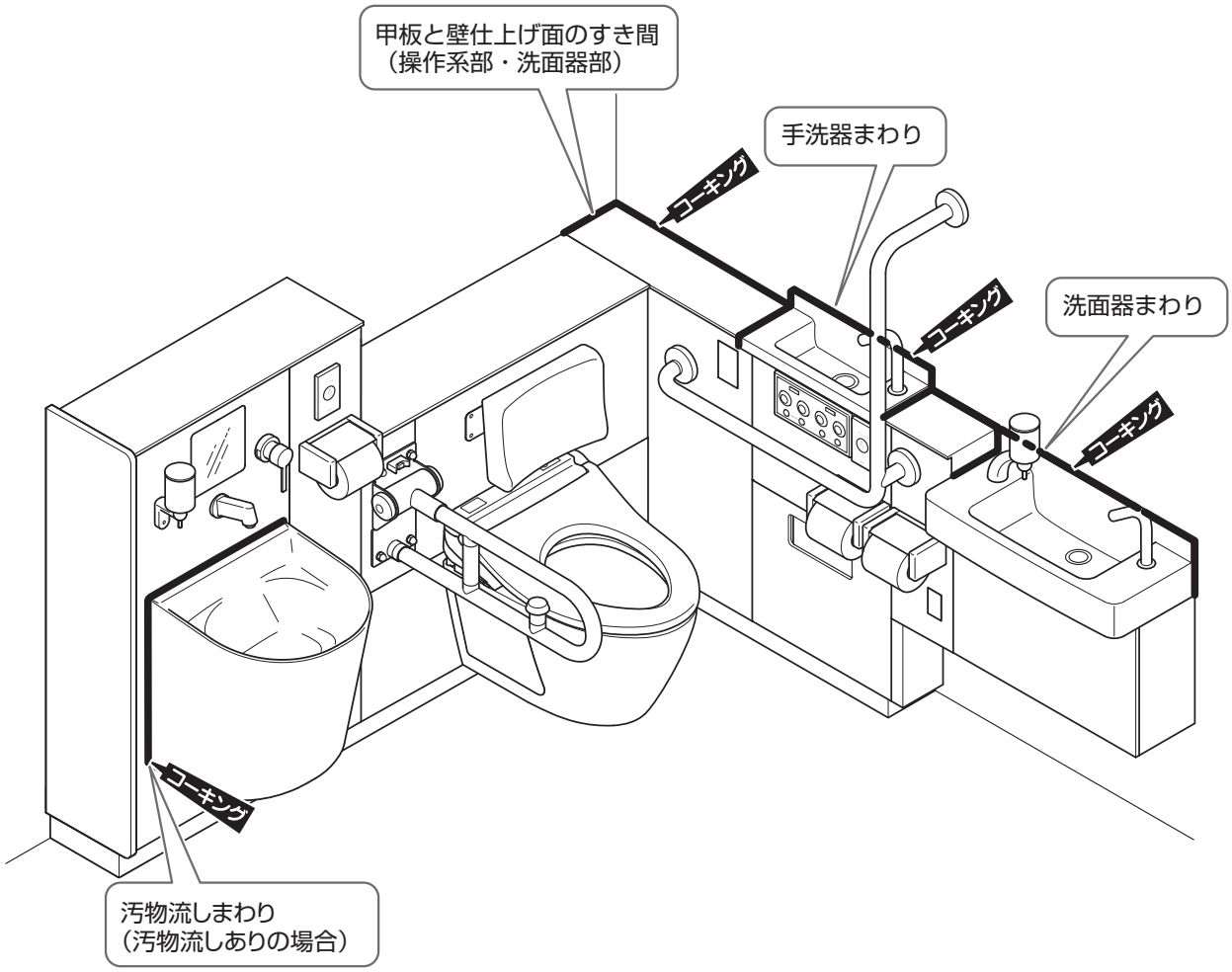
6 シリコーン系シール剤の塗布

操作系部・洗面器部甲板と壁仕上げ面のすき間や各器具類の周囲はシリコーンコーキングで仕上げることをおすすめします。サイドカバーのすき間が気になる場合も、サイドカバーの上面と前方縦面もシリコーンコーキングで仕上げることをおすすめします。シリコーンコーキングは別途手配してください。

注　意

大便器部・汚物流し部甲板と壁仕上げ面のすき間はシリコーン系シール剤を塗布しない

メンテナンスを行う際、点検口となるため塗布しないでください。



MEMO

工事店様へ

このたびはコンパクト多機能トイレパックを施工いただき、ありがとうございました。